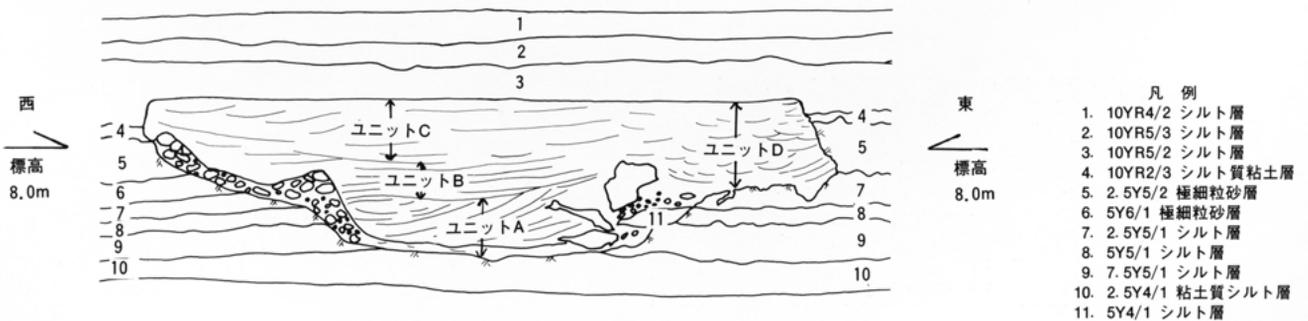


## 第4章 自然科学

### 第1節 大溝の堆積

田所遺跡では幅およそ8~10mの南北方向に延びる中世(鎌倉時代)の溝が検出されている。大溝を埋積する堆積物は基質に泥やシルトなどをほとんど含まない粗粒~細粒砂からなる。大溝の埋積過程を93I区の断面図をもとに堆積学的見地から検討を加えたい。

93I区では幅およそ4m、深さおよそ1mのチャンネル(溝を含めた流路一般を堆積学的にはチャンネル(channel)と呼ぶ。以下ではチャンネルを用いる)が検出された(第107図)。ほぼ水平に堆積するシルトや粘土質シルト層とは明瞭な境界面をもって接する。チャンネルの基底面には、径10cmほどの粘土やシルトの偽礫状を呈するブロックがみられる。埋積する砂は一様ではなく、4つのユニット(A~D)からなる。Aのユニットでは細粒~中粒砂からなり、平板状(tabular)の斜交層理が認められる。Bのユニットは細礫~粗粒砂からなる低角の平板状斜交層理がみられる。Cのユニットでも平板状斜交層理がみられるものの、砂の粒径は細粒~中粒とBのユニットよりも細かい。Dのユニットでは1セットが3~4cmの明瞭なトラフ斜交層理が確認される。また、トラフ状斜交層理は下位から上位へ規模が小さくなる。チャンネルの基底でみられる偽礫は、田所地域の沖積氾濫原上に新たにチャンネルができ、その初期の浸食マテリアルと推定できる。したがって、偽礫層はチャンネルのできる初期に形成されたラグ堆積物(cannel lag deposits)とみなせる。一般に、平板状斜交層理よりもトラフ斜交層理のほうが高流速のもとで発生する。このことからA~Cの砂層よりもDの砂層の堆積時のほうが、流速が速かったことがわかる。また、攻撃斜面(チャンネルの外側)にあたる基盤(平行に堆積するシルトなど)があまり削られていないことから、チャンネルは形成されてからほとんど側方に移動しなかったことを示す。人為的に流量等を規制されていたのかもしれない。ユニットDで、トラフ斜交層理の規模が下位から上位へ小さくなったのは、チャンネルの埋積が進んで急激に浅くなったことを示唆する。ユニットDの砂層形成時には複数のチャンネルをもっていたと推定される。



第107図 大溝SD01土層断面図

## 第2節 放射性炭素年代

93J区および94Ab区・94Ba区の遺構面より下位の堆積層序は、細礫混じりの粗粒～極粗粒砂層（1層）を基底として上位に緑～緑灰色腐植質粘土層（2層）、黒色～黒褐色腐植質粘土層（3層）、褐色シルト層（4層）の4つのユニットからなる。このうち褐色シルト層が主な遺物包含層となっている。93J区では2層上部あるいは3層下部付近より材片の集積がみられた。94Ab区および94Ba区でも、1層および2層中で木材を得ている。堆積物の形成年代を確認するため放射性炭素年代（<sup>14</sup>C年代）測定をおこなった。試料を採取した調査区および結果を第21表に示す。なお、測定はパリノ・サーヴェイ株式会社を通じて、学習院大学放射性炭素年代測定室に依頼した。

93J区の年代値は3320y. B. P. ～2340y. B. P. の範囲で3320～2940y. B. P. と3320y. B. P. ～2340y. B. P. と大きく2つの範囲に分かれることから、2層と3層の時期差が混在していると思われる。94Ab区、試料番号12の材が出土した同一層準からは縄文時代晩期の土器が出土している。材片は2660y. B. P. を示し、土器から推定される年代値とも調和的である。試料番号13～15は、細礫混じりの粗粒砂層中に埋積されていた木材である。年代値は3300y. B. P. ～3010y. B. P. であり近似している。

試料番号	調査区	堆積物	標高(m)	試料	Code No.	測定結果
1	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18028	2590±90 y.B.P. (640 B.C.)
2	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18029	2360±90 y.B.P. (410 B.C.)
3	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18030	2630±90 y.B.P. (680 B.C.)
4	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18031	2940±100 y.B.P. (990 B.C.)
5	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18032	3270±100 y.B.P. (1320 B.C.)
6	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18033	3320±100 y.B.P. (1370 B.C.)
7	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18034	2970±80 y.B.P. (1020 B.C.)
8	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18035	2540±100 y.B.P. (590 B.C.)
9	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18036	2340±100 y.B.P. (390 B.C.)
10	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18037	2360±90 y.B.P. (410 B.C.)
11	94Ab	緑灰色腐植質粘土層中	7.4	材	Gak-18831	3120±90 y.B.P. (1170 B.C.)
12	94Ab	緑灰色腐植質粘土層中	7.4	材	Gak-18832	2660±90 y.B.P. (710 B.C.)
13	94Ab	細礫混じり粗粒砂層中	6.5	材	Gak-18833	3300±90 y.B.P. (1350 B.C.)
14	94Ba	細礫混じり粗粒砂層中	7.8	材	Gak-18834	3100±100 y.B.P. (1150 B.C.)
15	94Ba	細礫混じり粗粒砂層中	7.9	材	Gak-18835	3010±80 y.B.P. (1060 B.C.)

第21表 放射性炭素年代測定結果表

### 第3節 花粉・珪藻・プラント・オパールからみた古環境

本章では花粉・珪藻・プラント・オパール微化石分析を通して、田所遺跡の当時の自然環境について考察を加えたいと思う。田所遺跡で採取した分析試料は、墳墓堂の周溝より採取したもの（92Gb区）と、大溝の検出されている調査区より採取したもの（94Ab区）がある。詳細を第22表に示す。各分析方法について以下に述べる。なお、94Ab区より採取した試料の分析はパリノ・サーヴェイ株式会社にお願した。

**珪藻分析** 試料の分析にあたって、乾燥重量1gをトールピーカーにとり過酸化水素水（35%）を加えて煮沸し、有機物の分解と粒子の分散をおこなった。岩片除去ののち、水洗を4～5回繰り返しながら同時に比重選別をおこなった。分離した試料を希釈し、マウント・メディア（和光純薬製）にて封入した。検鏡は1000倍の光学顕微鏡を使用し、各試料とも200個の珪藻殻を同定した。同定に際し、Krammer, K. & Lange-Bertalot, H. (1986・1988・1991a・1991b)を参考にした。

**花粉分析** 湿重約10gの試料について、HF処理、重液分離（ZnBr<sub>2</sub>：比重2.2）、アセトリシス処理、KOH処理の順に物理・化学処理を施し、花粉・孢子化石を分離・濃集する。処理後の残渣をグリセリンで封入しプレパラートを作成した後、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査しながら出現する種類（Taxa）の同定・計数をおこなう。また、イネ科花粉については、ノマルスキー微分干渉装置を使用し表面模様の観察をおこない、発芽装置の形態・大きさなどを考慮しながら栽培植物のイネ属と他のイネ科に同定区分する。結果は、同定・計数結果の一覧表として示す。

**植物珪酸体** 湿重5g前後の試料について、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W、250Khz、分間）、沈底法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理をおこない、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥する。乾燥後、プリュウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を近藤・佐藤（1986）の分類に基づいて同定・計数する。

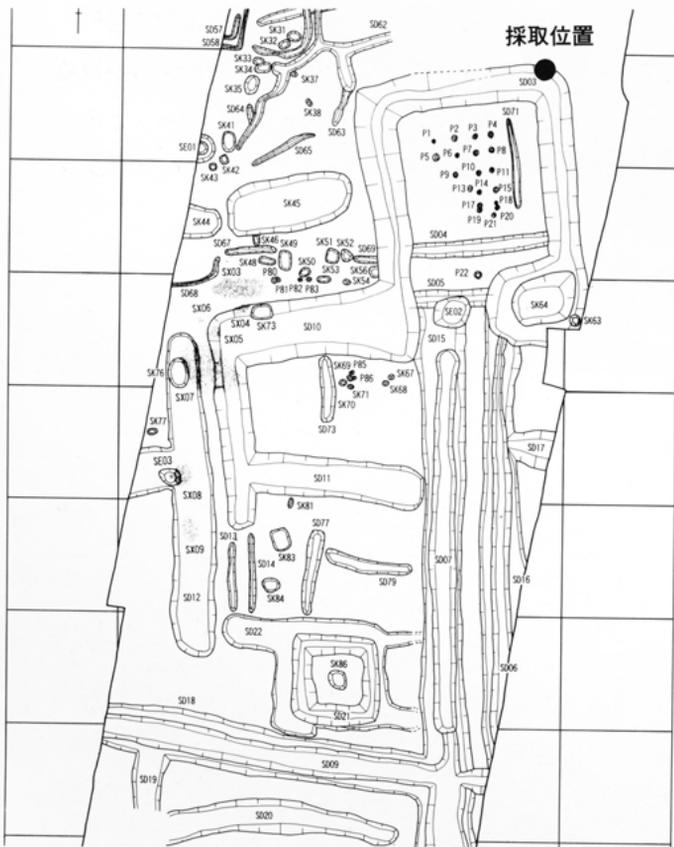
調査区	試料採取場所	主な遺構（遺物）	分析対象	分析目的	試料数	時期
92Gb区	墳墓堂を区画する溝 (SD27)	墳墓堂	珪藻	溝内の古環境	18	鎌倉時代
	墳墓堂を区画する溝 (SD27)	墳墓堂	花粉	溝周辺の古植生	16	鎌倉時代
94Ab区	調査区北側トレンチ	大溝	珪藻	流水環境	13	古代～中世
	調査区北側トレンチ	大溝	花粉	古植生	13	古代～中世
	調査区北側トレンチ	大溝	植物珪酸体	古植生および稲作状況	13	古代～中世

第22表 試料採取場所および分析対象

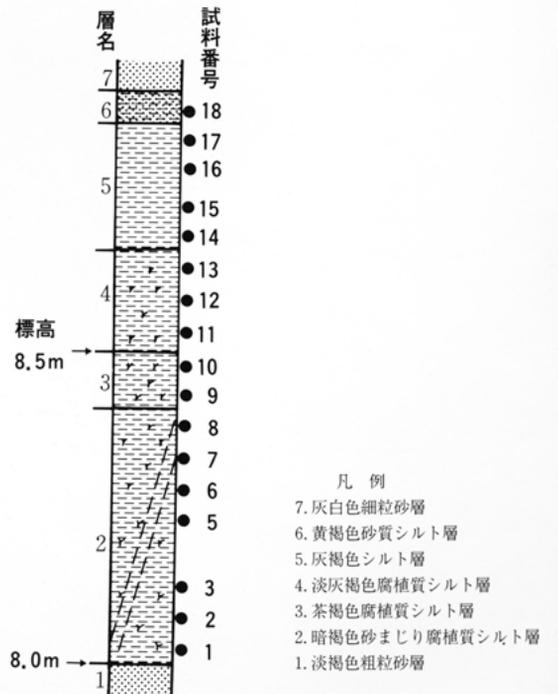
**墳墓堂周溝** 92Gb区では鎌倉時代の墳墓堂遺構が検出されている。ここでは調査区北壁において墳墓堂遺構の周溝SD03の北溝の堆積物を垂直的に試料採取し、18試料を得た（第108図、第109図）。珪藻、花粉の順に結果を報告する。

**珪藻分析** 試料全体（試料番号1～18）についてみると、試料中より出現した珪藻遺骸は22属90種（10変種を含む）であった。pHについては好酸性種と不定性種が、水流性については止水性種が、生態性については浮遊性種が、塩分については嫌塩性種が全層準を通じて優占した。特徴種としてpH不定性・好止水性・浮遊性・塩分不定性種の*Aulacoseira ambigua*が全体の42.9%を占め、圧倒的に多い。また、種までの同定が不可能な*Eunotia spp.*が4.6%、好酸性・流水不定性・付着生・嫌塩性種の*Eunotia lunaris*が4.3%、好酸性・好止水性・付着生・嫌塩性種の*Frustulia rhomboides*が3.9%を占める。珪藻の群集組成と出現頻度の特徴から、分析試料は下位よりⅠ・Ⅱ・Ⅲの3珪藻帯に区分され、Ⅱ帯はさらにⅡa帯、Ⅱb帯に分けられる（第112図）。以下に珪藻の群集組成の特徴を各帯ごとに記す。

Ⅰ帯（試料番号1～5）での出現種数は53種である。群集組成の特徴は、pHについては真・好酸性種が優占した。水流性については、*Aulacoseira ambigua*といった好止水性種の出現率が高かった。生態性では付着生種と底生種の出現率が高い。Ⅱ帯・Ⅲ帯と比較して浮遊性種の出現率が極端に少ないのが特徴である。塩分については嫌塩性種が優占した。



第108図 92Gb区試料採取位置図

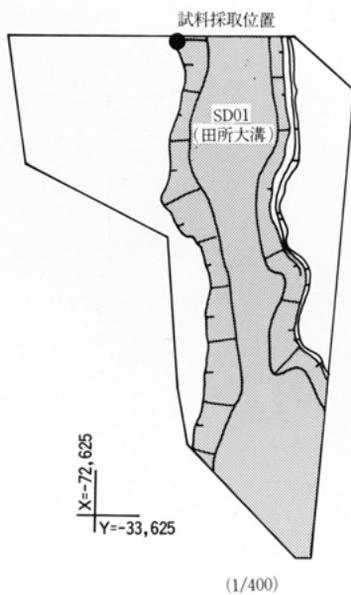


第109図 分析調査地点の柱状図

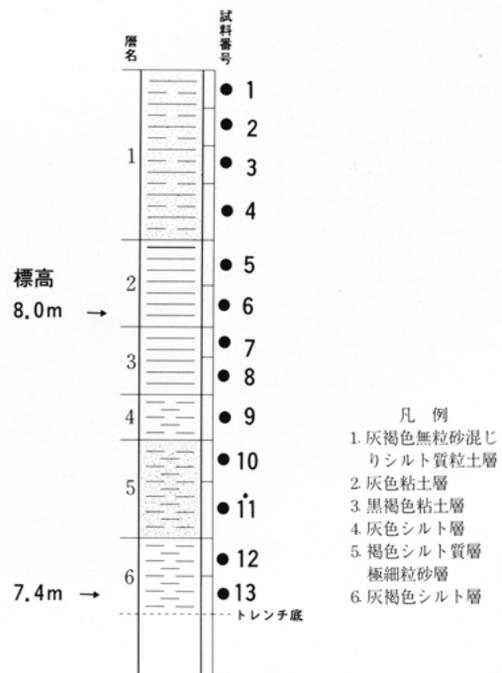
特徴種としては、好酸性・流水不定性・付着生・嫌塩性種の*Eunotia lunaris* (10.9%) および*Eunotia lunaris var. subarcuata* (8.4%) が19.3%を占めた。また、好酸性・付着生種の*Eunotia*属で全体の32.5%を占める。pH不定性・好止水性・付着生種の*Gomphonema gracile*が5.9%、pH不定性・好止水性・底生・嫌塩性種の*Neidium iridis*が5.1%、好酸性・流水不定性・底生種の*Pinnularia gibba*が7.8%を占め、特に*Pinnularia*属で全体の15.9%を占めた。また、*Tabellaria*属も12.1%を占め、この*Tabellaria*属の多産がI帯の特徴である。

II帯(試料番号6~14)での出現種数は49種である。群集組成の特徴は、pHについては不定性種および好酸性種が、水流性については真・好止水性種が、生態性では浮遊性種が圧倒的に多く、全体の60%以上を占める。塩分については不定性種と嫌塩性種が大部分を占める。II帯はさらにIIa帯、IIb帯に分けられる。それぞれの特徴について以下に述べる。

IIa帯(試料番号6~10)での出現種数は34種である。群集組成の特徴は、pHについては不定性種が占め、水流性については真・好止水性種が大部分を占める。生態性では浮遊性種が圧倒的に多く、底生種の割合がIIb帯に比べて若干少ない。塩分については不定性種が大部分を占めるが、IIb帯に比べて好塩性種が全くみられないこと、嫌塩性種の割合が少ないことで特徴づけられる。特徴種としては、pH不定性・好止水性・浮遊性・塩分不定性の*Aulacoseira ambigua*が全体の67.4%を占め、圧倒的に多い。ほかにpH不定性・流水不定性・付着生・塩分不定性の*Frustulia vulgaris*が5.7%、好酸性・流水不定性・付着生・嫌塩性種の*Eunotia lunaris*が3.1%、*Eunotia lunaris var. subarcuata*が3.1%を占め、*Eunotia*属では全体の8.9%を占める。また、pH不定性・好止水性・底生・嫌塩性種の*Neidium*



第110図 95Aa区、分析試料採取位置図



第111図 分析調査地点の柱状図

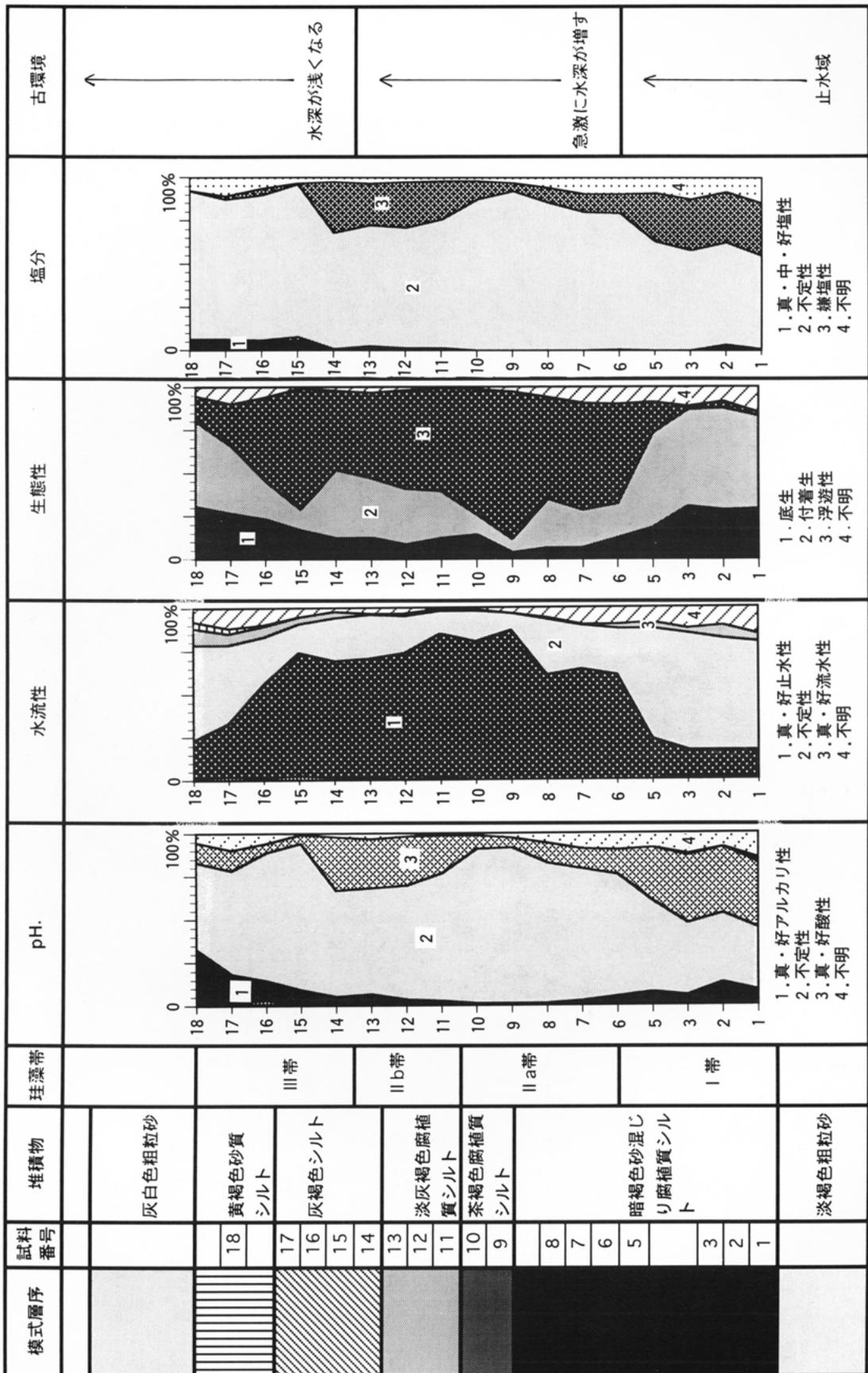
*iridis* (1.8%) がみられるのも本帯の特徴である。

Ⅱb帯(試料番号11~14)での出現種数は42種である。群集組成の特徴は、Ⅱa帯とほとんど同様であるが、pHにおける酸性種、生態性では底生種、塩分では嫌塩性種のそれぞれの増加傾向がⅡa帯との相違点である。特徴種としては、Ⅱa帯と同様にpH不定性・好止水性・浮遊性・塩分不定性の*Aulacoseira ambigua*が全体の52.9%を占め、圧倒的な多さを示すが、Ⅱa帯よりも若干割合は少なくなる。*Eunotia lunaris*や*Eunotia lunaris var. subarcuata*などの*Eunotia*属が全体の9.5%を占める。また、好酸性・好止水性・付着生・嫌塩性種の*Frustulia rhomboides* (16.4%)の出現でも特徴づけられる。

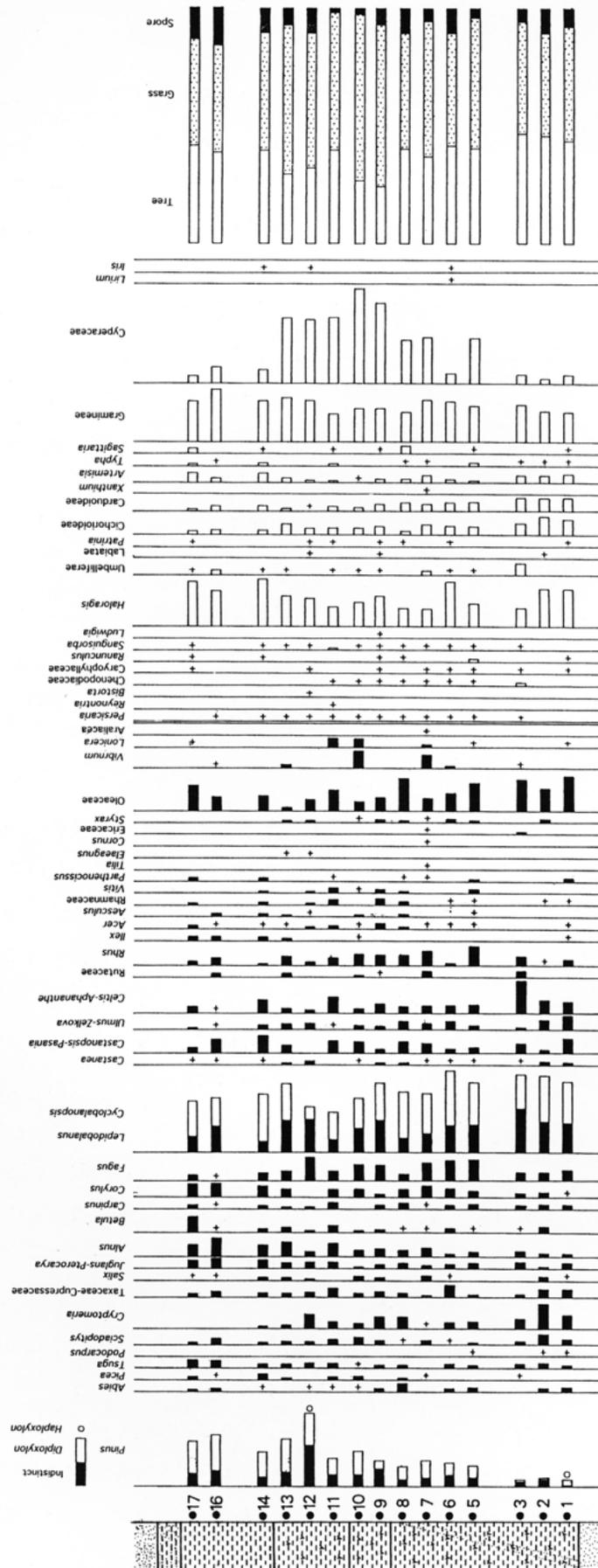
Ⅲ帯(試料番号15~18)での出現種数は53種である。群集組成の特徴は、pHについては真・好アルカリ性種が、水流性については不定性種および止水性種が、生態性については底生種と付着生種が、塩分については不定性種および好塩性種が大部分を占める。特徴種としては、本帯においてもpH不定性・好止水性・浮遊性・塩分不定性の*Aulacoseira ambigua*が全体の39.3%を占めるが、その割合はⅡ帯と比べると減少傾向にある。pH不定性・流水不定性・付着生・塩分不定性の*Frustulia vulgaris*が5.9%を占めるとともに、底生種の*Pinnularia*属が12.5%を占める。ほかにpH不定性・好流水性・付着生種の*Cymbella minuta*が3%、好アルカリ性・底生・中塩性種の*Nitzschia obtusa*が3.3%、好アルカリ性・付着生・中塩性種の*Rhopalodia gibberula*が2.3%、好アルカリ性・流水不定性・付着生の*Synedra ulna*が2.5%と割合は少ないものの、本種がみられることが本帯の特徴である。

**花粉分析** 花粉分析は試料番号1~17(試料番号4・15・18を除く)の計15試料についておこなった。結果を第113図に示す。全般にイネ科やカヤツリグサ科などの草本花粉が木本花粉より多い傾向を示した。木本花粉については、針葉樹ではマツ属やスギ属が、広葉樹ではコナラ亜属、エノキ属が卓越した。草本花粉については、イネ科やアリノトウグサ科が試料全般にみられるのにもない、ヨモギ属、タンポポ亜科、キク亜科などがみられる。また、試料番号7~13でカヤツリグサ科が急激に増加するのも特徴である。ほかにガマ属・フサモ属・オモダカ属・アヤメ属といった水生植物も確認される。

**95Aa区 珪藻分析** 結果を第114図に示す。珪藻化石は5層の試料番号10、2層の試料番号6、1層の試料番号4~1の6試料から産出するが、それ以外の7試料(試料番号13~11, 9~7, 5)は非常に少ない。また、珪藻殻も壊れたり溶解しているものがほとんどである。産出種は全て淡水生種からなり、産出分類群数は28属162分類群である。完形殻の出現率は1層の試料番号4~1では60~70%と高いが、それ以外は5~50%と低い。淡水生種の生態性(塩類、pH、流水に対する適応能)の特徴は、試料番号10は貧塩不定性種(少量の塩分があってもこれに耐えられるもの)、pH不定性種と真・好アルカリ性種(中性および弱アルカリ性水域を最適とするもの)、流水性種(流水に特徴的なもの)・流水不定性種(流水にも止水にも認められるもの)・止水性種(止水に特徴的なもの)が優占あるいは多産する。試料番号6は3適応性とも不明なものが多い。試料番号4~1では互いに生態性が近似しており、貧塩-不定性種が優占し、pH不定性種と真・好アルカリ性種、流水不定



第112図 92Gb区SD27珪藻分析グラフ図



第113図 92Gb区SD27花粉化石群集の層位分布図

性種と真・好止水性種とで特徴づけられる。次に産出種の特徴を述べる。試料番号10は流水性の*Gomphonema sumatrense*、流水不定性の*Cymbella silesiaca*、止水性の*Aulacoseira ambigua*、*Fragilaria construens* fo. *venter*、陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保った好気的環境に耐性のある陸生珪藻の*Hantzschia amphioxys*、*Navicula mutica*などが産出する。試料番号6は流水不定性の*Amphora ovalis* var. *affinis*、*Rhopalodia gibberula*、止水性の*Aulacoseira ambigua*、化石の保存が悪く属の段階までしか同定できない*Pinnularia*属、*Diploneis*属、*Stauroneis*属が多産する。試料番号4～1は群集も近似しており流水性の*Navicula elginensis* var. *neglecta*、流水不定性の*Cymbella silesiaca*、*Fragilaria pinnata*、*Gomphonema parvulum*、*Rhopalodia gibberula*、止水性の*Aulacoseira ambigua*、*Fragilaria construens* fo. *venter*、*Fragilaria exigua*などが多産する。

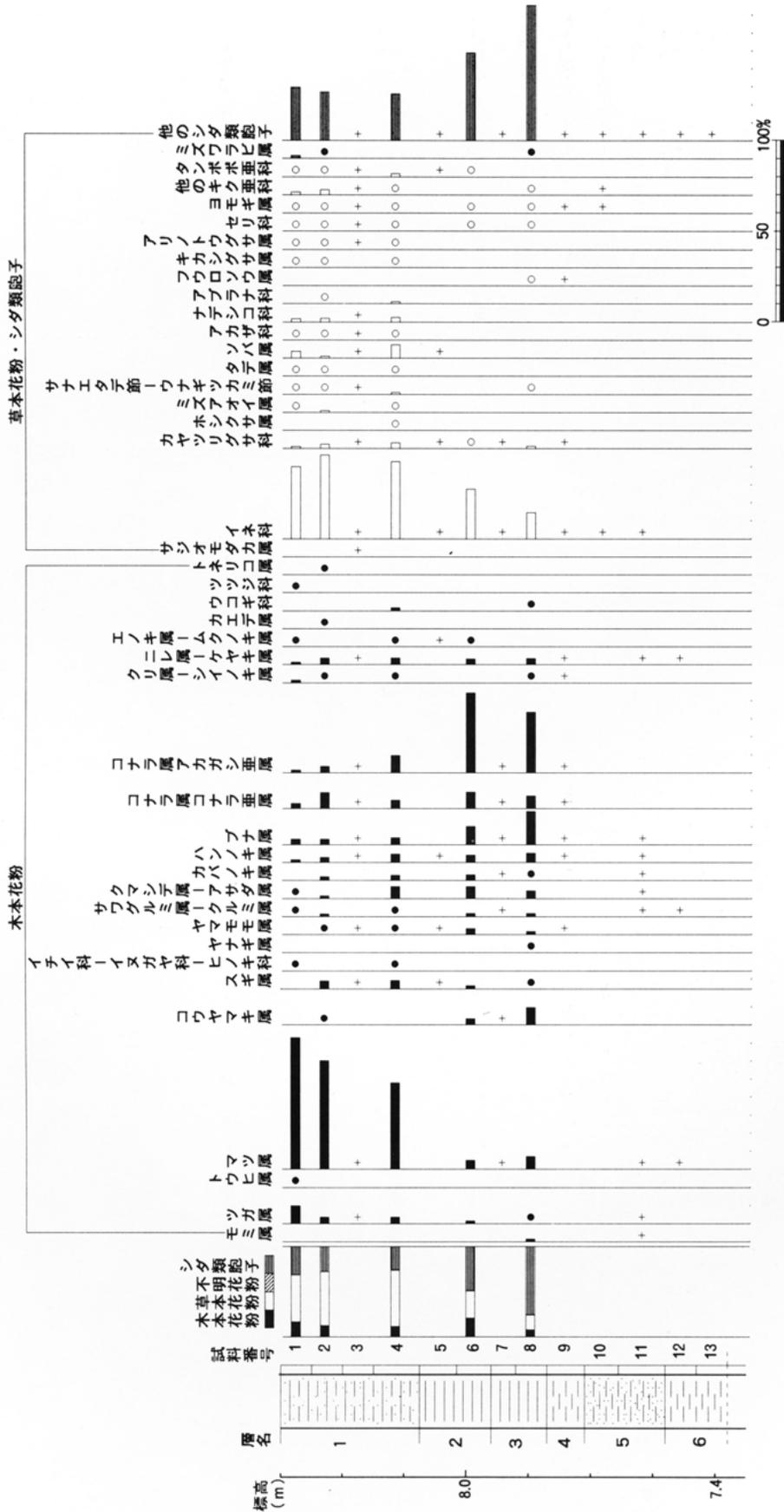
**花粉分析** 結果を第28表、第115図に示す。試料によって化石の保存状態や群集組成は異なる。以下に各試料で花粉化石群集について述べる。

試料番号13～9は全般に花粉・胞子化石の保存状態が悪く検出数も少ない。試料番号9ではシダ類胞子が多く検出される。試料番号6～8では花粉・胞子化石の保存状態は試料番号7を除いてほぼ良好であったが、試料中に含まれる花粉化石の数は少ない。木本花粉のしめる割合は10～20%と低く、シダ類胞子の割合が高い。木本花粉ではコナラ属アカガシ亜属が多産し、ブナ属、コナラ属コナラ亜属などを伴出する。草本花粉はイネ科が多産しカヤツリグサ科などを伴う。試料番号5～1では花粉・胞子化石の保存状態は試料番号5と3を除いておおむね良好であったが、試料中に含まれる花粉化石の数は少ない。木本花粉の占める割合は10～15%と低く、草本花粉の割合が50～60%と高い。木本花粉ではマツ属が非常に卓越し、前時期に多産していたアカガシ亜属は急激に減少する。コナラ属コナラ亜属、ニレ属一ケヤキ属などを伴う。針葉樹のツガ属、スギ属などが微増する。草本花粉は検出される種類数が多くなる。イネ科が多産し、ナデシコ科、カヤツリグサ科などを伴う。水生植物のミズアオイ属、サジオモダカ属、ミズワラビ属などが随伴あるいは希に産出する。また、栽培植物のソバ属が各試料から高率に検出される。

**植物珪酸体** 結果を第29表、第116図に示す。各地点の試料からは植物珪酸体が検出されるが、保存状態の悪いものが多く、表面に多数の小孔（溶食痕）の認められるものがある。

試料番号13～9（6～4層）までは検出個体数が少なく、タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族が認められるにすぎない。試料番号8、7、6（3層・2層下部）ではイネ属が出現し、特に機動細胞珪酸体の出現率が高い。このほか、ヨシ属とウシクサ族の産出が目立ち、タケ亜科やイチゴツナギ亜科も認められる。試料番号5～1（2層上部・1層）でも、イネ科機動細胞珪酸体の出現率が高い。しかし、ヨシ属の割合が低くなり、タケ亜科が増加する。このほか、下位と同様にウシクサ族やイチゴツナギ亜科が認められる。また、栽培種か否かの判別がつかないものの、オオムギ族も検出される。





分析調査地点の花粉化石群集  
出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉は総数より不明花粉を除く数を基数として  
百分率で算出した。なお、○●は1%未満、+は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

第115図 95Aa区花粉化石群集の分布図



**古環境変遷** 珪藻、花粉分析および堆積物の層相より推定される、鎌倉時代の墳墓堂遺構を区画する周溝SD03の北溝の埋積過程について述べる。

珪藻の群集組成からは非常に明確な変化がみられ、特にⅠ帯（試料番号1～5）からⅡ帯（試料番号6～14）にかけて急激に環境の変化が起こっている。試料番号5では真・好止水性種および浮遊性種が20%であったのに対し、試料番号6では真・好止水性種および浮遊性種がおよそ60%と3倍近い増加を示す。これは、溝の中に徐々に水が入り込み水深が増したのではなく、短期間に一気に水深が増加し止水環境となったことを示すものである。試料番号5と6の間に人為的な関与が示唆される。

Ⅱ帯（試料番号6～14）では、*Aulacoseira ambigua*の止水性かつ浮遊性の種群がみられ、圧倒的な出現率（60%以上）を占めた。このことは、Ⅱ帯を構成する堆積物である下位の砂混じり腐植質シルト（ユニット2）中部層から灰褐色シルト（ユニット6）下部層が堆積する間、溝の中は止水（滞水）域で水深のある水域であったことを示すものである。Ⅱ帯はさらにⅡa帯（試料番号6～10）、Ⅱb帯（試料番号11～14）の2珪藻帯に分けることができた。Ⅱb帯ではⅡa帯と比較すると、真・好止水性種の増加（70%以上）、底生種の増加および浮遊性種の減少傾向が確認された。Ⅱb帯を形成する堆積物が埋積する過程で徐々に水深が浅くなっていったことがうかがえる。その傾向はⅢ帯（試料番号15～18）の形成時まで続く。底生種が増加傾向を示す事実がそれを物語っている。

花粉分析ではイネ科やカヤツリグサ科といった草本花粉の割合が、マツ属やスギ属といった木本花粉より多い。この事実から、墳墓堂周辺はかなり開けた裸地的な環境であったことを示す。珪藻分析では試料番号6から14において水深のある止水域が推定されるが、花粉分析においてもガマ属・セリ科・オモダカ属といった水生植物が確認されている。溝の中にはある深さをもって水が溜まり、水生植物が繁茂していたことがうかがえる。また、珪藻分析において止水環境を明確に示した層準の試料から、草本花粉（特にカヤツリグサ科）の増加が確認されるのは興味深い。溝は凹地であり滞水域であったため、溝の周辺に繁茂する草本花粉がより集積したものと思われる。ユリ属やアヤメ属の花粉も割合は少ないものの確認された。墳墓堂に献花されたものか、溝の周辺に繁茂していたものかはわからないが、興味ある事実である。

以上の結果から、墳墓堂に廻らした溝は水深のある止水（滞水）域であり、周辺はかなり開けた裸地的な環境であったことがわかる。また、溝の水は短期間に水深を増し、滞水域となった事実が指摘でき、溝の中にはガマ属・オモダカ属・セリ科などの水生植物が繁茂していたことがわかった。

#### 95Aa区

本遺跡周辺は、犬山扇状地の末端と木曾川の三角州帯の間に位置し、自然堤防や後背湿地がモザイク状に配列した複雑な地形が形成されている（鬼頭、1996）。本遺跡における微化石の産状も木曾川の広い集水域の状況を反映していると考えられる。6層～2層において複数の水域環境を指標する珪藻化石がみられるのは、このことを示唆している。特に、5層上部は*Gomphonema sumatorensis*を始めとする流水性種、*Cymbella silesiaca*などの流水不定性種、*Aulacoseira ambigua*などの止水性種、それに陸上の好気的環境に耐性のあ

る陸生珪藻など様々な環境を指標する種が混在する、いわゆる混合群集の特徴がみられる。これは、様々な場所から本地点に堆積物が運搬され堆積したことを示している。

一方、花粉化石および植物珪酸体の産状は、6層～4層では検出個体数が少なかった。前述の堆積環境を考慮すれば、堆積速度が速いために堆積物中に取り込まれる微化石が少なかった可能性が高い。なお、少ないながらも産出した植物珪酸体の種類から、流域には少なくともタケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族などが生育していたと思われる。

3層～2層下部にかけては、木本類はコナラ属アカガシ亜属が多産する。アカガシ亜属は、暖温帯性常緑広葉樹林の主要な構成要素である。随伴するコナラ属コナラ亜属は暖温帯から冷温帯に分布する落葉広葉樹で、ブナ属は冷温帯の優占種である。また、サワグルミ属-クルミ属、ハンノキ属、カエデ属などは冷温帯で河畔林や渓谷林を形成する要素である。堆積環境を考慮すれば、この時期にこれらで構成される植生が成立していたと思われる。2層上部から1層では、マツ属（そのほとんどが複雑管束亜属）が多産する。マツ属複雑管束亜属、暖温帯から冷温帯に分布し、陽樹であることからしばしば二次林を形成する。これに随伴して微増するツガ属やスギ属は、暖温帯から冷温帯への移行帯またはその中間帯に発達する中間温帯林の構成要素を含む種類であり、後背の山地に分布していた可能性がある。近接する大毛沖遺跡における花粉分析結果では、9世紀～12・13世紀に埋積した旧流路でスギ属、マツ属、コナラ亜属、アカガシ亜属などが高い割合を占める組成と、中世の遺物包含層でマツ属複雑管束亜属が卓越する組成が得られている（鬼頭ほか、1996）。2層上部から1層での花粉化石群集組成は、大毛沖遺跡の中世の結果と類似する。なお、2層上部から1層ではイネ科の出現率が高くなり、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、サジオモダカ属、ミズワラビ属などの湿潤な場所に生育していた可能性がある。また、ウシクサ族やタケ亜科、イチゴツナギ亜科などのイネ科植物も周辺に生育していたと思われる。

また、3層からはイネ属の植物珪酸体が出現し、上位にかけて連続して検出された。特に、機動細胞珪酸体の出現率は高く、現在のイナワラ堆肥連用（8年間、500kg/10a/年）の水田土壌表層でイネ属機動細胞珪酸体の出現率が16%を示す調査例（近藤、1988）と比較しても、高い出現率である。そのため、3層以浅で稲作がおこなわれた公算が強い。1層の珪藻化石の産状が富栄養沼沢地の検鏡を示唆することやヨシ属の産出が目立つことを考慮すれば、湿潤な場所であったことがうかがえ、水田稲作がおこなわれた可能性が考えられる。このほか、2層上部と1層からソバ属の花粉化石が高率に検出されている。ソバは古い時代に日本に渡来してきた栽培植物で、花粉生産量の少ない虫媒花であることから、花粉が検鏡された地点近くに母植物が存在していた可能性は高い。立地を考慮すれば、ソバは本地点に近い微高地上で栽培されていたことが示唆される。また、検出されたオオムギ族が栽培種であれば、ムギ栽培の可能性もある。

（鬼頭 剛・堀木真美子・尾崎和美）

## 文 献

- 安藤一男, 1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境への応用, 東北地理, 42, 73-88.
- Asai, K. & Watanabe, T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa, Diatom, 10, 35-47.
- Hustedt, F., 1927-1966, Die Kieselalgen Deutschland, Osterreichs und der Schweiz unter Berucksichtigung der Obrigen Lander Europas sowie der angrenzenden Meeresgebiete. Kryptogamen-Flora von Deutschland, Teil 1 ~ 3, Leipzig, W. Deutschland, 920p., 845p., 856p.
- 伊藤良永・堀内誠示, 1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用, 珪藻学会誌, 6, 23-45.
- 鬼頭 剛, 1996, 第4章科学分析. 北道手遺跡, (財)愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第67集, 72-73.
- 鬼頭 剛・堀木真美子・尾崎和美, 1996, 第5章自然科学, 第3節生活環境. (財)愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第66集, 大毛沖遺跡, (財)愛知県埋蔵文化財センター, 160-184.
- 近藤鍊三, 1988, 十二遺跡の植物珪酸体分析, 鋳師屋遺跡群十二遺跡-長野県佐久郡御代田町十二遺跡発掘調査報告書, 御代田町教育委員会, 377-383.
- 近藤鍊三・佐瀬 隆, 1986, 植物珪酸体分析, その特性と応用, 第四紀研究, 25, 31-64.
- Krammer, K., & H. Lange-Bertalot., 1986, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2 (1), Gustav Fischer Verlag, 876p.
- Krammer, K., & H. Lange-Bertalot., 1988, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2 (2), Gustav Fischer Verlag, 536p.
- Krammer, K., & H. Lange-Bertalot., 1991a, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2 (3), Gustav Fischer Verlag, 230p.
- Krammer, K., & H. Lange-Bertalot., 1991b, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2 (4), Gustav Fischer Verlag, 248p.





種 類	生 態 性			環 境	指 標 種												
	塩分	pH	流水		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
Achnanthes coarctata (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Achnanthes crenulata Grunow	Ogh-hil	al-bi	l-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Achnanthes inflata (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Achnanthes japonica H. Kobayasi	Ogh-ind	al-il	r-bi	J, T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Achnanthes lapidosa Krasske	Ogh-ind	ac-il	ind	T	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Achnanthes minutissima Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Achnanthes spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
Amphora ovalis var. affinis (Kuetz.)V. Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	U	6	7	2	5	1	14	-	-	-	4	-	-	-
Anomoeoneis gomphonemacea (Grun.)H. Kobayasi	Ogh-ind	ac-il	ind		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Anomoeoneis vitrea (Grun.)Ross	Ogh-hob	ac-il	l-ph	T	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Aulacoseira ambigua (Grun.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N	20	16	4	4	-	5	1	-	-	10	-	-	-
Aulacoseira italica (Ehr.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	1	2	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
Aulacoseira italica var. valida (Grun.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph		1	3	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Caloneis aerophila Bock	Ogh-ind	al-il	ind	RA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Caloneis bacillum (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Caloneis lauta Carter & Bailey-Watts	Ogh-ind	ind	ind		-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Caloneis leptosoma Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	1	-	-	1	-	-	1	-	-	2	-	-	-
Caloneis schumanniana (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	l-bi		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Caloneis sillicula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		1	1	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Caloneis sillicula var. minuta (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Caloneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
Ceratoneis arcus Kuetzing	Ogh-hob	ind	r-bi	K, T	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Cocconeis placentula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	1
Cocconeis placentula var. euglypta (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Cocconeis placentula var. lineata (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	4
Cocconeis spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
Craticula ambigua (Ehr.)D. G. Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Craticula halophila (Gran. ex V. Heurck)D. G. Mann	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Cymbella amphioxys (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	ind	l-ph		2	4	4	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Cymbella aspera (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O, T	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Cymbella cuspidata Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind		1	-	1	-	-	5	2	-	-	-	-	-	-
Cymbella gracilis (Ehr.)Kuetzing	Ogh-ind	ind	l-ph	T	2	1	2	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Cymbella heteropleura var. minor Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Cymbella japonica Reichelt	Ogh-unk	unk	unk	T	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
Cymbella mesiana Cholnoky	Ogh-ind	al-bi	l-bi	O	-	-	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Cymbella naviculiformis Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	2	1	1	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-
Cymbella perpusilla A. Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph		4	1	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	11	5	15	23	1	-	-	-	-	12	-	-	-
Cymbella sinuata Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.)V. Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
Cymbella tumida var. gracilis Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Cymbella turgidula var. nipponica Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	-	-	-	1	1	-	-	2	-	-	4
Cymbella spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-	1	1	4	-	-	1	-	-	1
Diatoma hyemale var. mesodon (Ehr.)Kirchner	Ogh-ind	al-il	r-bi	K, T	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Diploneis ovalis (Hilse)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		-	3	-	9	-	1	-	-	-	3	-	-	-
Diploneis parma Cleve	Ogh-ind	ind	ind		1	5	1	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-
Diploneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	1	8	4	5	1	-	-	-	-
Epithemia adnata (Kuetz.)Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind		-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
Epithemia sorex Kuetzing	Ogh-ind	al-bi	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Epithemia turgida (Ehr.)Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
Epithemis spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-
Eunotia biseriatioides H. Kobayasi	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3
Eunotia incisa W. Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Eunotia monodon var. asiatica Skvortzow	Ogh-hob	ac-il	ind		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	3	1	3	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Eunotia pectinalis var. undulata (Ralfs)Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	1	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-
Fragilaria brevistriata Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	8	5	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Fragilaria capucina var. mesolepta (Rabh.)Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Fragilaria construens (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	12	10	3	4	-	-	-	-	-	3	-	-	-
Fragilaria construens fo. venter (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	12	26	12	5	-	1	-	-	-	9	-	-	-
Fragilaria exigua Grunow	Ogh-ind	ind	l-ph		11	30	37	4	-	-	-	-	-	3	-	-	-
Fragilaria lapponica Grunow	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Fragilaria parasitica (W. Smith)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Fragilaria pinnata Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	S	19	14	11	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Fragilaria pinnata var. lancetula (Schum.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Frustulia rhomboides var. saxonica (Rabh.)De Toni	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Gomphonema acuminatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Gomphonema angustatum (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
Gomphonema augur var. turris (Ehr.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Gomphonema christenseni Lowe et Kociolek	Ogh-unk	unk	unk	T	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	3
Gomphonema clevei Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	1
Gomphonema clevei var. inaequilongum H. Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-ph		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Gomphonema contrarurris Lange-B. & Reichardt	Ogh-ind	al-il	l-ph		1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第25表 95Aa区珪藻分析結果表(1)

種 類	生 態 性			環 境 指標種													
	塩分	pH	流水		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O, U	1	1	4	1	-	2	-	-	2	-	-	1	
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	8	6	19	15	-	-	-	-	5	-	-	1	
Gomphonema parvulum var. lagenula (Kuetzing)Frenguelli	Ogh-ind	ind	r-ph	S	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
Gomphonema pseudoaugur Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
Gomphonema pseudosphaerophorum H. Kobayasi	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Gomphonema punilum (Grun.)Reichardt & Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	-	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
Gomphonema sphaerophorum Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	T	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
Gomphonema subtile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Gomphonema sumatrense Fricke	Ogh-ind	ind	r-bi	J	-	-	1	-	-	1	1	-	17	2	-	4	
Gomphonema truncatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	1	-	-	2	1	2	-	-	1	-	-	-	
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, U	1	-	-	2	-	-	1	-	5	-	-	1	
Melosira varians Agardh	Ogh-hil	al-bi	r-ph	K, U	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
Navicula americana Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
Navicula bacillum Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Navicula bryophila Boye-Petersen	Ogh-ind	al-il	ind	RI	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Navicula cohnii (Hilse)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
Navicula confervacea (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	RB, S	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, T	-	-	1	2	-	-	-	-	2	-	-	-	
Navicula cryptocephala Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
Navicula difficillima Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
Navicula elginensis (Greg.)Ralfs	Ogh-ind	al-il	ind	O, U	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Navicula elginensis var. cuneata H. Kobayasi	Ogh-ind	al-il	ind	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.)Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	15	15	8	12	-	-	-	-	4	-	-	-	
Navicula kotschyi Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
Navicula laevissima Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	-	1	1	5	5	-	-	-	-	3	-	-	-	
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA, S	2	2	2	4	-	-	-	-	6	-	-	-	
Navicula plausibilis Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Navicula pseudolanceolata Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
Navicula pupula Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	S	5	4	6	5	-	-	-	-	6	-	-	-	
Navicula pupula var. capitata Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	S	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
Navicula radiosa Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Navicula radiosa fo. nipponica Skvortzow	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
Navicula viridula (Kuetz.)Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, U	3	2	2	2	-	-	-	-	2	-	-	-	
Navicula viridula var. rostellata (Kuetz.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, U	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	
Neidium affine (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ind	l-bi	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
Neidium alpinum Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	RA	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
Neidium ampliatum (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	-	2	-	1	2	-	-	-	-	2	-	-	-	
Neidium iridis (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi	O	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
Neidium productum (W. Smith)Cleve	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
Neidium spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
Nitzschia debilis (Arnott)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB, U	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
Nitzschia frustulum (Kuetz.)Grunow	Ogh-hil	al-bi	ind	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Nitzschia nana Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RB, S	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
Nitzschia perminuta (Grun.)Peragallo	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	
Nitzschia tubicola Grunow	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
Nitzschia spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
Pinnularia acrosphaeria W. Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	1	1	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia acuminata W. Smith	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	1	-	-	2	1	2	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia appendiculata (Ag.)Cleve	Ogh-hob	ind	ind	RB	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia braunii (Grun.)Cleve	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
Pinnularia brebissonii (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	-	1	2	2	-	-	-	-	1	-	-	1	
Pinnularia brevicostata Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia brevicostata var. sumatrana Hustedt	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia divergens W. Smith	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia divergens var. elliptica (Grun.)Cleve	Ogh-hob	ind	ind	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	1	2	6	14	-	-	-	-	3	-	-	-	
Pinnularia gibba var. dissimilis H. Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	ind	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia gibba var. linearis Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind	-	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Pinnularia gibba var. parva (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	ac-il	ind	-	3	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia interrupta W. Smith	Ogh-ind	ac-il	ind	S	1	-	2	7	-	-	-	-	2	-	-	-	
Pinnularia macilenta (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia major Kuetzing	Ogh-ind	ac-il	l-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
Pinnularia mesolepta (Ehr.)W. Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia microstauron (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ind	ind	S	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	
Pinnularia nodosa Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	
Pinnularia ornata H. Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia schoenfelderi Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	1	-	-	1	-	-	3	-	-	-	
Pinnularia similis Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia stomatophora (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia streptoraphe Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB, S	-	2	3	4	-	-	-	-	1	-	-	-	
Pinnularia substomatophora Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia viridiformis Krammer	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	

第26表 95Aa区珪藻分析結果表(2)

種 類	生 態 性			環 境 指標種	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13												
	塩分	pH	流水														
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	0	2	1	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Pinnularia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	4	3	1	6	18	8	5	1	7	1	-	-
<i>Rhoicosphenia abbreviata</i> (Ag.) Lange-Bertalot	Ogh-hil	al-il	r-ph	K, T	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-
<i>Rhopalodia gibba</i> (Ehr.) O. Muller	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.) O. Muller	Ogh-hil	al-il	ind		13	10	6	5	-	8	6	1	-	5	-	-	1
<i>Stauroneis acuta</i> W. Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis anceps</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	-	2	1	1	-	1	-	-	-	2	-	-	-
<i>Stauroneis anceps</i> var. <i>siberica</i> Grunow	Ogh-ind	ind	ind		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis kriegeri</i> Patrick	Ogh-ind	ind	unk	T	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis legumen</i> var. <i>elliptica</i> H. Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis legumen</i> var. <i>nipponica</i> (Skv.) H. Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis nobilis</i> Schumann	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis obtusa</i> Lagerst	Ogh-ind	ind	ind	RB	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	0	4	1	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> fo. <i>gracilis</i> (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	ind	l-ph	0	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> var. <i>hattorii</i> Tsumura	Ogh-ind	ind	ind	0	1	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> var. <i>signata</i> Meister	Ogh-ind	ind	ind		-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	5	3	2	-	-	-	-	-
<i>Surirella angusta</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-bi	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Surirella ovata</i> var. <i>pinnata</i> (W. Smith) Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Synedra ulna</i> (Kuetz.) Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	2
<i>Tabellaria fenestrata</i> (Lyngb.) Kuetzing	Ogh-ind	ac-il	l-bi	O, T	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Tabellaria flocculosa</i> (Roth) Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-bi	T	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
海水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海水-汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
淡水生種合計					214	212	219	206	17	101	33	22	2	203	7	1	39
珪藻化石総数					214	212	219	206	17	101	33	22	2	203	7	1	39

凡例

- |                     |                    |                   |
|---------------------|--------------------|-------------------|
| H. R. : 塩分濃度に対する適応性 | pH: 水素イオン濃度に対する適応性 | C. R. : 流水に対する適応性 |
| Ogh-hil: 貧塩好塩性種     | al-bi: 真7わり性種      | l-bi: 真止水性種       |
| Ogh-ind: 貧塩不定性種     | al-il: 好7わり性種      | l-ph: 好止水性種       |
| Ogh-hob: 貧塩嫌塩性種     | ind : pH不定性種       | ind : 流水不定性種      |
| Ogh-unk: 貧塩不明種      | ac-il: 好酸性種        | r-ph: 好流水性種       |
|                     | ac-bi: 真酸性種        | r-bi: 真流水性種       |
|                     | unk : pH不明種        | unk : 流水不明種       |

環境指標種

- J: 上流性河川指標種 K: 中~下流性河川指標種 O: 沼沢湿地付着生種  
 S: 好汚濁性種 U: 広適応性種 T: 好清水性種 (以上はAsai, K. & Watanabe, T. 1995)  
 RI: 陸生珪藻 (RA: A群, RB: B群、伊藤・堀内, 1991)

第27表 95Aa区珪藻分析結果表 (3)

表 花粉分析結果

種類	試料番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
木本花粉														
モミ属									2			1		
ツガ属	13	5	1	4			2		1			1		
トウヒ属	1													
マツ属	95	80	11	50			6	1	8			1	1	
コウヤマキ属		1					4	2	11					
スギ属		6	3	5	1	2			1					
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	1			1										
ヤナキ属									1					
ヤマモモ属		1	1	1	1	4			2	1				
サワグルミ属-クルミ属	1	2				2	2	2				3	1	
クマシデ属-アサダ属	1	2		7		8		5				1		
カバノキ属		3		3		4	1	1				1		
ハンノキ属	2	4	3	5	1	5		6	2			1		
ブナ属	4	4	1	4		12	2	21	2			1		
コナラ属-コナラ亜属	4	12	2	5		11	4	8	1					
コナラ属-アカシ亜属	2	5	2	10		52	8	38	3					
クリ属-シイノキ属	2	1		1				1	1					
ニレ属-ケヤキ属	2	5	1	4		4		4	1			1	1	
エノキ属-ムクノキ属	1			1	1	1								
カエデ属		1												
ウコギ科				2					1					
ツツジ科	1													
トネリコ属		1												
草本花粉														
サジオモダカ属			1											
イネ科	304	493	117	385	4	151	12	207	2	1	2			
カヤツリグサ科	9	26	3	29	1	5	2	20	1					
ホシクサ属				1										
ミズアオイ属	4	11		5										
サナエタデ属-ウナギツカミ節	2	6	6	9				4						
タデ属	2	2		1										
ソバ属	28	12	21	67	35									
アカザ科	2	8	1	3										
ナデシコ科	13	22	5	22										
アブラナ科		9		11										
フクロソウ属								2	1					
キカシグサ属	1	1		1										
アリノトウグサ属	7	6	1	4										
セリ科	3	2	1	3		1		1						
ヨモギ属	2	5	2	2		5		2	4	2				
他のキク亜科	13	31	6	4				1		1				
タンポポ科	3	4	2	15	1	1								
不明花粉	2	1		2		2		2				2	1	4
シダ類胞子														
ミズウラボシ属	14	5						1						
他のシダ類胞子	226	287	101	232	12	268	321	1083	536	3	29	15	6	
合計														
木本花粉	130	133	25	104	4	117	20	113	11	0	11	3	0	
草本花粉	393	638	166	562	41	163	14	237	8	4	2	0	0	
不明花粉	2	1	0	2	0	2	0	2	0	0	2	1	4	
シダ類胞子	240	292	101	232	12	268	321	1084	536	3	29	15	6	
総計(不明を除く)	763	1063	292	898	57	548	355	1434	555	7	42	18	6	

第28表 95Aa区花粉分析結果表

表 植物珪酸体分析結果

種類	試料番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
イネ科葉部短細胞珪酸体														
イネ族イネ属	24	18	6	19	2	3	3	2						
キビ族キビ属			1											
キビ族チゴザサ属	1					1								
キビ族	4	2	1	2	1	3	6	5						
タケ亜科ネザサ節	5													
タケ亜科	24	18	4	28	13	9	13	14	10	2	5			
ヨシ属	11	11	6	6	7	14	61	79	15	3	12			
ウシクサ族コブナグサ属	3	2	1	1		7	24	18	2	1	3	1		
ウシクサ族ススキ属	13	8	6	3	6	11	25	11	4		3			
イチゴツナギ亜科オオムギ族		1		2										
イチゴツナギ亜科	14	11	5	8	2	2	4	2	4					
不明キビ型	60	23	10	47	15	28	57	52	12	1	7			
不明ヒゲシバ型	18	7	10	5	6	12	24	23	4	5	7			
不明ダンク型	36	21	9	39	18	24	41	43	10	1	12			
イネ科葉身機動細胞珪酸体														
イネ族イネ属	34	42	28	38	24	44	24	75						
キビ族	4		1			1		1						
タケ亜科ネザサ節	3	1												
タケ亜科	14	13	8	5	3	5	6	16	3			2	1	
ヨシ属	6	8	3	2	6	11	14	52	4	2	3			
ウシクサ族	16	14	10	20	6	25	43	51	3		3			
シバ属					1									
不明	29	40	18	41	42	32	32	65	7	1	8			
合計														
イネ科葉部短細胞珪酸体	213	122	59	160	70	114	258	249	61	13	49	1	0	
イネ科葉身機動細胞珪酸体	106	118	68	106	82	118	119	260	17	3	14	2	1	
総計	319	240	127	266	152	232	377	509	78	16	63	3	1	
組織片														
イネ属珪酸体	5	5	1	3										
イネ属短細胞列	3	5		6	1									
イネ属機動細胞列		1												

第29表 95Aa区植物珪酸体分析結果表

第4節 畑作農村地帯を特徴づける田所遺跡の地表性歩行虫

先史一歴史時代の地層中からゴミムシ類をはじめ、地表性歩行虫の昆虫化石が多数産出することは、これまで多くの研究者により指摘されてきた（森、1994；富永、1994・1996ほか）。ゴミムシ類は甲虫目オサムシ亜目（Coleoptera：Adephaga）に属するオサムシ科、ホソクビソゴミムシ科などの分類群に与えられた一般的な名称（石谷、1996a）であり、国内だけで1200種とも1500種ともいわれる種が確認されている。ゴミムシ類は鞘翅が癒合し飛翔能力を失ったものが多いことから、地域ごとの種分化が顕著に認められる昆虫として知られる。また、ゴミムシ類は環境に対する適応進化が速く、そのため人間による自然改変に伴って森林地帯から農耕地や人為空間へと速やかに移動・拡散したことが考えられる。

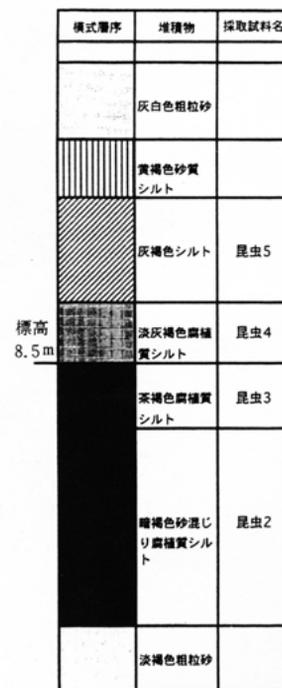
本論では、田所遺跡（中世）および西上免遺跡（弥生時代中期）の地層中より見いだされた畑作農村地帯を特徴づける地表性歩行虫について述べる。

**分析試料および方法** 田所遺跡は、愛知県一宮市田所と隣接する葉栗郡木曾川町黒田にまたがって位置し、標高約10mの弥生時代～中世にかけての遺跡である。一方、西上免遺跡は、愛知県尾西市開明字西上免に所在し、古墳時代を主体に弥生時代から中世に至る複合遺跡である。

分析試料は、田所遺跡では主に13～14世紀に掘削された墳墓堂遺構の周溝SD03の北溝を埋積する地層中より、西上免遺跡では弥生時代中期の土坑内より採取されたものである。分析試料はいずれも腐植片を挟在する暗褐色のシルト質細粒砂層である。第118図に、遺構配置図および試料採取地点を示した。

昆虫化石の抽出は主にブロック割り法によった。昆虫化石の検出にあたってはアサヒペンタックス単眼顕微鏡（20倍）を利用し、実体顕微鏡下でクリーニングののち、一つずつの節片について筆者採集の現生標本の各部位と顕微鏡下で比較・検討しながら同定した。

**昆虫化石群集** 田所遺跡より発見された昆虫化石（節片ないし破片数）の現時点での集約数は計931点である。試料ごとでは試料Aが47点、試料Bが102点、試料Cが204点、試料Dが126点、試料Eが127点、試料Fが45点、試料Gが158点、試料Hが122点であった。西上免遺跡では試料Aが134点、試料Bが7点の計141点であった。産出した昆虫化石のリストを第31表および第32表に、また、主な昆虫化石の顕微鏡写真をカラー図版7に示した。発見された昆虫は、そのほと



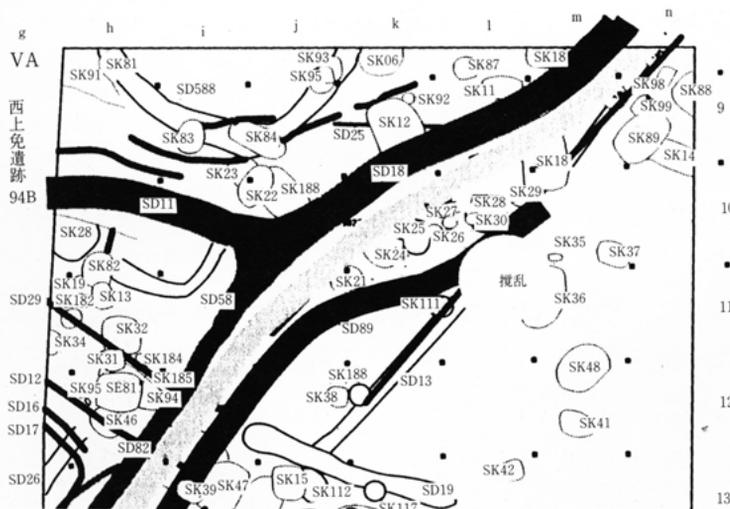
第117図 SD03・北溝（92Gb区、SD27）の層序，試料採取層準

んどが鞘翅目 (COLEOPTERA) であり、鞘翅目以外では、アリ科 (FORMICIDAE) や双翅目 (DIPTERA) などが発見された。

生息環境および生態による分類では、陸生の食植性昆虫を主体に、食肉、雑食および食糞性の地表性歩行虫を随伴し、一部食肉性ないし食植性の水生昆虫をまじえる昆虫群集であるとみなすことができる。

また、全試料を通じマメ類や果樹など畑作物を加害する食葉性のヒメコガネ *Anomala rufocuprea* の出現頻度が高く、とりわけ田所遺跡では全産出点数の39.3%が本種で占められた。このほかにドウガネブイブイ *Anomala cuprea*、マメコガネ *Popillia japonica*、サクラコガネ属 *Anomala* sp. など、いずれも果樹・畑作物等の葉や根を食害するコガネムシ科が多数認められることから、平安時代後期から中世にかけての頃、田所遺跡周辺では畑地と人家が混在する人里的な景観が展開していたことが考えられる。この結果は隣接する大毛沖遺跡 (森、1996) や大毛池田遺跡 (森、1997) をはじめ、一宮市より葉栗郡木曽川町にかけての濃尾平野北西部の同時代の地層中から得られた昆虫化石群集とも共通している。

**攪乱環境の指標昆虫** 西上免および田所両遺跡より得られた昆虫化石群集には、ヒメコガネ・ドウガネブイブイなどの食植性昆虫と並び、地表性歩行虫がかなりの頻度で検出された。西上免遺跡 (弥生時代中期) では全産出点数 (141点) の52.5%にあたる74点がゴミムシ類、食糞ないし食屍性の地表性歩行虫 (15点) を含めると63.1%が地表性歩行虫で占められた。中世の田所遺跡では、同じく全産出点数 (931点) のうち17.8%がゴミムシ類、食糞ないし食屍性の地表性歩行虫 (89点) を含めると27.2%が地表性歩行虫であった。



第118図 西上免遺跡試料採取位置図

調査区	試料名	試料採取場所	時代
91A区	試料B	井戸内埋積物	中世

第30表 西上免遺跡91A区採取試料

第31表 田所遺跡から産出した昆虫化石

生態	和名	学名	試料A 92Gb SD28最下	試料B 92Gb SD28	試料C 92Gb SD26, 27	試料D 92Gb SD26下層	試料E 92Gb 昆虫2	試料F 92Gb 昆虫3	試料G 92Gb 昆虫4	試料H 92Gb 昆虫5	総計	
水生	食肉	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	A1	A1	P1 W1		P1 W1	P3 W3 A3 L2	W1	18	
		ゲンゴロウ	<i>Cybister japonicus</i> SHARP			P4 W3 A1	P1 W4	W1	W3 T1	W7	25	
		クロゲンゴロウ	<i>Cybister brevis</i> AUBE	T1						W1	2	
		ヒメゲンゴロウ亜科	COLYMBETINAE					T1			1	
		ヒメゲンゴロウ	<i>Rhantus puterosus</i> (STEPHENS)		T1						1	
		キベリクロヒメゲンゴロウ	<i>Ilybius apicalis</i> SHARP								W2	2
		マメゲンゴロウ属	<i>Agabus</i> sp.					P1 T2		T2		5
		クロズマメゲンゴロウ	<i>Agabus conspicuus</i> SHARP			P1						1
		ミズスマシ科	GYRINIDAE		T1							1
		ミズスマシ	<i>Gyrinus japonicus</i> SHARP				W1					1
オオミズスマシ	<i>Dincutus orientalis</i> MODEER			W8						8		
コガシラミズムシ	<i>Peltodytes intermedius</i> (SHARP)								W1	1		
昆虫	食植性	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	W1	W3	W2		W1		L1	8	
		ガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> MOTSCHULSKY		W1 L1	P2 W8 T2		P1	W1 L1	W2 L1	28	
		コガムシ	<i>Hydrocharis affinis</i> (SHARP)			A4 L4						4
		ヒメガムシ	<i>Sternolophus rufipes</i> (FABRICIUS)		W1 T1			H1		L1		3
		セマルガムシ	<i>Ceolostoma stultum</i> (VALKER)		W1	L1					W1	18
		マメガムシ	<i>Regimbartia attenuata</i> (FABRICIUS)		W2	P1 W3	P1			P2 W6	P3	11
		タマガムシ	<i>Amphips mater</i> SHARP		W2	W3	W1			W3	W2	1
		キイロヒラタガムシ	<i>Enochrus simulans</i> (SHARP)							W1		1
		ミズクサハムシ属	<i>Phalcomaris</i> sp.							P1		1
		エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.			A1	T2 A1	P1 W1	T1 A1	P1 A1 L1	P1 T1 A1 L1	15
コマルエンマコガネ	<i>Onthophagus atripennis</i> WATERHOUSE		W1					W1	W2	4		
カドマルエンマコガネ	<i>Onthophagus lenzii</i> HAROLD			P1	P1					2		
マクソコガネ属	<i>Aphodius</i> sp.							W1		1		
マクソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (MOTSCHULSKY)			P1 W1	W5	W1		W3	P3 W9	23		
エンマムシ科	HISTERIDAE							W2		2		
エンマムシ	<i>Mehister Jekeli</i> MARSEUL				P1					1		
シデムシ科	SILPHIDAE							W1		1		
歩行	食肉	ゴミムシ科	HARPALIDAE		A1	H2 P1 W4	H3 大顎1 P7	H1 P1 W3	P1 W1 A2	H3 大顎1 P3	H7 P5 W12	116
		ナガゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.			T1 A5	W3 A7 L3	A1 L3	L1	W4 T2 A9 L1	T3 A3 L1	1
		セアカヒラタゴミムシ	<i>Dolichus halensis</i> (SCHALLER)			W1	W1					2
		ツキヒラタゴミムシ属	<i>Synachus</i> sp.				W3	W1		W4	W1	9
		オオトックリゴミムシ	<i>Oodes vicarius</i> BATES			P1						1
		ヤマトックリゴミムシ	<i>Lachnoceps Japonica</i> BATES			W1	W1					2
		ナガヒョウタンゴミムシ	<i>Scarites terricola pacificus</i> BATES			W1 大顎1	H1 P2			P2 W1	P2	10
		アトキリゴミムシ亜科	LEBNIINAE								W1	1
		アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.				P1 W2	W1	A1	W4	P1	10
		スジアオゴミムシ	<i>Hapichlaenius costiger</i> (CHAUPOIR)							W1		1
アトボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius naviger</i> MORAWITZ				W1				W1	2		
ハネカクシ科	STAPHYLINIDAE			P1	P1	P2 W1 T1		P1	W1	8		
キマワリ属	<i>Plesiophthalmus</i> sp.								W1	1		
キマワリ	<i>Plesiophthalmus nigrocyanus</i> MOTSCHULSKY			W1						1		
ヒメナガキマワリ	<i>Strongylium impigrum</i> LEWIS			W1						1		
隙生	食植	コガネムシ科	SCARABAEIDAE			T1 A1 L1	P2 W4	W3	W2 L1	H1 P1 W6	P1	29
		スジコガネ亜科	RUTELINAE			L1	W1			P1 W1 L1		5
		サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.		S1 P1 W1	H1 P2 W2 A1		P1		H1 S1 P4	H2 S1 P2 W8	57
		スジコガネ	<i>Mimela lastacipes</i> MOTSCHULSKY		T2 A1 L3	L3			W1 T1 L3	A1 L3		3
		ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> HOPE		H1 P1				W1			3
		ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	H3 P7 W31	H2 P32 T1	H3 P22 W50	H1 P4 W6 A2	H6 P31 W35	H1 P6 W9	P1	P3 W9 T1 L1	366
		サクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD	A1 L4	W59	A5 L7	L1	T1 A4 L15	L2			1
		マメコガネ	<i>Papillia Japonica</i> NEVMANN			W1				A1	W2 T1 A2 L2	8
		クロコガネ	<i>Holotrichia kiotoensis</i> BRENSKE			P1					P1	2
		ヒメカンショコガネ	<i>Apogonia amida</i> LEWIS								W1	1
ハナムグリ亜科	CETONINAE							L1		1		
カナブン	<i>Rhomborrhina Japonica</i> HOPE			A1	S1					2		
ノコギリカミキリ	<i>Prionus insularis</i> MOTSCHULSKY			W9						9		
クワガタムシ科	LUCANIDAE			P1	P1					2		
ハムシ科	CHRYSOMELIDAE			W1	W2	L1		W6 L1	W3	14		
サルハムシ亜科	EUMOLPINAE			W1						1		
ルリハムシ	<i>Linacidea aenea</i> (LINNE)			W1						1		
ヤナギルリハムシ	<i>Plagiocera versicolora</i> (LAICARTING)								W1	1		
コマツキムシ科	ELATERIDAE			W4	P1 W4	W2	P1	P1 W2		15		
アカアシオオクシコマツキ	<i>Melanotus cete</i> CANDEZE			P1		P1				2		
サビキコリ	<i>Agrypnus binodulus</i> (MOTSCHULSKY)				P1				P2	3		
ゾウムシ科	CURCULIONIDAE				W2		W1	W6	W3 T1	13		
オオゾウムシ	<i>Sipalinus gigas</i> (FABRICIUS)							W1		1		
クワヒメゾウムシ	<i>Baris deplanata</i> ROELOFS							W1		1		
オトシブミ科	ATTELABIDAE				P1					1		
不明甲虫	COLEOPTERA			部位不明4	P2 触角1			W2	H2 L4	W1 L2	30	
					部位不明4			部位不明3	部位不明4	部位不明1		
総計			47	102	204	126	127	45	158	122	931	

(検出部位凡例)

W (Wing) : 鞘翅 H (Head) : 頭部 T (thorax) : 胸部 A (Abdomen) : 腹部 P (Pronotum) : 前胸背板 S (Scutellum) : 小楯板  
 L (Legs) : 腿脛節 M (Mandible) : 大腮

地表性歩行虫の産出点数の多さは、昆虫化石を含有する地層が堆積した時代に、これらの昆虫がエサとする動物質ないしは植物起源の食物が地表面上に豊富に存在していたことを示すものと理解される。地表性歩行虫の過半を占めるゴミムシ類は、体節片のみから種を同定することはきわめて困難である。しかし、ゴミムシ類の環境による棲み分けが明瞭であることを考えると、鞘翅や前胸背板など遺跡中より検出される可能性の高い部位を用いたゴミムシ類の種同定についての検索マニュアルの確立が真に待たれるところである。

筆者は、実体顕微鏡に加え電子顕微鏡下で鞘翅表面の微細構造や、前胸背板の形状・背面の構造などを観察することにより、ゴミムシ類の一部の分類群について、属および種の同定が可能であることを確認した(森・前田, 1993)。本分析では、この成果をもとに種レベルではセアカヒラタゴミムシ *Dolichus halensis*、ツヤマルガタゴミムシ *Amara obscuripes*、オオトックリゴミムシ *Oodes vicarius*、ヤマトトックリゴミムシ *Lachnocrepis japonica*、ナガヒョウタンゴミムシ *Scarites terricola pacificus*、スジアオゴミムシ *Haplochlaenius costiger*、アトボシアオゴミムシ *Chlaenius naeviger* の7種、属レベルではナガゴミムシ属 *Pterostichus* sp.、アオゴミムシ属 *Chlaenius* sp.、ツヤヒラタゴミムシ属 *Synuchus* sp. の3属について、

第32表 西上免遺跡から産出した昆虫化石

生態	和名	学名	試料 A 94B SK28	試料 B 91A	総計	
水生	食肉性	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	H1 W1 A4	6	
		クロゲンゴロウ	<i>Cybister brevis</i> AUBE	W1	1	
		ヒメゲンゴロウ亜科	COLYMBETINAE	T1	1	
		クロズマメゲンゴロウ	<i>Gaurodytes conspicuus</i> SHARP	W1	1	
昆虫	食植性	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	P1	1	
		ヒメガムシ	<i>Sternolophus rufipes</i> (FABRICIUS)	W1	1	
		セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	W2	2	
		ヒメセマルガムシ	<i>Coelostoma orbiculare</i> (FABRICIUS)	P1	1	
		キベリヒラタガムシ	<i>Enochrus japonicus</i> (SHARP)	P1	1	
地表性	食糞性	エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.	P1 W1 T5 A1	8	
		コブマルエンマコガネ	<i>Onthophagus atripennis</i> WATERHOUSE	P1 W2	3	
		コマグソコガネ	<i>Aphodius pusillus</i> (HERBST)	W1	1	
		エンマムシ科	HISTERIDAE	P1	1	
		エンマムシ	<i>Hister jekeli</i> MARSEUL	W1	1	
		コツヤエンマムシ	<i>Atholus duodecimstriatus</i> <i>quatuordecimstriatus</i> (GYLLENHAL)	W1	1	
歩行虫	食肉及び雑食性	ゴミムシ科	HARPALIDAE	H14 P12 W19 T2 A6 L1	P1	55
		ツヤヒラタゴミムシ属	<i>Synuchus</i> sp.	W4	4	
		ツヤマルガタゴミムシ	<i>Amara obscuripes</i> BATES	W1	1	
		セアカヒラタゴミムシ	<i>Dolichus halensis</i> (SCHALLER)	W8	8	
		ハネカクシ科	STAPHYLINIDAE	P2 W1 A2	5	
		キマワリ属	<i>Plesiophthalmus</i> sp.	W1	1	
陸生の植生依存型昆虫	食	コガネムシ科	SCARABAEIDAE	H1	W1	2
		スジコガネ亜科	RUTELINAE	L1		1
		サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	P1 W2 T1 A1 L3	W1 L2	11
	植性	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	H1 P2 W6 A1	W2	12
		ヒメカンショコガネ	<i>Apogonia amida</i> LEWIS	W1		1
		ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	A1		1
		コメツキムシ科	ELATERIDAE	W1		1
		ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	W3		3
		ヒメカメノコテントウ	<i>Propylea japonica</i> (THUNBERG)	W1		1
		アリ科	FORMICIDAE	H1		1
不明甲虫	COLEOPTERA	W2 部位不明1		3		
総計			134	7	141	

分類・同定を行った。

ゴミムシ類の種や属レベルの同定が可能になると、これらが生息する地表環境の温度・湿度・光条件・土壌・地表の形状・植生・他の動物相など、数多くの情報が得られることが期待される。石谷(1996a・1996b)は、ゴミムシ類をニッチ幅の狭い「攪乱回避型種群」とニッチ幅の広い「攪乱後侵入型種群」に2大別し、ゴミムシ類の計72種について環境指標値を求めている。これによるとエゾカタビロオサムシ*Campalita chinense*ほか26種は環境指標値が1.00であり「攪乱回避型種群」に、またセアカヒラタゴミムシの環境指標値は最低値の0.26となり「攪乱後侵入型種群」の代表種であるとした(石谷、1996b)。セアカヒラタゴミムシは、本分析では西上免遺跡より8点、田所遺跡より2点検出されている。

筆者は遺跡産出の昆虫化石の分析と並行し、日本各地の種々の環境下における昆虫相を把握することを目標に、バイトトラップ法やライトトラップ法などを利用して採集・調査を継続してきた。セアカヒラタゴミムシは、初夏から盛夏にかけての頃、バイトトラップ法により、三重県多度町古野(Site-0111)・同員弁町平古(Site-0221)・同藤原町坂本(Site-0415)など、いずれも中位段丘ないしはこれに相当する扇状地性の水はけの良い畑地や人家周辺から多くの個体が得られている。本種は、石谷(1996b)でも不安定な環境の代表種とされており、歴史時代以降、人為による攪乱リスクの高い住居の周りや農耕地(主に畑作地)などに積極的に進出し、個体数を増加させた種群であると考えられる。

一方、田所・西上免両遺跡からは、ツヤヒラタゴミムシ属・アトボシアオゴミムシなどのゴミムシ類が検出されている。両分類群は攪乱から時間の経過した安定した環境の指標種とされ(石谷、1996b)、また田所遺跡より発見されたナガヒョウタンゴミムシは最近の水没から間もない環境の指標種であるといわれる(石谷、1996b)。このように、本昆虫化石群集の地表性步行虫の中には、攪乱後侵入型種群(攪乱耐性型昆虫)と攪乱回避型種群(攪乱回避型昆虫)の両者が混在している。前者は人の介在が顕著な人為度の高い環境下に生息していた昆虫であり、後者は出水や河道変遷の結果、人為による影響がほとんど認められなくなった時期に生活していた昆虫であると考えられる。

本分析により、セアカヒラタゴミムシなど攪乱耐性型昆虫は、すでに弥生時代中期(西上免遺跡)には人里周辺に進出し、中世(田所遺跡)になると畑作地の周囲で他の分類群とともに普通種として定着していたことが明らかになった。

#### 文 献

- 石谷正宇(1996a) 環境指標としての地表徘徊性ゴミムシ類、特集/地表性甲虫、昆虫と自然、31(12)、ニュー・サイエンス社、2-7。  
 石谷正宇(1996b) 環境指標としてのゴミムシ類(甲虫目:オサムシ科、ホソクビゴミムシ科)に関する生態学的研究、比和科学博物館研究報告、34、1-110。  
 森 勇一・前田弘子(1993) 珪藻および昆虫化石群集から得られた岡島遺跡の古環境変遷、愛知県埋蔵文化財センター調査報告書(第43集)岡島遺跡Ⅱ・不馬入遺跡、愛知県埋蔵文化財センター、87-132。  
 森 勇一(1994) 昆虫化石による先史~歴史時代における古環境の変遷の復元、第四紀研究、33(5)、331-349。  
 森 勇一(1996) 愛知県一宮市大毛沖遺跡より得られた昆虫群集について、愛知県埋蔵文化財センター調査報告書(第66集)大毛沖遺跡、愛知県埋蔵文化財センター、188-194。  
 森 勇一(1997) 畑作農村地帯を特徴づける愛知県大毛池田遺跡(中世)の食植性昆虫について、愛知県埋蔵文化財センター調査報告書(第72集)大毛池田遺跡、愛知県埋蔵文化財センター、139-143。  
 富永 修(1994) 日本の遺跡から産出した昆虫遺体のリスト、特集/考古遺跡の昆虫遺体、昆虫と自然、29(8)、ニュー・サイエンス社、33-41。  
 富永 修(1996) 地表性甲虫-歴史を語るもの-、特集/地表性甲虫、昆虫と自然、31(12)、ニュー・サイエンス社、8-12。

## 第5節 鉄滓類の分析

田所遺跡出土の鉄滓等について、化学成分分析を含む自然科学的な観点での分析を川鉄テクノロジーに委託し実施した。本報告はこの報告書をもとに一部改変したものである。

**調査項目お** (1) 化学成分分析

**よび分析方** 化学成分分析はJISの分析法に準じておこなった。分析結果を第33表に示す。ここでは  
**法** 化学成分から鉄をつくるために使用した原料の推定と、生産工程のどの部分で発生した鉄滓かの判断用データを得るためにおこなった。

(2) 顕微鏡組織観察

試料の一部を切り出し、樹脂に埋め込み、細かい研磨剤等で研磨（鏡面仕上げ）し、顕微鏡で観察した。熔融状況や鉱物の混合状態等から加工工程や鉄滓の材質を判断するものである。

(3) X線回折測定

試料を粉砕して板状に形成し、X線を照射すると、試料に含まれている化合物の結晶の種類に応じて、それぞれに固有の反射（回折）されたX線が観察される。これを利用して、試料中の未知の化合物を同定した。多くの種類の結晶についての標準データが整備されており、ほとんどの化合物が同定される。

(4) 重量測定と磁着力調査

電子天秤を使用して計重した。また、磁着力調査については、直径30mm、1300 Gauss（0.13 Tesla）のリング状フェライト磁石を使用し、官能試験により「強・やや強・中・弱・なし」の5ランクで表示した。

**調査結果概** 田所遺跡の分析結果を総合すると次のように分類される。(1) 長期間水分との接触の  
**要** 機会が多かったものが多い。(2) 水酸化鉄と土の固着した資料が多い。(3) 完全に錆化した鉄片が多く、鉄器の原型を残すものもあった。また、錆化した片と思われるものもあった。(4) 鍛冶場の炉中で発生して、ほぼ完全な形で残っている椀型鍛冶滓もあった。(5) 金属鉄は原料が砂鉄とは判断できないものであった。(6) 何らかの原因で上記鉄滓を再利用するためか、別の目的のために割り欠いたような比較的サイズのそろっている鉄滓の小片が多い。

**まとめ** 結果の(1)～(3)に示したように、田所遺跡での鉄滓の特徴は、水分との接触の機会が多かったと推定される。また、鉄の原料となったものが砂鉄とは断定できないものが多く、とくに金属鉄の中に閉じこめられている介在物の情報からは、チタン・バナジウム等が全く検出されない。これはこれからの研究課題であろう。

鉄は当初より再加工（いわゆるリサイクル）の可能な素材として利用されてきたと考えられる。そのため鍛冶場には各所で生産された鉄が持ち込まれたと考えるのが妥当である。素材である鉄や鉄塊がどこで生産されたものとか、製鉄技術の進歩の状況等の問題点については、特定製鉄遺跡に付随する鍛冶工房や、製品としての鉄器類での追跡調査研究を進めていく過程でさらに解明されることを期待する。

試料番号	調査区	遺構	グリッド	採取年月日	形状	磁着力	重量 (g)	分析結果概要
1	91A	SD07	IVA6n	920217	鉄滓	中	94.5	長さ75ミリ縦横30ミリの各材サイズの鉄滓。水酸化鉄に覆われている。メタル分なし。
2	91A	SK16	IVA7I	920218	鉄滓	中	27	40ミリ×30ミリ。礫状。黒色発砲部あり。
3	91A	SK52	IVA8j	920219	鉄滓	弱	45.6	60ミリ×30ミリ。水酸化鉄に覆われている。形は椀型滓の断片状である。
4	92Aa	SK251	VE15b	920908	鉄滓	中	33.1	径25ミリの礫状。表面にひび割れあり。部分的に褐色。メタル反応あり。
5	92Aa	SB16	VE11,12a,b	921029	鉄滓	やや弱	73.3	55ミリ×40ミリ。ごつごつした感じ。
6	92Aa	SB17-P4	VW14b	920825	鉄滓	中	39	2.4g, 4.5g, 32.1g。の3塊。大きい資料が磁着力中。小片は弱。
7	92Aa	SB08	-	-	?	やや弱	10.2	2.5ミリ×30ミリ角状小片。黒色発砲滓。溶融炉壁状も呈する。炉材噛み込み。
8	92Aa	SB08	-	920917	鉄滓	弱	16	表面は粗く凹凸が激しく、付着砂が多く入り込んでいる。発砲痕著しい。
9	92Aa	SK354	VID16,17t	920910	鉄滓	やや強	21.5	黒色溶融滓。40ミリ×20ミリで一部突出。小片の割りに質量感あり。植物繊維痕あり。
10	92Aa	検III	VE14b	920911	鉄滓	中	35	40ミリ×30ミリ。礫状。水酸化鉄に覆われている。
11	92Aa	SB22-P1	VID14t	920724	鉄滓?	やや強	21.4	長さ50ミリ巾30ミリの土砂、小片の噛み込み植物繊維痕の多い資料。茶褐色部あり。
12	92Aa	SB03	VIG14,15a	920724	椀型滓	やや弱	60	ごつごつし、砂付着の多い滓。中央部凹で椀型滓の断片状。
13	92Aa	SB03	VIG14,15a	-	鉄滓	中	56.1	発砲痕著しい偏平な滓と1g程度の細片計11片から構成された資料。
14	92Aa	SB12	-	-	鉄滓	弱	19.5	土砂の付着が著しい小片2個。
15	92Aa	SB12	-	-	鉄滓	強	21	9.4g, 11.6gの小片。酸化鉄塊状。メタル反応なし。断面観察の要あり。
17	92Aa	検III	VIG15a VIF15t	920729	鉄滓	弱	31.1	黒色発砲の凹凸のある滓。5gの小粒な滓を伴っている。
18	92Aa	検III	VIF14t VIG14a	920803	鉄滓	中	22.9	資料17と同様、小片2点で構成。
19	92Aa	検III	VE14,15b	920909	鉄滓	中	33.5	4.2gの球状小塊を共伴。砂付着の多い資料。
20	92Aa	検II	VIG14a	920729	鉄滓	やや弱	61.6	3片で構成。砂付着の多い滓。47gの偏平な鉄滓を調査対象とする。
21	92Aa	検II	VIF15t VIG15a	920727	鉄滓	やや弱	43	小枝状の酸化鉄片および礫状鉄滓2点と共伴。
22	92Ab	検II	VE11a,b	921019	鉄滓	弱	8.4	溶融してガラス状の部分がある小片。
23	92Ab	検II	VIG11a,b	921021	鉄滓	弱	20.2	30ミリ×20ミリ。礫状の資料22と類似の鉄滓。
24	92Ab	検III	VE11a,b	921105	鉄滓	弱	11.2	砂礫と水酸化鉄が多量に付着している径20ミリ程度の空豆状。
25	92Ab	検II	VIF17t VIG17a	920723	鉄滓	弱	138.6	11.6gの酸化鉄塊を伴っている。水酸化鉄で覆われている大塊を調査対象とする。
26	92Aa	検II	VIF17t VIG17a,b	920727	鉄滓	中	25.7	1.5gの小枝状酸化鉄塊を伴っている。下部に炉材の付着した小型の滓である。
27	92Aa	検II	VE15b	920729	鉄滓	弱	20.2	5.8gの酸化鉄塊を伴う。黒色発砲の小片。

第33表 鉄滓分析結果概要

鉄滓関係

単位：％(m/m)

成分 試料No.	T.Fe	M.Fe	FeO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	CaO	MgO	TiO <sub>2</sub>	MnO	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	C	V	Cu	C・W
1	47.0	0.06	4.42	62.2	20.2	3.76	0.24	<0.1	0.14	0.10	0.13	0.01	0.60	0.74	0.58	<0.01	<0.01	6.24
2	36.4	0.08	31.8	16.6	39.1	5.76	1.60	0.37	0.25	0.18	0.25	0.02	0.64	2.02	0.12	0.01	<0.01	1.21
3	45.5	0.11	34.5	26.6	23.5	6.40	0.55	0.10	0.24	0.14	0.24	0.01	0.33	0.70	0.39	0.01	<0.01	3.65
4	35.6	0.22	1.01	49.5	31.3	4.94	0.57	0.10	0.18	0.11	2.02	0.01	0.93	1.15	0.39	0.01	<0.01	5.56
5	58.7	0.20	47.3	31.1	14.2	2.39	0.76	0.14	0.11	0.15	0.48	0.04	0.36	0.59	0.13	0.03	<0.01	1.24
6	36.2	0.15	4.85	46.2	31.8	5.55	0.62	<0.1	0.19	0.11	1.26	0.01	0.99	1.33	1.49	0.01	0.05	4.66
10	50.0	0.36	48.0	17.6	27.0	3.09	0.55	0.19	0.17	0.13	0.16	0.01	0.26	0.55	0.21	0.01	0.01	1.63
12	62.8	0.17	67.8	14.2	11.3	1.36	0.78	<0.1	<0.1	0.15	0.12	<0.01	0.17	0.54	0.15	0.01	<0.01	1.24
13	41.0	0.06	45.3	8.19	34.9	5.75	1.53	0.43	0.24	0.17	0.25	0.01	0.94	1.71	0.063	<0.01	<0.01	0.46
16	66.3	43.6	3.34	28.7	11.3	1.76	0.13	<0.1	<0.1	<0.1	0.59	0.03	0.33	0.41	1.99	<0.01	0.01	3.21
17	53.8	0.32	56.8	13.3	20.9	2.71	1.91	0.31	0.24	0.22	0.28	0.01	0.33	1.25	0.11	0.03	<0.01	0.90
19	42.7	0.08	33.8	23.4	29.9	5.70	1.15	0.29	0.20	0.12	0.54	0.01	0.83	1.47	0.22	<0.01	0.01	2.21
20	48.8	0.17	37.0	28.4	23.5	4.57	0.86	<0.1	0.17	0.11	0.40	0.01	0.69	1.07	0.40	0.01	<0.01	2.29
21	39.4	0.17	13.3	41.3	35.5	3.24	0.80	0.25	0.15	0.18	0.21	0.01	0.46	1.01	0.31	0.01	0.01	3.05
23	61.1	0.08	68.4	11.2	13.1	2.14	1.25	0.31	0.16	0.10	0.22	0.01	0.25	1.05	0.078	0.01	<0.01	0.43
25	29.9	0.11	11.1	30.3	41.9	7.66	0.82	0.35	0.28	0.14	0.20	0.01	1.32	1.79	0.31	<0.01	0.12	3.38

【分析方法】 鉄滓等の分析方法はJ I S法に準拠し、以下の方法とした。

T. Fe：三塩化チタン還元-ニクロム酸カリウム滴定法

M. Fe：臭素メタノール分解-E D T A 滴定法

FeO：ニクロム酸カリウム滴定法

Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>：計 算

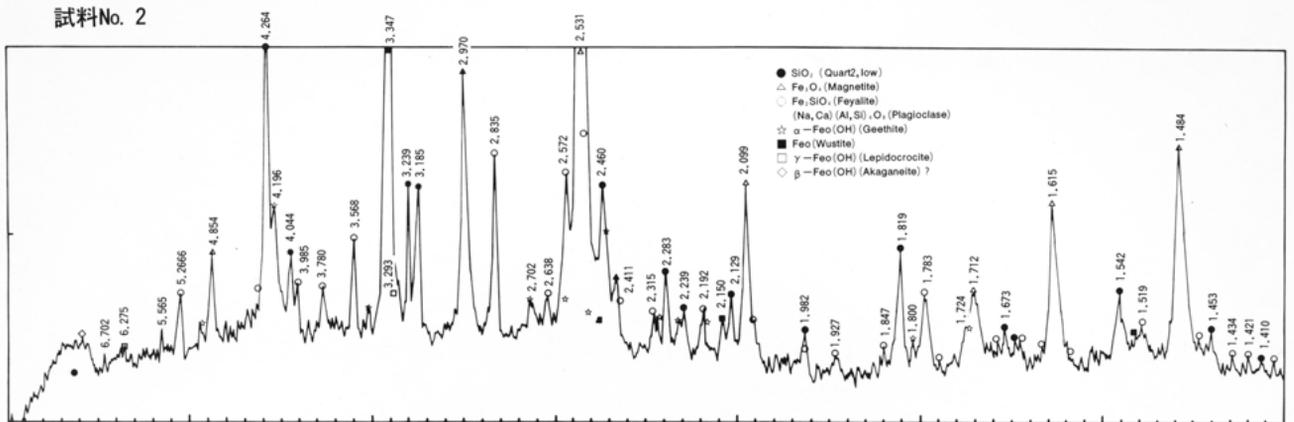
C・W：カールフイッシャー法

C：燃焼-赤外線吸収法

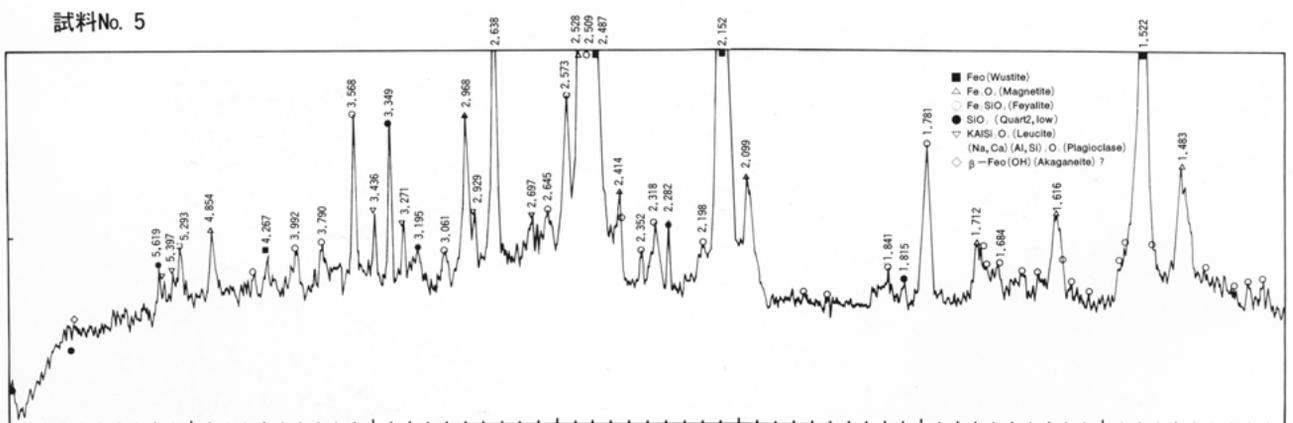
Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, Na<sub>2</sub>O, V, Cu：原子吸光法

SiO<sub>2</sub>, Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, CaO  
MgO, TiO<sub>2</sub>, MnO }：ガラスビード蛍光X線分析法  
P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>, K<sub>2</sub>O

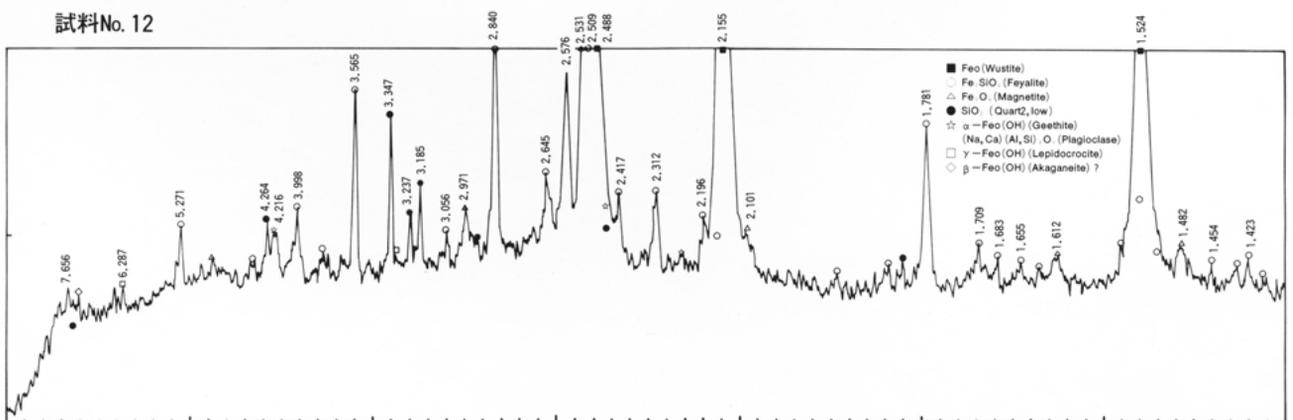
第34表 鉄滓化学成分一覧表



第119図 X線回析測定結果図(1)



第120図 X線回析測定結果図(2)

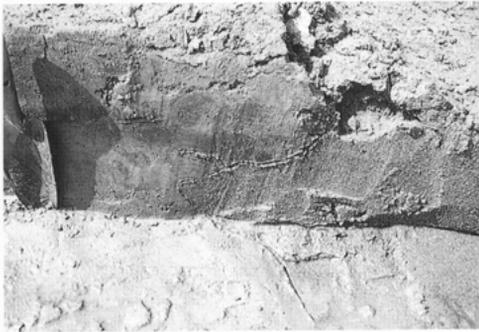


第121図 X線回析測定結果図(3)

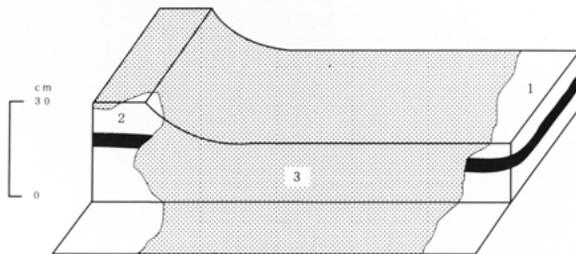
### 第6節 田所遺跡の地震痕跡

低湿地の遺跡の発掘調査において、歴史時代の地震の痕跡が確認されることがあり、これを研究対象とする地震考古学（寒川、1988）という研究領域も確立している。田所遺跡と同様に、東海北陸自動車道建設に先立って行われた北道手遺跡や大毛沖遺跡などからも、やはり歴史時代の地震の痕跡が報告されている（服部、1996a、1996b）。ここでは、田所遺跡で確認された歴史地震の痕跡を記載し、その発生年代について考察する。

**<92Aa区の 地震痕>** 92Aa区は、下層より灰褐色中粒砂層、灰褐色シルト層、暗灰色シルト層、灰褐色シルト層（古墳時代水田土壌）、褐色シルト層（奈良時代包含層）の順に堆積している。地震痕は第122図に示すように灰褐色中粒砂層を給源とし、暗灰色シルト層および灰褐色シルト層（古墳時代水田土壌）を引き裂き、その水田畦畔上に広がる噴砂丘を有する噴砂として確認された。噴砂の形状は、噴き出し口がほぼ楕円形を呈しており、その規模は、長径



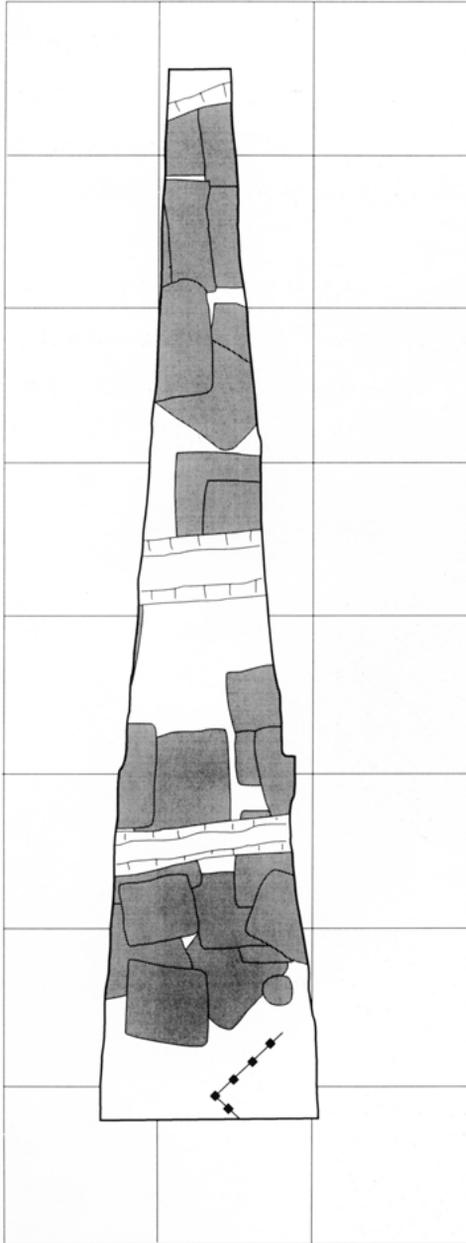
上：92Aa区の噴砂断面  
右：92Aa区の噴砂の広がり



第122図 92Aa区噴砂スケッチ図

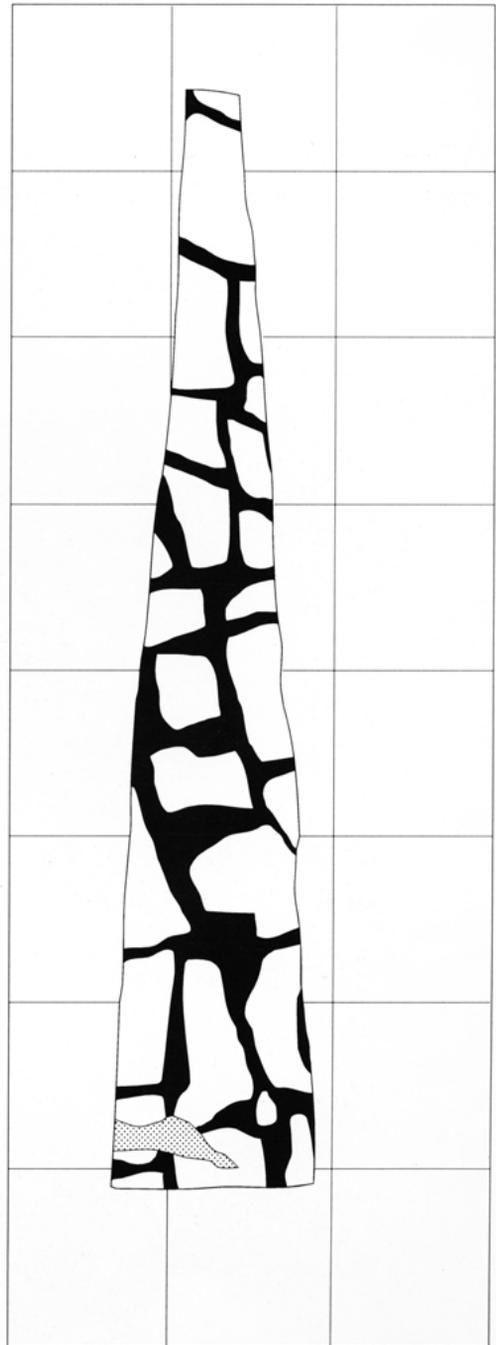
で約3m、旧地表面では第123図に示すような広がり呈する。噴砂は給源となる砂層から約30cm上昇している。

噴砂丘は、新期の遺構である堅穴住居群によりその上端部を掘削されている。なお、この堅穴住居群の年代は、出土遺物より黒笹14号窯～折戸53号窯式に比定される。



第123図 上面：堅穴住居跡検出状況

92Aa区の噴砂検出状況  
上面では噴砂は検出されないが、下面で噴砂の広がりを確認することができる。



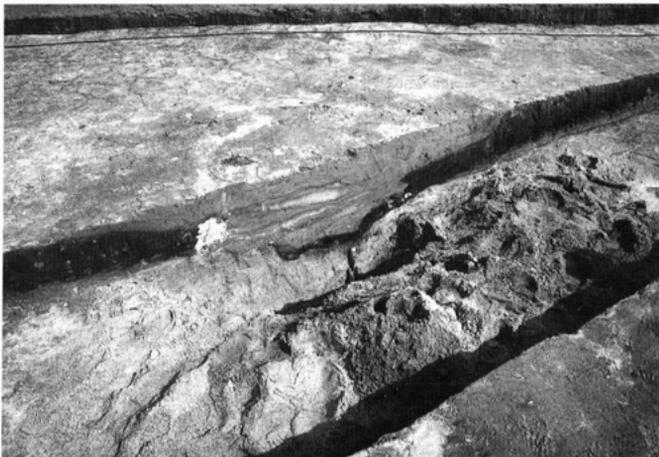
第124図 下面：古墳時代水田と噴砂検出状況

**<95Aa区の地震痕>** 95Aa区は、下層より灰色中粒砂層、灰褐色砂質シルト層、灰褐色中粒砂層、灰色シルト層、灰褐色粘土層（古墳時代水田土壌）、灰色シルト層（奈良時代包含層）の順に堆積している。地震痕は灰色中粒砂層を給源とし、灰褐色砂質シルト層および灰褐色中粒砂層を引き裂いて噴き出し、上端部を洪水性の砂層である灰褐色中粒砂層に削剥された状態の中粒砂よりなる砂脈として確認された。噴出口の形態は確認できなかったが、断面においては砂脈下端部で幅1m、給源の砂層から60～80cm程度上昇している様子が観察された。噴出時に周囲から取り込んだと思われる40×60cm程度のシルト塊を挟み、枝分かれしているような状況を呈している。なお、砂脈および引き裂かれている灰褐色砂質シルト層を削剥し、これを覆っている灰褐色中粒砂層からは年代を示す考古遺物は得られていない。

**<93J区の地震痕>** 93J区は下層より灰白色中粒砂層、灰褐色シルト層、黒褐色シルト層、灰褐色シルト層、明黄灰色粗～中粒砂層よりなる。確認された地震痕は、砂脈で黒褐色シルト層を引き裂いて噴き出しているが、上端部がどの層準まで達しているかは不明である。また砂の噴き出しによる砂層内の体積減少で黒褐色シルト層の陥没と変形構造が確認された。



95Aa区の砂脈



93J区の地層の変形

### <田所遺跡の地震発生履歴>

以上のような観察所見から推定される田所遺跡における歴史時代の地震発生履歴についての若干の考察を加えてみる。なお、ここで扱う地震の規模は、地層中に液状化の痕跡を残すものであり、最低でも震度5以上のものである。従って、防災基準の整備された現代とはくらべものにならないような被害が生じたことは想像出来よう。

まず、92Aa区の地震痕については、噴砂として畦畔部分から5世紀中頃の宇田型甕を検出した古墳時代後期の水田を引き裂き、その畦畔上に広がり、かつ黒笹14号窯～折戸53号窯式(9～10世紀頃)に比定される竪穴住居群に噴砂上端部を掘削されていることから年代幅の絞り込みが可能になる。この噴砂は、水田畦畔上に広がりを持つことから、上層に展開する竪穴住居群よりもむしろ水田が営まれていた年代に近い時期の地震によるものと考えることが妥当であろう。「新編日本被害地震総覧」(宇佐美、1996)によるこの間の年代に相当する地震として、684年の白鳳南海地震、715年の三河国府を震源とする地震、745年の美濃国府を震源とする地震がある。白鳳南海地震は、東海地方とは関係のない地震と考えられるが、寒川(1992など)により静岡県坂尻遺跡、川合遺跡などでこれに対応する東海地震の存在が確実視されている。服部(1993)は、出土遺物の整理が進んでいない段階で、この92Aa区の噴砂を古墳時代後期より新しく、奈良・平安時代よりも古い地震として白鳳南海地震としていたが、現時点ではさらに古い時代の地震である可能性も否定できなくなった。この問題については、田所遺跡周辺の遺跡で検出されている地震痕の年代と共に改めて検討しなくてはならない。

95Aa区の地震痕の地震痕については、砂脈の影響を受けた地層中から年代を示す考古遺物は得られていないために、起源となる地震の発生年代は特定出来ない。しかしながら、古墳時代後期の水田土壌が形成される以前に洪水により砂脈上端部を削剝されていることから、最低でも水田の時期よりは古いことがわかる。

93J区の地震痕についても形成時期不明であるが、噴砂による支持層の堆積減少から発生した黒褐色シルト層の陥没が、比較的速やかに埋積されているように観察されることから、黒褐色シルト層形成直後の可能性が考えられる。しかしながら黒褐色シルト層の形成年代をしめす考古遺物は検出されていない。

田所遺跡では、この他に1891年の濃尾地震により形成された地震痕を多数検出している。地震痕の形態はそのほとんどが砂脈で、上端部は最近の水田あるいは畑の耕作により削り取られている。

### 文 献

- 宇佐美龍夫(1996)新編日本被害地震総覧増補改訂版. 東京大学出版会.  
 寒川旭(1988)考古学の研究対象に認められる地震の痕跡. 古代学研究, 116, 1-26.  
 寒川旭(1992)地震考古学—遺跡が語る地震の歴史—. 中央公論社.  
 服部俊之(1993)濃尾平野における歴史時代の地震痕. (財)愛知県埋蔵文化財センター年報平成4年度, 126-136.  
 服部俊之(1996a)北道手遺跡の地震の痕跡. 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第67集 北道手遺跡, 74-79.  
 服部俊之(1996b)歴史時代の自然災害. 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第66集 大毛沖遺跡, 154-159.

## 第5章 まとめ

### 第1節 田所遺跡出土の中国陶磁器について

田所遺跡から出土した中国陶磁器の破片総数は296点、その内訳は白磁143点、青白磁9点、青磁142点、青花2点となる（表36）。出土した破片はほとんどが小片であり、口縁部または高台部が確認できる破片は126点で、しかも半数以上の口縁部・高台部の残存率が12分の2以下である。従来の研究（\*1）では、中国陶磁器は口縁部形態、高台部形態、紋様構成によって分類されており、本遺跡出土の小片では分類可能なものも少なく、遺構内からの出土も少数であるが、尾張北部における中国陶磁器出土の一例として分類と遺跡内の分布の傾向について触れたい。

#### 1. 分類（第125図、第126図）

**白磁** 確認できる白磁の破片は143点。器種別では碗121点、皿16点、四耳壺2点、瓶3点となる。

**碗** 875・876は口縁部が小さい玉縁状になる。釉はうすく全体に貫入が見られる。875は体部がやや丸味をもち、釉色はうすい緑色がかった灰白色であるが、876は体部が直線的で、釉色は黄色味をおびた灰白色。（太宰府編年Ⅱ類・Ⅲ類）

778は口縁部を玉縁にする。釉は灰色をおびた白色で厚めにかけられる。877は幅が広く削り出しが浅い高台で、外面体部下半と高台内には施釉されない。見込み付近に沈線状の段をもつ。（太宰府編年Ⅳ類）

191は口縁部を外反させる。418・837・878・879は口縁部を外反させ端部を水平にする。体部内面の上位に浅い沈線をもつ418・837と体部内面に櫛状工具で紋様を描く878・879がある。（太宰府編年Ⅴ類）

838は底部内面の釉を輪状に掻き取ったもの。見込み付近に細い沈線をいれる。811・881は体部が口縁部にかけて直線的にのび、口縁部近くに一条の沈線をいれる。（太宰府編年Ⅶ類）

880・662は口縁部を外反させるもの。885・884は体部が直線的に外方向へのびる。口縁部形態しか確認できないため太宰府編年Ⅴ類かⅦ類としか言えない。

882・883・810は口縁端部に施釉しないいわゆる口禿のもの。釉はうすく、青味をおびた灰白色である。（太宰府編年Ⅸ類）

**皿** 886・417は体部を内弯させる皿。497は外面体部下半から底部にかけて施釉されない。

887・498は口縁端部が口禿になるもの。（太宰府編年Ⅸ類）

888は口縁部を外反させ、釉はうすくかけられる。（白磁皿E群）

779は器肉が厚く体部中位から口縁部にかけて外方向にひらく皿。

**壺** 500は四耳壺。釉はやや黄色味をおびた灰白色で、頸部に製作時の継ぎ目の痕跡がみられる。

**瓶** 小片で図化できなかったが体部に3本の縦沈線がはいる瓶がある。

**青磁** 青磁は同安窯系と龍泉窯系に区別できる。同安窯系28点、龍泉窯系111点。

同安窯系 確認できる器種は碗18点、皿10点。

碗 891は体部外面に細かい櫛目紋を有する。釉色はうすい緑がかった青色。(同安窯系Ⅰ類)

皿 893・892・979・419は体部が屈曲し口縁部が外方向へひらく。892は外面体部下半と底部には施釉されず、内外面ともに無紋。419は全面施釉の後、底部の釉を掻き取っている。見込みにはヘラ状工具による片彫りとジグザグ紋様をもつ。(同安窯系Ⅰ類)

龍泉窯系 確認できる器種は碗96点、小碗1点、皿11点、瓶1点。

碗 894は体部外面は無紋、内面に紋様を有する。895・896は底部の器肉が厚く、高台の断面四角形で露胎。見込みに紋様を有する。(龍泉窯系Ⅰ類)

746・190・812・980・897は体部外面に鎬連弁紋を有する。746は口縁部がやや外反する。897は底部の器肉が厚く、台形状の高台を浅く削り出している。(龍泉窯系B1類)

661・813は体部外面がヘラ描きの連弁紋碗。(龍泉窯系B3類)

線描きの大きな連弁紋碗(龍泉窯系B2類)、細い線描きの連弁紋碗(龍泉窯系B4類)、高台の断面が細い三角形になる鎬連弁碗(龍泉窯系B0類)なども確認できる。

898は体部外面に連弁紋を施し、胎土は黒色である。他の窯系である可能性もある。

899は口縁部を外反させる碗。内外面とも無紋である。(龍泉窯系D類)

口縁部が直口し内外面とも無紋の碗が1点確認できる。(龍泉窯系E類)

皿 192・901は体部中位で屈曲し、901は口縁端部をうすく引き出している。900は見込みに花紋を櫛状工具で描き、釉は焼成前に掻き取られている。(龍泉窯系Ⅰ類)

902は口縁部を外反させ端部を上へ引き出した皿で、体部内面を菊状にする。

青白磁 確認できる器種は碗1点、皿4点、合子4点。

皿 899は口縁部に施釉されない口禿の皿。

合子 499・890は合子の身。499は福建～広東窯産のものと思われる。

青花 確認できる器種は皿2点。

皿 663・903は口縁部がやや内弯し、底部が萁筥底になる皿。紋様構成は外面口縁部に波濤紋、体部外面に芭蕉葉紋を描く。(染付皿C群)

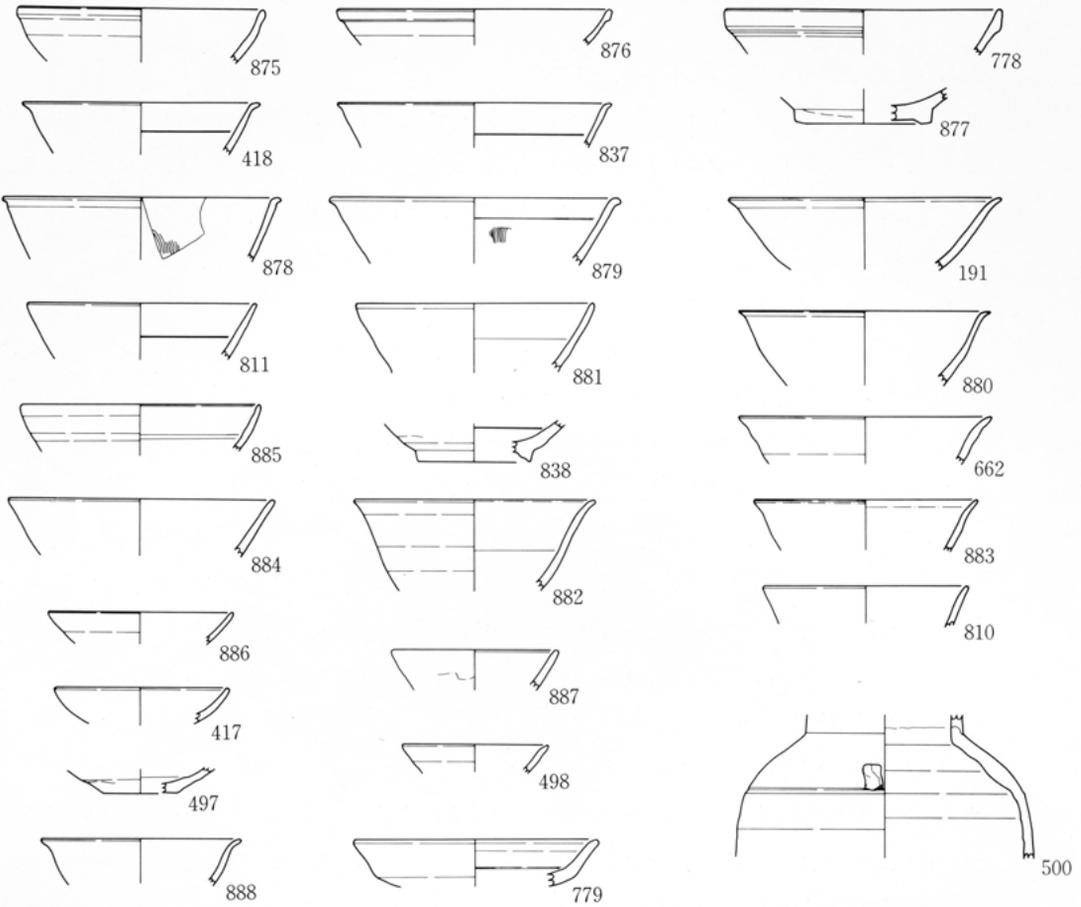
## 2. 分布の傾向と時期

遺跡内における中国陶磁器の出土数の割合は白磁が48%、青磁が48%と同じである。さらに、分布の状況を比較してみても全体的にほぼ同じような傾向を示している(図127)。

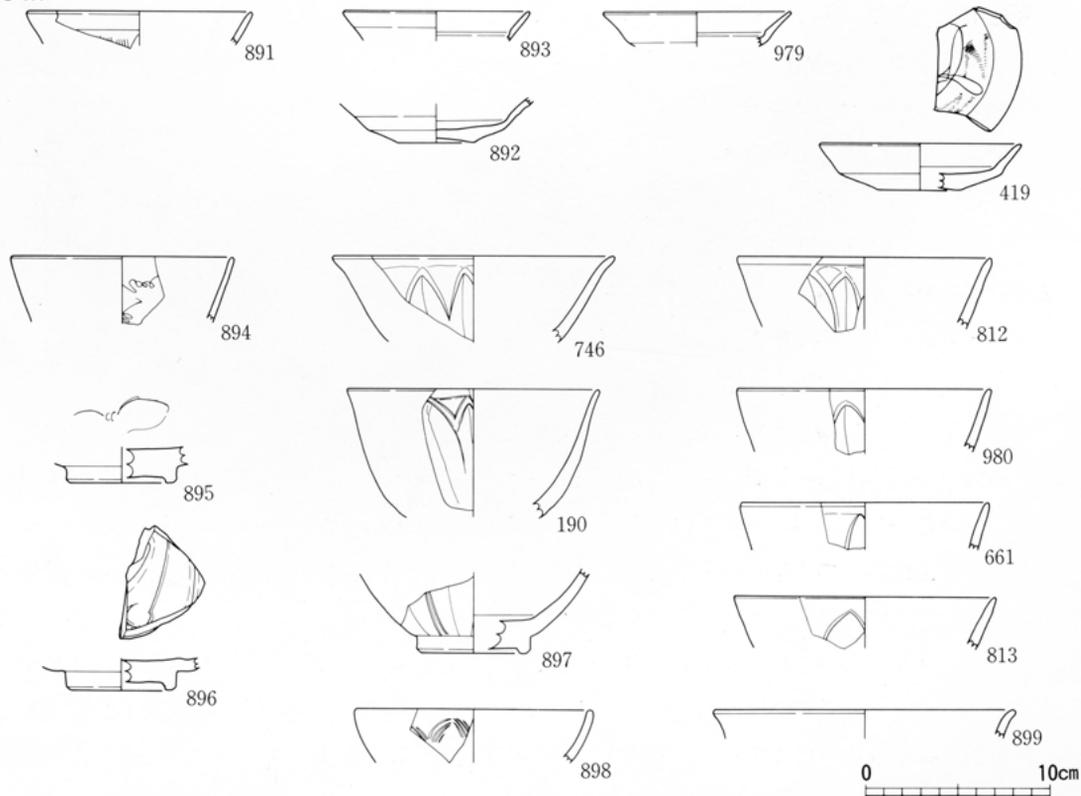
次に、出土した遺構の時期と中国陶磁器の時期を照らし合わせてみる。

**白磁** 太宰府編年Ⅱ類からⅤ類の時期は11世紀中葉から12世紀の初頭とされている。本遺跡において、太宰府編年Ⅱ類からⅤ類と確認できる破片は12世紀後半から13世紀前半の遺物が主体を占める遺構から出土している。太宰府編年Ⅷ類の時期は12世紀後半から13世紀前半とされている。この類は12世紀末から13世紀初めが主体となる井戸SE08で碗(838)と13世紀後半が主体となる井戸SE10で碗(811)が確認できる。太宰府編年Ⅸ類は13世紀中葉から14世紀中葉とされている。井戸SE10から碗(810)が1点、12世紀後半から13世紀初めの遺物が主体を占めるSD214から皿(417)が、12世紀後半から13世紀前半の遺物主体のSD220から皿(498)が出土している。

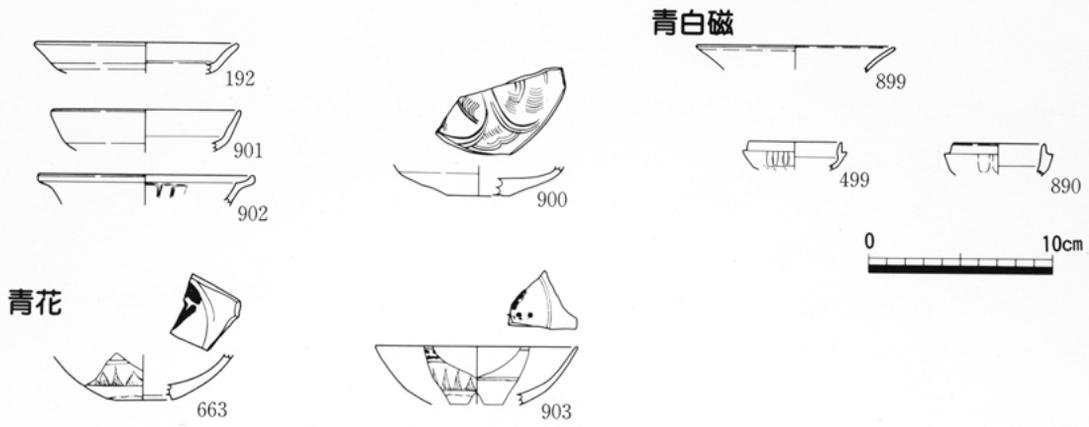
白磁



青磁



第125図 中国陶磁器実測図(1)



第126図 中国陶磁器実測図(2)



第127図 中国陶磁器出土分布図

	白磁	青白磁	青磁	計
93K	1			1
93Eb			1	1
93F			1	1
92E	1			1
94Ba	4		3	7
94Bb	3		1	4
94Ab	7			7
93J	1		2	3
92D	2		1	3
94Aa			1	1
92Aa	4	1	3	8
95Aa	1		1	2
93Ha	1			1
95Ab			1	1
93G	2		5	7
92H	3	1	6	10

第35表 分布図以外の出土中国陶磁器一覧表

**青磁** 同安窯系Ⅰ類と龍泉窯系Ⅰ類の碗・皿の時期は12世紀中葉から13世紀初頭とされている。同安窯系Ⅰ類と確認できる碗・皿はSD01・SD02・SD214(419)から出土している。さらに、龍泉窯系Ⅰ類については、SD214からの出土が7点を数える。12世紀後半から13世紀初頭を主体とする遺構からの出土が多く確認できる。

次に鎬蓮弁文をもつ碗。太宰府編年では龍泉窯系Ⅰ-5類とされ国立歴史民俗博物館による分類基準では龍泉窯系碗B1類となる。B1類は13世紀中葉から14世紀初頭とされている。墳墓堂を巡る溝SD03の東側部分(旧92Gb区SD26)からは古瀬戸の水注(743)・四耳壺(745)と碗(746)が出土している。龍泉窯系B2類は14世紀末から15世紀初めとされている。13世紀後半を主体とする井戸SE10から碗(813)が出土している。その他、龍泉窯系B3類、D類、E類の存在も確認できるがいずれも包含層からの出土である。

以上のことから中国陶磁器は太宰府編年そのものの時期よりも新しい時期の遺構から出土していると言える。

3. まとめ

田所遺跡は93J区の北部に善光寺街道が通り、この街道を境に遺構の性格が異なることが中国陶磁器も含めた他の特殊遺物の出土状況から窺える。街道の北側が墓域、南側には集落が展開している。白磁・青磁ともに南側の集落部分からの出土が多く、11世紀中葉から12世紀初めの時期とする白磁と12世紀中葉から14世紀中葉の時期とする青磁は同じような分布の傾向を示し、15世紀代から16世紀にかけての中国陶磁器の出土は僅かである。中国陶磁器からみた田所遺跡の南側集落は12世紀後半から14世紀初めにかけて生活面があったものと考えられる。

さらに尾張北部の中世の遺跡から出土する中国陶磁器を考察するためには、田所遺跡の近隣に位置する大毛沖遺跡や大毛池田遺跡についても遺跡の性格や中心となる時期をふまえて考えることが今後の課題として残されている。

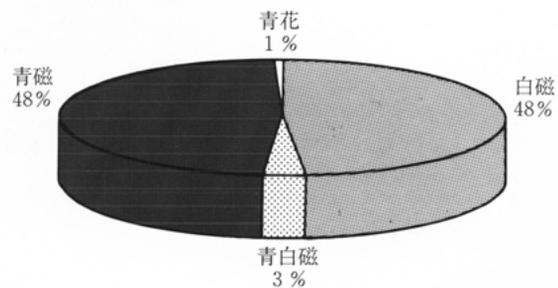
付記

- 中国陶磁器の産地、分類については森達也氏に御教示を得た。記して感謝いたします。
- \*1 中国陶磁器の分類にあたっては以下の文献を参考にした。  
 横田堅次郎・森田勉「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』1978  
 上田秀夫「14から16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』2号 1982  
 森田勉「14から16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』2号 1982  
 小野正敏「15・16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』2号 1982  
 国立歴史民俗博物館『日本出土の貿易陶磁 東日本編2』1994

白磁	143
青白磁	9
青磁	142
青花	2
計	296

	碗	小碗	皿	壺・瓶	合子	不明	計
白磁	121	0	16	5	0	1	143
青白磁	1	0	4	0	4	0	9
青磁	115	1	22	2	0	2	142
青花	0	0	2	0	0	0	2

第36表 出土中国陶磁器器種別一覧表



第128図 中国陶磁器組成図

登録番号	調査区	遺構番号	旧遺構番号	遺構時期	グリッド	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	分類	時期	備考
876	93G	SD210	SD11	12C後~13C前	ⅤE17d	白磁	碗	14.8	—	(1.8)	2/12	太宰府編年Ⅱ類	11C中~12C初	
875	94Ba	検Ⅱ			ⅣD14p	白磁	碗	13.2	—	(2.9)	3/12	太宰府編年Ⅱ類	11C中~12C初	
	95Ab	検Ⅰ			ⅤE14b	白磁	碗	—	—	(2.0)	1/12	太宰府編年Ⅱ類	11C中~12C初	
	93I	SD01	SD03	9C後~10C・12C後	ⅤD9p9q	白磁	碗	—	7.0	(2.5)	5/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中~12C初	
778	93G	SE09	SE01	12C末~13C前	ⅤE19c	白磁	碗	15.0	—	(2.3)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中~12C初	
877	92Ab	SK222	SK48		ⅤE7a8b	白磁	碗	—	7.3	(1.9)	4/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中~12C初	
	93I	ST22	ST02		ⅤD3p	白磁	碗	13.0	—	(3.3)	2/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中~12C初	
	92Ab	検Ⅱ			ⅤD11tⅤE12a	白磁	碗	14.8	—	(2.8)	2/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中~12C初	
	92E	SK74			ⅢD11o	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅳ類	11C中~12C初	
	93I	検Ⅰ			ⅤD4o	白磁	碗	—	—	(2.3)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中~12C初	
	94Ab	検Ⅰ			ⅤD19n	白磁	碗	12.2	—	(1.5)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中~12C初	
	94Ba	検Ⅱ			ⅤD19n	白磁	碗	12.2	—	(1.5)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中~12C初	
	94Ba	検Ⅰ			ⅤD19n	白磁	碗	12.2	—	(1.5)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中~12C初	
	95Ab	検Ⅰ			ⅤE14a	白磁	碗	—	—	(1.5)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中~12C初	
	95Ab	SD01	SD01	9C後~10C・12C後	ⅤD9r	白磁	碗	—	5.4	(2.5)	1/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	92H	SD02	SD43	12C後~13C前	ⅤE6d	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
418	93G	SD214	SD02上層	12C後~13C初	ⅤE20b	白磁	碗	12.8	—	(2.7)	1/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
837	93G	SE08	SE04	12C末~13C前	ⅤE1617d	白磁	碗	14.8	—	(2.4)	2/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
191	93Ha	ST95	ST05		ⅤE9c	白磁	碗	14.8	—	(3.8)	2/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
878	95Ab	検Ⅰ			ⅤD13s	白磁	碗	15.0	—	(3.3)	1/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
885	93F	掘り下			ⅢE17a	白磁	碗	11.8	—	(2.7)	1/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	94Ab	検Ⅰ			ⅤD13s	白磁	碗	13.0	—	(2.7)	2/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	94Ba	検Ⅱ			ⅣD14o	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	92Aa	検Ⅱ			ⅤE14a15a	白磁	碗	15.4	—	(2.4)	1/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
93K	SD92	SX02			ⅢD19r19s	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
879	93G	検Ⅰ			ⅤE16d18d	白磁	碗	15.6	—	(3.5)	3/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	94Ab	検Ⅰ			ⅤD13s	白磁	碗	11.4	—	(1.9)	1/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	92Aa	検Ⅱ			ⅤD15tⅤE15a	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	92H	SK325	北西土坑		ⅤD2t	白磁	碗	12.0	—	(1.5)	1/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	93F	検Ⅰ			ⅣD2r	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	95Aa	検Ⅰ			ⅤD14r	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	95Aa	検Ⅰ			ⅤD13s	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	95Aa	検Ⅰ			ⅤD13s	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	95Ab	検Ⅰ			ⅤE14b	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	95Ab	検Ⅰ			ⅤE14c	白磁	碗	—	—	(4.0)	1/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	SB18	SB12	ⅤG12a13a		白磁	碗	—	—	(2.8)	1/12	—	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
662	93G	SD01	SD01下層	9C後~10C・12C後	ⅤD18s	白磁	碗	13.6	—	(2.5)	2/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	93G	SD01	SD01下層	9C後~10C・12C後	ⅤD17s	白磁	碗	—	—	(3.7)	1/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	93G	SE09	SE01上層	12C末~13C前	ⅤE19c	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
880	94Ba	検Ⅱ			ⅤD13s	白磁	碗	13.6	—	(3.9)	2/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	92E	検Ⅰ			ⅣD3o3p	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	94Aa	検Ⅰ			ⅤD2r	白磁	碗	13.6	—	(2.3)	1/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	94Ab	検Ⅰ			ⅤD13s	白磁	碗	13.0	—	(2.9)	2/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	95Aa	検Ⅰ			ⅤD13s	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	95Ab	検Ⅰ			ⅤE14b	白磁	碗	—	—	(2.0)	1/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
	92Aa	SB22	SB03		ⅤD14tⅤE14a	白磁	碗	—	6.8	(1.8)	5/12	太宰府編年Ⅴ類	12C後~13C前	
838	93G	SE08	SE04	12C末~13C前	ⅤE1617d	白磁	碗	—	6.0	(2.0)	1/12	太宰府編年Ⅴ類	12C後~13C前	
811	93G	SE10	SE02	13C後半	ⅤE20c	白磁	碗	12.4	—	(2.0)	1/12	太宰府編年Ⅴ類	12C後~13C前	
881	92Aa	SK241	SK10		ⅤE14a	白磁	碗	12.8	—	(3.7)	1/12	太宰府編年Ⅴ類	12C後~13C前	
	93Hb	ST24	ST01		ⅤD1tⅤE1a	白磁	碗	—	—	—	1/12	太宰府編年Ⅴ類	12C後~13C前	
	92Aa	検Ⅱ			ⅤD13tⅤE13a	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅴ類	12C後~13C前	
	92Aa	検Ⅱ			ⅤD17tⅤE17a	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅴ類	12C後~13C前	
	92Aa	検Ⅱ			白磁	碗	—	—	—	—	—	太宰府編年Ⅴ類	12C後~13C前	
810	93G	SE10	SE02	13C後半	ⅤE20c	白磁	碗	11.0	—	(3.0)	1/12	太宰府編年Ⅴ類	13C中~14C中	
882	94Bb	検Ⅰ			白磁	碗	13.0	—	(4.8)	1/12	—	太宰府編年Ⅴ類	13C中~14C中	
883	93G	検Ⅰ			ⅤE1c	白磁	碗	12.0	—	(2.6)	1/12	太宰府編年Ⅴ類	13C中~14C中	
	92Aa	SB14	SB06		ⅤG15a16b	白磁	碗	—	—	—	—	—		
	92Aa	SB22	SB03		ⅤD14tⅤE14a	白磁	碗	—	—	—	—	—		
	92Cb	SD01	SD03	9C後~10C・12C後	ⅤD14q15q	白磁	碗	—	—	—	—	—		加工円盤
	92Cb	SD01	SD03	9C後~10C・12C後	ⅤD14p15p	白磁	碗	—	—	—	—	—		
	93G	SD01	SD01上層	9C後~10C・12C後	ⅤD18s	白磁	碗	—	—	—	—	—		
	93G	SD01	SD01下層	9C後~10C・12C後	ⅤD17s	白磁	碗	—	—	—	—	—		外面下半無軸
	93G	SD01	SD01下層	9C後~10C・12C後	ⅤD17s	白磁	碗	—	—	—	—	—		見込み段あり 外面下半無軸
	93G	SD01	SD02上層	9C後~10C・12C後	ⅤE20b	白磁	碗	—	—	—	—	—		
	93I	SD147	SD18	12C後~13C前	白磁	碗	—	5.6	(2.0)	4/12	—	15C	外面下半無軸	
	92Ab	SD186	SD09	12C後半	ⅤE9a10b	白磁	碗	—	—	—	—	—		
	92H	SD226	SD40		ⅤE7e8f	白磁	碗	—	5.4	(2.5)	1/12	—		軟質
	92H	SD228	SD49	9C前	ⅤE88h	白磁	碗	—	—	—	—	—		
	93G	SE09	SE01上層	12C末~13C前	ⅤE19c	白磁	碗	—	—	—	—	—		中世後半
	92Aa	SK245	SK35		ⅤE14b	白磁	碗	—	—	—	—	—		
	93G	SK294	SK107	12C後半	白磁	碗	—	—	—	—	—	—		外面下半無軸
	92E	ST03	SK76		白磁	碗	—	—	—	—	—	—		
	92D	ST19	ST16		白磁	碗	—	—	—	—	—	—		
	93I	ST22	ST02		ⅤD3o	白磁	碗	—	—	—	—	—		外面下半無軸
	93Hb	ST25	ST02		ⅤE4b	白磁	碗	—	—	—	—	—		
	93Ha	ST28	ST04		ⅤE6a	白磁	碗	—	—	—	—	—		外面下半無軸
884	92Ab	検Ⅱ			ⅤE11a11b	白磁	碗	14.4	—	(3.0)	1/12	—		
	92Aa	検Ⅱ			ⅤD14tⅤE14a	白磁	碗	—	—	—	—	—		
	92Aa	検Ⅱ			ⅤD15tⅤE15a	白磁	碗	—	—	—	—	—		見込み段あり
	92Aa	検Ⅱ			ⅤD15tⅤE15a	白磁	碗	—	—	—	—	—		見込み段あり 外面下半無軸
	92Aa	検Ⅱ			ⅤE15a16b	白磁	碗	—	—	—	—	—		見込み段あり 外面下半無軸
	92Aa	検Ⅱ			ⅤE16b17b	白磁	碗	11.0	—	(2.1)	1/12	—		
	92Aa	検Ⅱ			ⅤD17tⅤE17a	白磁	碗	—	—	—	—	—		
	92Aa	検Ⅲ			ⅤE14a15a	白磁	碗	11.2	—	(3.0)	1/12	—	11C後~12C	口縁部近くに一条の沈線
	92Aa	検Ⅰ			白磁	碗	—	—	—	—	—	—		
	92Aa	検Ⅱ			ⅤD15tⅤE15a	白磁	碗	—	—	—	1/12	—		高台部 高い削り
	92Aa	検Ⅱ			ⅤD17tⅤE17a	白磁	碗	—	—	—	—	—		
	92Aa	検Ⅰ			白磁	碗	—	—	—	—	—	—		見込み段あり 外面下半無軸
	92Ab	検Ⅱ			ⅤE12a12b	白磁	碗	—	—	—	—	—		
	92Ab	検Ⅱ			ⅤD8tⅤE8a	白磁	碗	—	—	—	—	—		
	92Ab	検Ⅱ												

登録番号	調査区	遺構番号	旧遺構番号	遺構時期	グリッド	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	分類	時期	備考
93Ha			検Ⅱ		ⅤE10d	白磁	碗	—	—	—	—			
93Ha			掘り下Ⅰ		ⅤD12s	白磁	碗	—	—	—	—			
93Ha			東壁			白磁	碗	—	—	—	—			
93Hb			掘り下Ⅱ		ⅤE20b	白磁	碗	—	—	—	—			
94Ab			検Ⅰ			白磁	碗	—	—	—	—			
94Ab			検Ⅰ			白磁	碗	—	—	—	—			
94Ab			検Ⅰ			白磁	碗	—	—	—	—			
94Ba			検Ⅱ		ⅣD14p	白磁	碗	—	—	—	—			見込み段あり 外面下半無袖
94Ba			検Ⅱ		ⅣD17o	白磁	碗	—	—	—	—			見込み段あり
94Ba			検Ⅱ			白磁	碗	—	—	—	—			外面下半無袖
94Ba			検Ⅰ			白磁	碗	—	—	—	—			
94Bb			表土はぎ			白磁	碗	—	—	—	—			外面下半無袖
94Bb			表土はぎ			白磁	碗	—	—	—	—			
95Ab			検Ⅰ		ⅤE14a	白磁	碗	—	—	—	—			
95Ab			検Ⅰ		ⅤE14a	白磁	碗	—	—	—	—			外面下半無袖
95Ab			検Ⅰ		ⅤE14a	白磁	碗	—	—	—	—			
95Ab			検Ⅰ		ⅤE14b	白磁	碗	—	—	—	—			
95Ab			検Ⅰ		ⅤE14b	白磁	碗	—	—	—	—			
95Ab			検Ⅰ		ⅤE14b	白磁	碗	—	—	—	—			
95Ab			検Ⅰ		ⅤE14t	白磁	碗	—	—	—	—			外面下半無袖
95Ab			検Ⅰ		ⅤE14c	白磁	碗	—	—	—	—			
93G			検Ⅰ		ⅤE15b15c	白磁	不明	—	—	—	—			
92Ab	SB31	SB10			ⅤE12a12b	白磁	瓶	—	—	—	—			体部に3条の縦沈線
92Aa			検Ⅰ			白磁	瓶	—	—	—	—			
93F			掘り下		ⅣD2s	白磁	瓶	—	—	—	—			体部に3条の縦沈線
500	92H	SD02	SD43-45	12C後~13C前	ⅤE8f	白磁	四耳壺	—	—	(7.6)	—		12C	
	92E		SD36		ⅣD2r	白磁	四耳壺	—	—	—	—			12C~13C
497	92H	SD02	SD43	12C後~13C前	ⅤE6d	白磁	皿	—	4.0	(1.2)	1/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中~12C初	
417	93G	SD214	SD02(SD05)	12C後~13C初	ⅤE20a	白磁	皿	9.4	—	(1.8)	2/12	太宰府編年Ⅳ類	12C	
498	92H	SD220	SD45	12C後~13C前	ⅤE2a	白磁	皿	8.0	—	(1.5)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	13C中~14C中	
887	92E		検Ⅰ		ⅣD19o	白磁	皿	9.0	—	(2.1)	2/12	太宰府編年Ⅳ類	13C中~14C中	外面下半無袖
888	93Hb		掘り下Ⅰ		ⅤE3b3c	白磁	皿	10.8	—	(2.4)	1/12	白磁皿E群	15C後~16C後	
	92Ca	SD01	SD03	9C後~10C・12C後	ⅣD12q	白磁	皿	—	—	—	—			15C
779	93G	SE09	SE01下層	12C末~13C前	ⅤE19c	白磁	皿	12.9	—	(2.4)	4/12			中世後半?
	93Hb	ST25	ST02		ⅤE3b	白磁	皿	—	—	—	—			
886	95Ab		検Ⅰ		ⅤE14b	白磁	皿	10.0	—	(1.5)	1/12			
	92Aa		検Ⅱ		ⅣD13tⅤE13a	白磁	皿	—	—	—	—			
	92Aa		検Ⅱ		ⅤE14a	白磁	皿	—	—	—	—			
	92Aa		検Ⅱ		ⅣD16tⅤE16a	白磁	皿	—	—	(1.4)	1/12			
	92Aa		検Ⅱ		ⅤE15a16b	白磁	皿	—	3.0	(1.6)	5/12			平底
	92H		検Ⅱ		ⅤE2b	白磁	皿	—	—	—	—			
	93G		検Ⅰ		ⅤE19c	白磁	皿	—	3.4	(1.0)	1/12			外面下半無袖
	93K		検Ⅰ			白磁	皿	7.4	—	(1.7)	2/12			
	93Ha		検Ⅰ		ⅣD8t	青白磁	碗	—	—	—	—			
	92H	SD02	SD43	12C後~13C前	ⅤE8a	青白磁	皿	—	—	—	1/12		13C~14C前	口壳皿
	93Hb	ST25	ST02		ⅤE5a	青白磁	皿	—	—	—	1/12		12C~13C	
889	94Bb		検Ⅱ		ⅣD7r	青白磁	皿	10.6	—	(1.3)	1/12		13C~14C前	口壳皿
	92Aa		検Ⅱ		ⅤE14a15a	青白磁	皿	—	—	—	—			
	92Aa	SB15	SB07		ⅣG14a15a	青白磁	合子	—	6.0	(0.8)	2/12			
499	92H	SD02	SD43	12C後~13C前		青白磁	合子	5.1	—	(1.4)	1/12		12C	福建~広東産
890	92Aa		検Ⅰ			青白磁	合子	4.9	—	(1.7)	1/12		12C	
	92Aa		検Ⅱ		ⅣD16tⅤE16a	青白磁	蓋	—	—	—	—			
	92Aa	SB18	SB12		ⅣG12a13a	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中~13C初	
	92Aa	SB22	SB03		ⅣD14tⅤE14a	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中~13C初	
	93G	SD01	SD01下層	9C後~10C・12C後	ⅣD18s	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中~13C初	
	92H	SD02	SD43	12C後~13C前		青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中~13C初	
	92H	SD02	SD43	12C後~13C前	ⅤE6d	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中~13C初	
	93G	SD214	SD02上層	12C後~13C初	ⅣD20b	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中~13C初	
	92Aa	SK241	SK10		ⅤE14a	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中~13C初	
891	95Ab		検Ⅰ		ⅤE14a	青磁	碗	12.2	—	(1.7)	1/12	同安窯系Ⅰ類	12C中~13C初	
	92Aa		検Ⅱ		ⅣD13tⅤE13a	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中~13C初	
	92Aa		検Ⅱ		ⅣD14tⅤE14a	青磁	碗	12.0	—	(2.0)	1/12	同安窯系Ⅰ類	12C中~13C初	
	92Aa		検Ⅰ			青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中~13C初	
	92Aa		検Ⅰ			青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中~13C初	
	92E		検Ⅰ		ⅣD19m19n	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中~13C初	漆継ぎ
	93F		掘り下		ⅣE1a	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中~13C初	
	93G		検Ⅰ		ⅤE18d17d	青磁	碗	13.0	—	(1.6)	1/12	同安窯系Ⅰ類	12C中~13C初	
	93Ha		掘り下Ⅱ		ⅣD7t	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中~13C初	
	95Ab		検Ⅰ		ⅤE14b	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中~13C初	
	95Ab		検Ⅰ		ⅤE14c	青磁	碗	—	—	(2.0)	1/12	同安窯系Ⅰ類	12C中~13C初	
	92Ca	SD01	SD03	9C後~10C・12C後	ⅣD13q	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	92Cb	SD01	SD03	9C後~10C・12C後	ⅣD14o15o	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	95Ab	SD01	SD01	9C後~10C・12C後	ⅣD14s	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	95Ab	SD01	SD01	9C後~10C・12C後	ⅣD13t	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	92H	SD02	SD43	12C後~13C前		青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	92H	SD02	SD43	12C後~13C前	ⅤE5f	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	93Ha	SD199	SD02	12C後半	ⅤE12b	青磁	碗	—	—	(2.2)	1/12	龍泉窯系		
	92H	SD219	SD47		ⅤE2a	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	92H	SD219	SD47		ⅣD2t	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	92H	SD225	SD42上層		ⅤE4f	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	93Hb	ST24	ST01		ⅤE20c	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	95Ab	SX22	SX01		ⅤE14c	青磁	碗	—	—	(2.1)	1/12	龍泉窯系		
	95Ab	SX22	SX01		ⅤE14c	青磁	碗	—	—	(1.0)	1/12	龍泉窯系		
894	93Ha		掘り下Ⅰ		ⅤE12b	青磁	碗	12.0	—	(3.4)	1/12	龍泉窯系	12C中~13C初	
	93Eb		掘り下Ⅱ		ⅣD11t	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	93Eb		掘り下			青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	93G		検Ⅰ		ⅤE19c	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	93G		検Ⅰ		ⅤE20d	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	93G		検Ⅰ		ⅤE17d	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	93Ha		検Ⅰ		ⅣD6t	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	93Ha		掘り下		ⅣD13t	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	93K		検Ⅰ		ⅣE11a	青磁	碗	—	5.0	(4.4)	4/12	龍泉窯系	14C後~15C初	
	95Aa		検Ⅰ		ⅣD13s	青磁	碗	—	—	(1.2)	1/12	龍泉窯系		
	95Aa		検Ⅰ		ⅣD14s	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	95Aa		検Ⅰ		ⅣD2s	青磁	碗	—	—	(1.4)	1/12	龍泉窯系		
	95Ab		検Ⅰ		ⅤE14a	青磁	碗	—	—	(2.0)	1/12	龍泉窯系		
	95Ab		検Ⅰ		ⅤE14b	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系		
	95Ab		検Ⅰ		ⅤE14s	青磁	碗	—	—	—	1/12	龍泉窯系		
898	95B	SD29	SD05	9C後	ⅣE9e	青磁	碗	12.6	—	(2.8)	1/12	龍泉窯系?	中世後半?	胎土黒色
	92Aa		検Ⅱ		ⅣD16tⅤE16a	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B0類	13C後~14C初	

第38表 出土中国陶磁器一覧表(2)

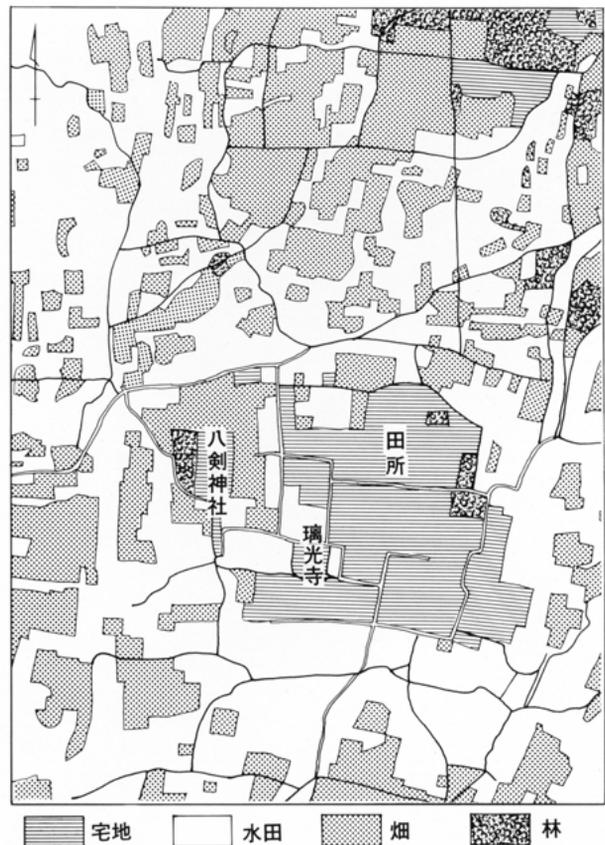
登録番号	調査区	遺構番号	旧遺構番号	遺構時期	グリッド	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	分類	時期	備考
92Cb	SD01	SD03		9C後～10C・12C後	ⅤD14q15q	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	献貢
92H	SD02	SD43		12C後～13C前		青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
746	92Gb	SD03	SD26-4	13C後半	ⅡE16d	青磁	碗	15.2	—	(4.6)	3/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
980	94Aa	SE05	SE01		ⅤD2p	青磁	碗	13.5	—	(3.2)	1/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
93G	SE09	SE01		12C末～13C前	ⅤE19c	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
812	93G	SE10	SE02	13C後半	ⅤE20d	青磁	碗	13.6	—	(3.8)	1/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
93G	SE10	SE02		13C後半		青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
190	93Hb	ST02	ST02		ⅤE4c	青磁	碗	13.6	—	(6.8)	1/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
93Hb	ST24	ST01			ⅤD3t	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
897	94Aa	検I			ⅤD2o	青磁	碗	—	5.6	(4.2)	5/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
92H	SD44	SD44			ⅤE6q	青磁	碗	10.4	—	(3.5)	1/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
93F	西壁					青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
93G	表採					青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
93J	検I					青磁	碗	15.6	—	(2.6)	1/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
94Ba	検II				ⅣD8q	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
94Ba	検I					青磁	碗	13.2	—	(2.8)	1/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
94Ba	検I					青磁	碗	12.0	—	(3.1)	1/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
95Aa	検I				ⅤD3q	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	加工円盤
95Ab	検I				ⅤE14b	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
95Ab	検I				ⅤE13b	青磁	碗	—	—	(3.5)	1/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
93Ha	SD201	SD03		9C前	ⅤE12a	青磁	碗	—	—	(3.5)	1/12	龍泉窯系B2類	14C末～15C初	
93G	SE09	SE01上層		12C末～13C前	ⅤE19c	青磁	碗	14.9	—	(2.8)	1/12	龍泉窯系B2類	14C末～15C初	
813	93G	SE10	SE02	13C後半	ⅤE20c	青磁	碗	14.0	—	(2.7)	1/12	龍泉窯系B2類	14C末～15C初	
93G	SE10	SE02		13C後半	ⅤE20c	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B3類	14C末～15C初	
93Hb	ST25	ST02			ⅤE3b	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B3類	15C末～16C初	
93G	検I				ⅤE20c	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B3類	14C末～15C初	
93G	検I					青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B3類	15C末～16C初	
95Aa	検I				ⅤD20p	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B4類	15C末～16C初	
661	94Aa	SD01	SD01	9C後～10C・12C後		青磁	碗	13.3	—	(2.5)	1/12	龍泉窯系B類	13C中～14C初	
92H	SD220	SD45		12C後～13C前	ⅤE3b	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B類	13C中～14C初	
92H	SD220	SD45		12C後～13C前	ⅤD3t	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B類	13C中～14C初	
93Hb	ST24	ST01			ⅤE1a	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B類	13C中～14C初	
92E	検I				ⅣD1o	青磁	碗	—	—	(2.0)	1/12	龍泉窯系B類	13C中～14C初	
93G	トレンチ03				ⅤE20c	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B類	13C中～14C初	
93Hb	ST24	ST01			ⅤE1a	青磁	碗	—	3.8	—	1/12	龍泉窯系B類	14C末～15C初	
899	94Aa	検I			ⅤD2s	青磁	碗	16.2	—	(1.4)	2/12	龍泉窯系D類	14C末～15C初	
95Ab	検I				ⅤE14b	青磁	碗	13.0	—	(1.8)	1/12	龍泉窯系E類	14C末～15C初	
93G	SB07	SB02				青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
92H	SD01	SD39		9C後～10C・12C後		青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
93G	SD01	SD01上層		9C後～10C・12C後	ⅤD19s	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
93G	SD01	SD01上層		9C後～10C・12C後	ⅤD20s	青磁	碗	—	—	(4.1)	1/12	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
95Aa	SD192	SD02		12C後半	ⅤD1p	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
93G	SD214	SD02上層		12C後～13C初	ⅤE20b	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
93G	SD214	SD02上層		12C後～13C初	ⅤE20b	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
93G	SD214	SD02上層		12C後～13C初	ⅤE20a	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
93G	SD214	SD02上層		12C後～13C初	ⅤE20a	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
93G	SD214	SD02上層		12C後～13C初	ⅤE20b	青磁	碗	—	(3.9)	1/12	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
93G	SD214	SD02上層		12C後～13C初	ⅤE20b	青磁	碗	12.0	—	(3.3)	1/12	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
93G	SD214	SD02上層		12C後～13C初	ⅤD20t	青磁	碗	13.0	—	(2.5)	1/12	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
92H	SD220	SD45		12C後～13C前	ⅤD3t	青磁	碗	—	7.6	(2.0)	1/12	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
93G	SE09	SE01		12C末～13C前	ⅤE19c	青磁	碗	—	—	—	1/12	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
92E	ST03	ST42			ⅢD16r	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
93G	検I				ⅤE16d18d	青磁	碗	—	6.0	(1.9)	3/12	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
896	95Ab	検I			ⅤE14c	青磁	碗	—	5.4	(1.7)	6/12	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
92Aa	検II				ⅤE14a	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
92Aa	検II				ⅤE14a15b	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
92Aa	検II				ⅤD17tⅤE17a	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
92Ab	検II				ⅤD11tⅤE12a	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
92H	SK325	北西土坑			ⅤD2t	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
93Eb	掘り下I				ⅢD4r	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
93F	掘り下				ⅢE16a	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
93G	表採					青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
95Aa	検I				ⅤD14s	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
95Aa	検I					青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
95Ab	検I				ⅤD13s	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
95Ab	検I				ⅤE14b	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
92E	ST03	ST42			ⅢD16q	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
94Ba	検I					青磁	不明	—	—	—	—	龍泉窯系		
95Ab	検I				ⅤE14c	青磁	不明	—	—	—	—	龍泉窯系		
92Aa	検II				ⅤD14tⅤE14a	青磁	瓶	—	—	—	—	龍泉窯系		
92Aa	検I					青磁	瓶	—	—	—	—	龍泉窯系		
94Bb	検I					青磁	小碗	—	—	(1.6)	3/12	龍泉窯系		
93J	検I					青磁	皿	7.6	—	(1.5)	2/12	?		
93G	SD01	SD01下層		9C後～10C・12C後	ⅤD18s	青磁	皿	—	2.9	(0.8)	7/12	同安窯系	12C中～13C初	
419	93G	SD214	SD02	12C後～13C初	ⅤD20t	青磁	皿	10.8	4.4	(2.4)	3/12	同安窯系	12C中～13C初	
193	93Hb	ST24	ST01		ⅤE2b	青磁	皿	—	3.2	(1.4)	2/12	同安窯系	12C中～13C初	
892	93Ha	検I			ⅤE12c	青磁	皿	—	4.0	(2.3)	3/12	同安窯系	12C中～13C初	
893	93Ha	検I			ⅤE12c	青磁	皿	10.0	—	(1.6)	2/12	同安窯系	12C中～13C初	
979	95Ab	表土はぎ			青磁	皿	皿	10.0	—	(1.7)	2/12	同安窯系	12C中～13C初	
92H	SK325	北西土坑			ⅤD2t	青磁	皿	—	(4.2)	—	2/12	同安窯系	12C中～13C初	
93G	検I				ⅤE17d	青磁	皿	10.0	—	(1.6)	1/12	同安窯系	12C中～13C初	
93Hb	掘り下I				ⅤD1t	青磁	皿	8.8	—	(1.1)	1/12	同安窯系	12C中～13C初	
94Aa	検I				ⅤD3o	青磁	皿	—	—	—	—	同安窯系	12C中～13C初	
92H	SD02	SD43		12C後～13C前	ⅤE6d	青磁	皿	—	—	(2.0)	1/12	龍泉窯系		
901	92H	SD02	SD43	12C後～13C前	ⅤE6d	青磁	皿	10.2	—	(2.2)	3/12	龍泉窯系	12C中～13C初	
900	95Aa	SD191	SD03-11		ⅤD20o	青磁	皿	—	3.4	(1.7)	4/12	龍泉窯系	12C後～13C前	
192	93Hb	ST24	ST01		ⅤE20b	青磁	皿	10.0	—	(1.6)	2/12	龍泉窯系	12C中～13C初	
92Db	検II				ⅤD20nⅤD1n	青磁	皿	—	—	—	—	龍泉窯系		
92F	検I				ⅡD17s	青磁	皿	—	8.0	(1.6)	2/12	龍泉窯系		
902	92Da	検II				青磁	皿	11.8	—	(1.6)	1/12	龍泉窯系	13C後～14C前	
92Aa	検II				ⅤE16b17b	青磁	皿							

## 第2節 田所集落と大溝

### 1. 大溝の検出と田所集落を囲む大溝の推定

1992年度の調査において、92C区と92D区から幅8～10mの南北方向に走る中世（鎌倉時代）の大溝が検出された。また、92H区では南北に走る溝に加えて、東西方向に走る幅約15mの溝が、さらに92E区の南端では、南から東へと屈曲していると思われる溝らしき遺構が検出された。この4つの発掘区から検出された大溝は、田所集落との位置関係から考えると、集落を囲む可能性も出てきた。そこで、明治17年の地籍図と、昭和25年に米軍が撮影した航空写真を基に、その位置を推定してみた。地籍図を取り上げたわけは、土地利用の状況が細かく読み取れ、そこから当時の地形が類推されるためである。特に田所は木曾川によって形成された自然堤防と後背湿地が入り組んだ場所に位置しており、古来畑作地としての利用が多かった。寛文12年（1672）頃のすがたを示す『寛文村々覚書』によると、畑・宅地の面積は79.9反であるのに対し、田の面積は20.2反であり、田の面積の割合は20%程度しかない。それが、江戸中期の新田開発及び、水利設備の開発による畑地の田への転換が進んだ結果、明治9年には畑・宅地面積92.4反に対して田の面積95.4反と、田の面積が50%以上の割合を示すに至った。つまり、地籍図に描かれた畑の部分は、中世においても畑か未開墾地であった可能性が高く、地籍図の田の部分に大溝が存在する可能性が高いと思われるのである。一方、航空写真からは、色調の差や模様から微地形が読み取れるので、低地の部分を判読することによって、大溝の位置が推定できると考える。

まず、地籍図を基に作成した土地利用図（第129図）を見ると、田所集落は東西・南北共に約200mの範囲に住居が密集しており、集落の西に村社八剣神社があり、その周囲には畑地が分布している。この住居の密集している部分と神社を含めた畑地の部分を合わせた部分が、自然堤防がほぼ長方形に残存した田所集落である。八剣神社の西側には、ほぼ南北に帯状に水田が並んでいる部分があり、明らかに人為的に造られた地形のように思われる。この帯状のラインの上に、92年度に検出した溝を重ねてみると、ほぼ位置が重なることがわかった。次に、東へ溝が屈曲していると思われる部分を重ねてみると、南側では水田が広がっており溝が伸びていく可能性が高いと思われた。しかし、北側では島畑がたくさん見られ、ここからは大溝の位置を推定することはできなかった。

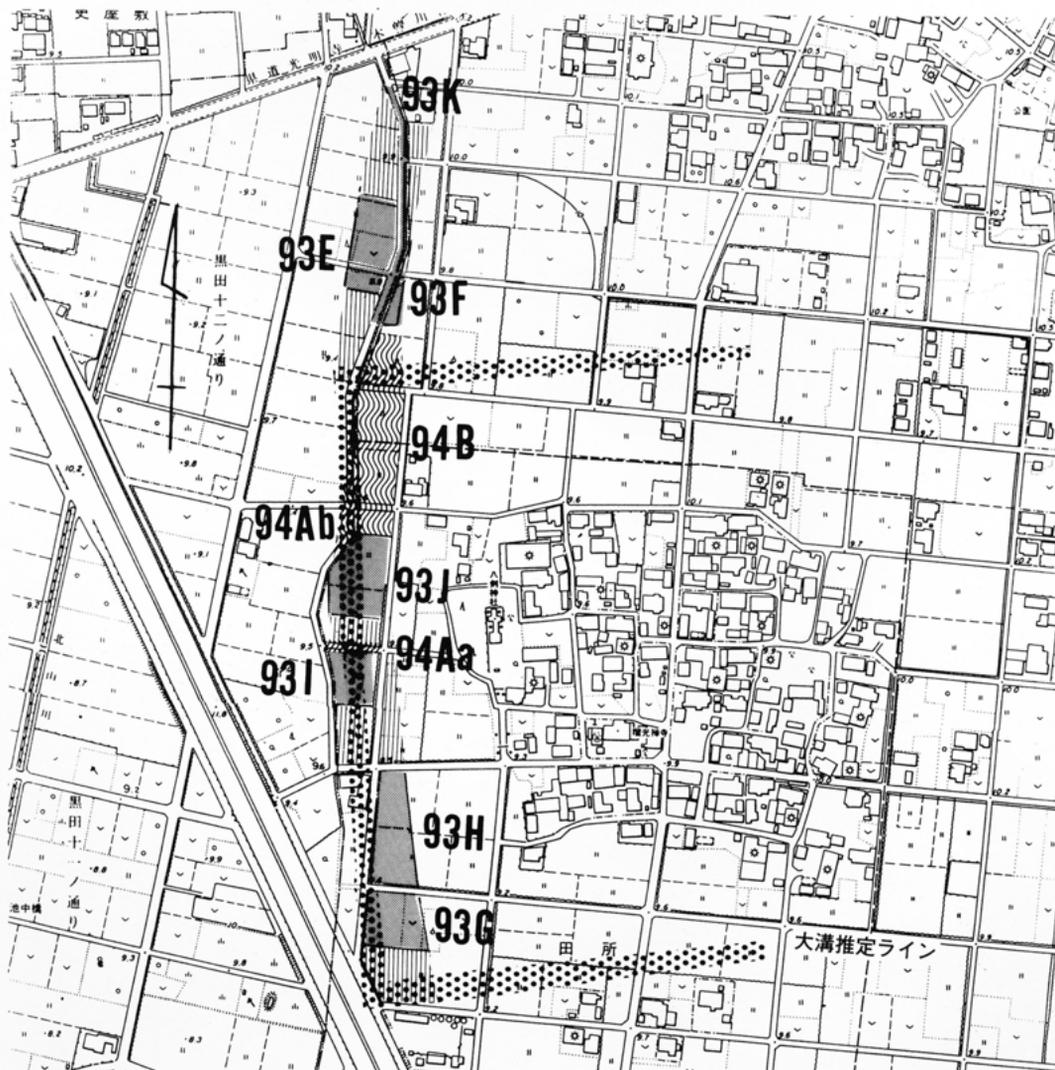


第129図 田所の土地利用図  
（明治17年の地籍図より作成）

次に、航空写真を見ると、集落の周辺に低地が帯状にいくつか走っているのが読み取れた。特に集落の西側を南北に走るものと、集落の北西角を北東から南西に向かって走るものが明確にとらえられた。さらに、集落の北側を東西に低地が筋状に走っている様子が読み取れることから、この辺りにも大溝が伸びる可能性があると思われた。

以上の点から、第130図のように大溝の位置を推定した。なお、この溝のことを田所大溝と呼ぶことにした。

田所周辺の航空写真



第130図 大溝推定ラインと平成5・6年度調査区位置図 (1:5000)

2. 1993・94年度の調査の結果

1993年度は、93E・F・G・H・I・J・Kの7区の調査を行った。

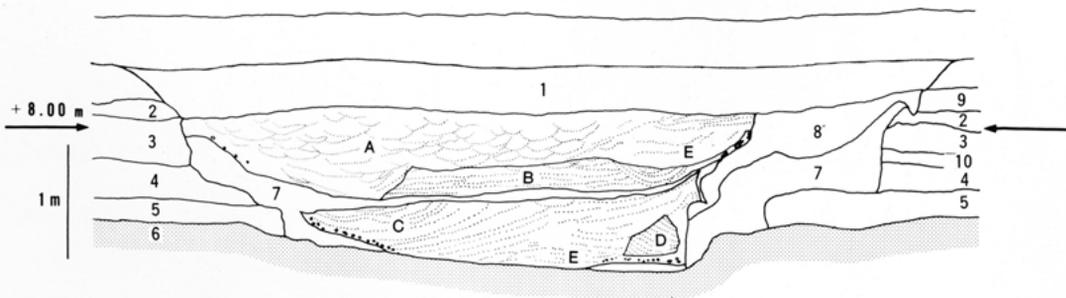
その結果、93I区において、幅最大8m、残存部の深さ最大約1.5mの大溝が、92C・D区に連続する形で検出された。一方、93J区においても、南の92D区と連続して南北に直線上に伸びた状態で検出されたが、発掘区のはぼ中ほどで消滅してしまっていた(第10図)。大溝の推定位置と比較すると、南北の長さが100m以上短く、また東へ屈曲している様子も見られなかった。

93G区では、田所大溝と同時期の土坑、井戸、小溝などが集中して検出された。(第13図)。井戸は1基重複して5基検出され、そのうち4基に曲物及び木組などの構造物が遺存した。小土坑は百数十基検出されたが、掘立柱建物などは確認されなかった。注目されるのは、十数条検出された小溝である。いずれも東西方向、あるいは南北方向をとっており、田所大溝や田所集落の軸と同一の方向性を示しており、大溝の内側を区画する溝の可能性も考えられる。また、SD02からは13~14世紀の比較的多量の灰系糸陶器が出土した。93G区と同様に田所大溝に近接した位置にある北隣の93H区では、14世紀以降と思われる水田が調査区の中央から北部に広がっていた。しかし、集落に関する遺溝は南端部以外は検出されていない。93G区的位置は、溝が集落を方形にめぐっているとすると、その区画の中では南西のコーナーにあたり、集落域において特殊な部分にあたるためと考えられる。

1994年度は、92D・93I区間の道路部分(94Aa区)と田所大溝が消滅している93J区から方へ向かう地点の94Ab・B区の調査を実施した。その結果、94Aa区では田所大溝が連続して検出されたが、94Ab区以北は大溝と思われる遺構は検出されなかった。また、1992年度の調査で、南北に伸びた大溝が東に屈曲されると予想された92E区の東側からは、遺構検出面のシルト層をつき破り、方形に噴出した砂の層が認められた。その結果、この地点においては東に伸びる溝は存在しないことが明らかになった。

ただ、94B区では数は少ないが、溝やピット列が南北の方向性を示していることから、大溝の方向性と一致していることから、何等かの関連性がうかがえる。

以上の調査結果より、田所大溝は田所集落の西側と南側にL字型に造られたという点では疑うべきものではないが、現状では集落を連続して囲む溝ではないことが明らかになった。



- |              |                |                       |
|--------------|----------------|-----------------------|
| 1. 褐色シルト質粘土  | 6. 黄灰色極細粒砂     | A. 中粒~粗粒砂(トラフ状斜交層理)   |
| 2. 暗黄褐色粘土    | 7. 黄褐色シルト      | B. 細粒砂(平行葉理、トラフ状斜交層理) |
| 3. 暗オリーブ色シルト | 8. 暗黄色シルト      | C. 細粒砂(トラフ状斜交層理)      |
| 4. 灰色極細粒砂    | 9. 灰黄褐色粘土      | D. シルトと細粒砂の互層からなるブロック |
| 5. 灰色シルト     | 10. 暗黄褐色粘土質シルト | E. 液状化跡               |

第131図 大溝SD01土層断面図

### 3. 田所大溝の機能

それでは大溝は何のために掘られたのであろうか。大溝のセクションを見ると（第131図）、大溝の堆積物は、灰色粘土層（1）、中粒～粗粒砂層（A）、細粒砂層（B）、細粒砂層（C）、黄褐色シルト層（7）、暗黄色シルト層（8）である。シルト層を切る形で砂層が堆積しさらにその上にシルト層が堆積していることから、止水性の時期があった後強い流れが起こり、シルト層を削った後砂層が堆積し、また止水性の時期になったことがうかがわれる。さらに、砂層中には葉理が発達しており、ここからは北から南への流れがあったことが明らかになった。一方、92H区から検出された幅約15mの東西の溝も、その葉理から東から西へ向かっての流水性を示す時期があったことが明らかになった。

以上の点を念頭に置き大溝が掘られた目的について推測すると、可能性として下記の3つが挙げられる。

- ①集落を防御するための堀
- ②集落を区画するための溝
- ③灌漑水路および排水路

（このうち①と②については、大溝が田所集落を巡るということを前提として考えている。）

まず、防御という点についてであるが、大溝が幅が広く深さも深い点から考え、防御の機能を持っていたと考えるのは自然であろう。そうすると、大溝が推定ラインのかなり手前でとぎれているのは、出入口として開けてあるのであろうか。94年度の調査では、この辺りには浅い溝やピット列が南北方向に伸びていることが確認されている。溝がない代わりに柵などを設けていた可能性もある。防御といっても、人だけでなく動物などの侵入を防ぐ目的も考えられる。ただこの大溝が、武士の館の堀だと考えるのはどうであろうか。全国的に見て当時の武士の館の大きさは、半町×半町、1町×1町程度が普通であり、4町四方の堀というのは前例がない大きさである。武士の館の堀としては無理があると思われる。

集落を区画する溝という点についてであるが、区画するだけなら水を入れる必要はないし、もっと浅くてもよいであろう。田所周辺の後背湿地は地下水位が高く、空堀として掘っても底部から湧水があり、止水性の溝の状況を呈すと考えられる。と言うことは、田所大溝は水を必要とする意図があったと考えるのが自然であろう。他の中世の遺跡にも、複合的な機能を持っているものや途中で別の用途に使われ出したものもかなり見られる。集落を区画する意味はあったにしろ、それだけではなかったと考えられる。

次に、灌漑水路という点についてであるが、田所集落の周辺、特に南側は近世に新田開発が進められたり、水田化が進んだ地域である。この当時に、南に水を流し新たな水田を得ようという動きがあっても不思議ではない。また、東西・南北の溝が92H区の西側で合流後、さらに西ないし南西方向へ水を導き、野府川（旧黒田川）へと排水された可能性も高いと考えられる。だとすると、大溝は灌漑用水としての機能を持っていたことが予想される。ただ、用水ならば、水の供給源があるはずである。しかし、今回の調査ではそれははっきりしなかった。また、大溝に止水性の時期がある点から見て、常に灌漑用水の機能を果たしていたとは考えにくい。また、逆に水はけの悪い湿地の排水の役割を持っていたとも考えられる。

以上、田所大溝の機能について、その可能性を推測してみたが、やはり溝の全貌が明らかにならないと分らないと言えよう。

#### 4. 田所集落の成立時期

田所遺跡からは、大溝と同時期の住居跡は検出されていない。それでは、大溝を掘削した人々はどこに住んでいたのであろうか。自然環境の面から考えても、大溝との位置関係から言っても、やはり今の田所集落の位置に住んでいたと考えるのが妥当であろう。

それでは、現在の田所集落が、田所大溝と同じ時期に成立した中世村落であったのだろうか。その点について、文献及び聞き取り調査を行った。

##### (1) 文献より

昭和61年に刊行された『葉栗史誌、神社仏閣編』には、田所集落の璃光寺と八剣神社の沿革が記載されていた。

璃光寺の前身は本寺がなかったので、慶長4年(1599)笹野の妙光寺の末寺とし、寺号を薬師堂と称した。その後、寛文年中(1661~1672)に璃光寺と寺号を改めたとのことである。

八剣神社は延喜年中(901~923)に創建されたと伝えられるという記述が見られるが、定かではない。天正12年(1584)に奉勤請願主なりと記載がある。

『織田信雄分限帳(戦国時代)』に「光明寺の内田所の郷内」と見え、信雄の家臣村井専次子・石田孫左衛門子・塙伝三郎子の知行地が合わせて130貫文あったと記載されている。

さて、大正6年に刊行された『葉栗村志稿』に、13世紀頃の田所集落とそれをめぐる堀に関する記述があることが知られている。この記述の基となる古文書が現存しないことから、この記述の信憑性についてはやや問題がある。しかし、参考までにそれを記すと、次の通りである。「屋敷の廣さは外構東西四町南北五町あり内構は一町平方あり其の周圍に大堀及び大土堤を築けり現今田所といふは此の屋敷の事なり。」この記述からは、田所集落の外構の周圍に大堀と大土堤を築いたとも読み取れる。すると、その大堀及び大土堤の大きさは、東西約400m、南北約500mを超える大きさと考えられ、大溝の推定ラインの大きさと似ているのは興味深い。

以上、文献からは戦国時代までは遡れることは確実なようである。

##### (2) 過去帳の調査

田所集落の菩提寺である笹野の妙光寺の過去帳によると、寛永6年(1629)が第1巻であり、それ以前については不明であった。田所集落関係では、寛永9年に「忠右衛門没」の記載があったが、寛永6年以前に「忠右衛門の母、大室妙用禪定尼没」の記載もあり、年代不明ではあるがこれも最も古い記録である。

##### (3) 田所集落の調査

田所集落は璃光寺の周圍に60戸ほどの家がほぼ長方形に集まっており、集落の西には村社の八剣神社が鎮座する。天保12年の村絵図(1841)と比べても、基本的な集落の形態にはほとんど変化がない。古くから住んでいる人はすべて臨濟宗を信仰しているが、菩提寺は璃光寺ではなく、笹野にある妙光寺である。八剣神社の秋祭りの際にはすべての家から準備のために人が集まるなど、集落の結束は強

い。田所集落に古くから住んでいる住民の姓は、小島、橋川、野々垣の3種類しかない。その3つの姓について、本家分家の関係を聞き取り調査により調べたところ、第132図のような関係が明らかになった。これによると、小島 (Ko) 橋川 (Ki) 野々垣 (6系統) の流れがとえられ、時代の違いはあるものの、合計8軒の本家が確認された。本家は分家を出すときは、屋敷の一部を分け与えるのが一般的とのことであり、田所集落は中心部から次第に四方八方へと集落を拡大していったことがわかる。この、本家に当たる家に、古文書、位牌等の、古い年代を表すものについて聞き取りを行った。その結果、Ntmには文化8年(1811)、Nk・Ndには元禄時代(1688~1703)の位牌があった。Kiは、独自に位牌や過去帳を調べ、今日まで18代続いており、初代は寛永9年(1632)頃に没しているとのことであった。Koには、古文書が残されていた。それによると、先祖は慶長年中(1596~1614)に清須城主福島正則に仕え、やがて国替えになって安芸国広島へ随行した。しかし元和元年(1615)浪人となり、これ以後田所に帰ってくる。帰国後は武士の面目上苗字帯刀の願書を4回に渡り出していることがわかった。

以上のことから、やはり戦国末期ぐらいまでは確実なもの、それより以前については明らかではないという結果になった。



第132図 田所集落における本家・分家の関係図(1:2500)

## 5. 尾張における他の中世遺跡の消長

同じ尾張の沖積平野における中世遺跡の消長から、田所集落の成立時期を探ってみたい。ここでは、清洲町周辺にまとまって存在する遺跡の例を見る。

- ・朝日遺跡……100を越える土壙群が検出された。時期は、出土した副葬品から、14世紀中頃から15世紀前半だと考えられる。ただ、被葬者の居住域は調査区内には認められなかった。葬られた人々は、隣接する朝日西遺跡に住んでいたものと推定される。
- ・朝日西遺跡……11世紀後半から15世紀前半の村落遺跡であるが、大きく3つの画期が見受けられる。12世紀後半から屋敷地を区画する溝が掘削され始め、村落が出現する。13世紀後半から14世紀前半代になると、遺構はほぼ全域に展開し、屋敷地を区画する溝は幅5 m深さ2 mの大規模なものになる。14世紀後半から15世紀前半になると新しい溝が掘られるとともに、新しい屋敷地が設定されたり、旧来の屋敷地が拡張される。そして、15世紀中頃以降遺跡は衰退していく。
- ・土田遺跡……12世紀から15世紀の村落遺跡であるが、4つの画期が見られる。14世紀から15世紀にかけて、調査区内の遺構は機能を停止し、畑地や荒地に変わっていく。
- ・森南遺跡……14世紀から15世紀中葉にかけての村落遺跡である。微高地南縁沿いに幅5 mを超える大溝が走り、居住域を区画する。遺跡の最盛期は14世紀後半から15世紀前半である。
- ・阿弥陀寺遺跡……13世紀後半から15世紀前半にかけての村落遺跡で、遺跡の最盛期は14世紀に入ってからである。調査区全域に屋敷地を区画する溝が見られる。
- ・大淵遺跡……13世紀後半の村落遺跡である。

これらの村落遺跡の消長をまとめると、清洲周辺の中世村落は、13世紀後半から14世紀にかけて増大していく。この頃は、自然堤防や微高地が安定し、現在の自然地形にかなり近い形になると考えられ、在地の土豪勢力の伸張と相俟って、微高地や低湿地の開発が本格化したものと考えられる。村落の構造にも変化が見られ、村落内では屋敷地を区画する溝の規模が大きくなり、屋敷地が拡大する。また、村ごとに共同の墓域が居住域と隔絶された地区に出現する。しかし、こうした中世村落は、15世紀前半以降姿を消していく。それは、この時期に村落の再編成が行われるとともに、その位置が現存の村落下に移動したためと考えられる。

## 6. 研究の成果と課題

田所遺跡の発掘調査及び田所集落の調査により集落の西側及び南側に、大溝が造られたことが明らかになった。そして、その内側に井戸等の集落に関わる遺構や、一定の方向性を持った溝が存在することも確認された。一方、田所集落の成立時期については、文献及び聞き取り調査によって戦国時代までは遡れることが明らかになったが、大溝の造られた時期とは300年余りもの開きがあった。現在の田所集落が、鎌倉時代から継続して営まれてきた集落なのか、それとも尾張の他の中世村落の例と同様、その間に断絶があるのかは現時点では不明である。しかし、田所集落の北側と東側にも溝が造られている可能性があることが物理探査の結果からも指摘されている。今後、発掘調査の機会があれば、大溝がどのようにめぐっており、田所集落とどう関わっているのかが明らかになるものと期待される。

### 第3節 遺構・遺物から見た田所遺跡

田所遺跡において検出した遺構と出土した遺物について若干のまとめである。調査区全体が南北に細長く東西が狭い調査範囲となっており、遺跡の南北の広がりも想定できたが東西の広がりも不明確である。

#### 1. 住居跡

奈良時代から平安時代の住居跡を29棟検出した。調査区の南側（92A区より南）に偏って建てられておりSB05が住居跡の南限となる。92A区では住居跡の重複が激しく狭い地域に何度も建て替えられたことが窺える一方、遺跡を南下するにしたがって住居跡の重複も少なく1棟のみ単独でという地点もある。92A区では8世紀後半の住居が4棟（SB11・12・15・19）、9世紀初の住居が1棟（SB10）、9世紀後半の住居が7棟（SB09・13・14・15・16・17・22）、10世紀後半以降の住居が4棟（SB18・20・21・23）それぞれ検出している。

住居内出土各製品の生産地を見ると、遺跡の立地を反映し当時操業していた近在窯業地の猿投窯、美濃須衛窯、尾北窯、美濃窯の各製品があり、とりわけ美濃須衛窯と尾北窯の製品が目だった。

猿投窯の製品が主体を占めるSB01・04・06、美濃須衛窯の製品が主体を占めるSB07、尾北窯の製品が主体を占めるSB16、美濃窯の製品が主体を占めるSB18がある。8世紀末から9世紀初にかけての住居からは猿投窯・美濃須衛窯、9世紀後半の住居では猿投窯・尾北窯、10世紀後半の住居では美濃窯の各製品が出土している。

田所遺跡の南方に位置する大毛沖遺跡では住居は1、2棟が散らばって集落を形成していたようであるが、本遺跡も南下するにしたがい大毛沖遺跡と同様の様相を呈していくようである。

住居の形態も奈良時代、平安時代ともに一辺5～6m前後の方形プランを呈する。竈は明確には確認できなかったが壁面の近くで石と焼土、土師器甕がまとまって出土していることから竈の存在が窺えるのである。

集落の中心については、調査区の南側に住居跡が偏っていること、墨書陶器、緑釉陶器等の遺物出土分布が調査区の南側に集中していること、地籍図などの旧地形から、南北に位置する現在の田所集落に集落の中心があると想定される。

#### 2. 土坑

土坑（SK251）より灰釉陶器の椀、皿が「富壽神寶」3枚とともに出土したが、灰釉椀は猿投窯で黒笹90号窯期、灰釉皿は尾北窯で篠岡4号窯期で、9世紀後半の時期である。「富壽神寶」は818年（弘仁9年）から834年（承和元年）にかけて製造されており、共伴して出土した灰釉陶器の時期を知るうえで貴重な資料となった。なお愛知県下での「富壽神寶」の出土は、渥美町貝の浜貝塚で1例採集された報告があり、これについて2例目となった。

#### 3. 水田

古墳時代の水田は畦畔によって区画され、やや南北方向に細長く伸びる長方形及び不定形の平面形を呈する。一区画が東西3～4m、南北5～7mを測る。93H区では幅180cmを測る大畦畔と大畦畔内を区画する幅40cm前後の小畦畔を検出した。また95Aa区では一辺が2～5mを測る小区画の水田を検出した。一方中世の水田については古墳時代の水田ほど明確には確認できなかった。

#### 4. 溝

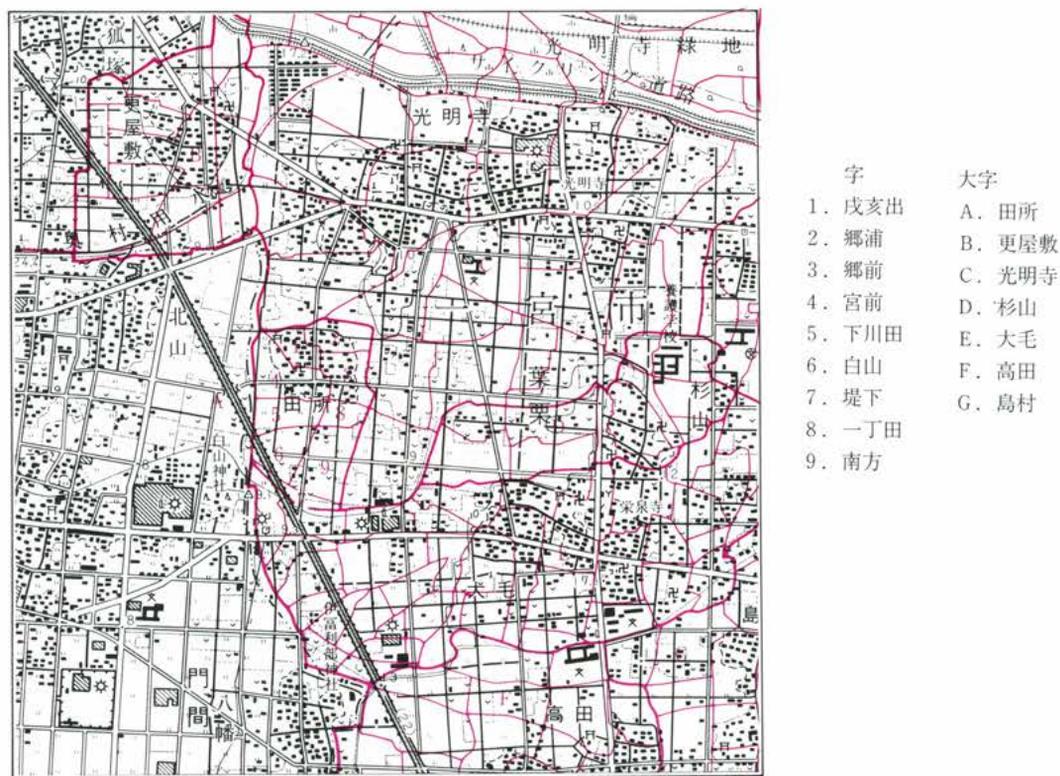
大溝（SD01）は幅8mから10m前後、深さは1m50cm前後を測るもので、調査当初は現在の田所集落を囲むように位置すると考えられた（第130図）が、93J区の調査で発掘区のはほぼ中央で大溝が消滅すること、94Ab区以北には大溝が検出されなかったこと、94B区の北側には東に伸びる溝が検出されなかったこと等から、大溝が現在の田所集落を囲むように存在していたと推定した大溝ラインの大幅変更を余儀なくされた。

大溝は調査区のはほぼ中央付近93J区よりはじまり南下し、南側で東に屈曲したL字型に掘られていたことから、現状では集落の西側と南側に掘られたL字型の大溝といえる。

出土遺物は古い時期の遺物では7世紀の杯身、新しい時期では17世紀の菊皿が出土している。

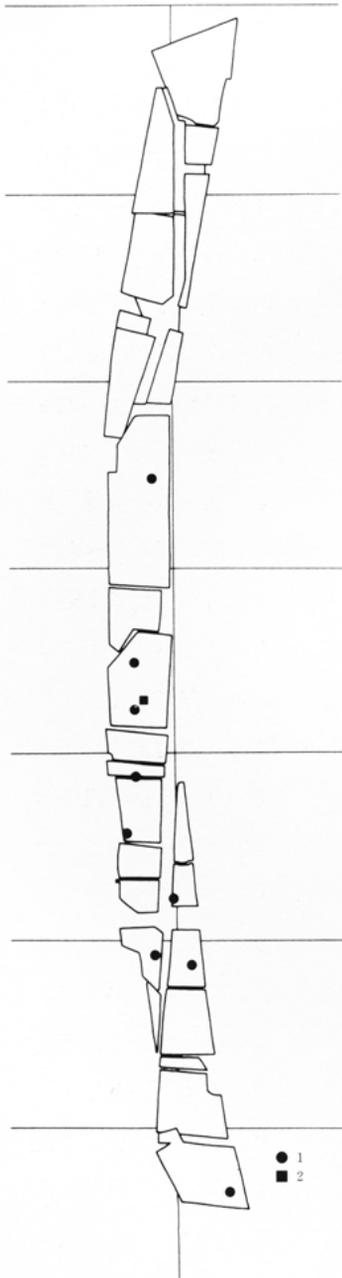
大溝出土の遺物総点数は5910点で、土師器類が2201点、灰釉系陶器が1844点、灰釉陶器1093点、須恵器661点、瀬戸・美濃40点、中国陶磁34点、常滑24点、古瀬戸9点、土錘3点、緑釉陶器1点である。土師器類が一番多く、新としたものは、柱状高台皿、土師質皿、清郷型・伊勢型の鍋等を指し、1509点、古としたものは、古墳時代以来の土師器を指し、692点出土している。灰釉系陶器は尾張型が1315点、東濃型が529点出土しており、尾張型が多い。

大溝を南北方向のSD01と東西方向のSD02に区別し、遺物組成をみたのが第141図、第142図、第42表、第43表である。SD01では3397点出土し、その内95Aa区よりの出土が1668点と49%を占める。東濃型353点、須恵器348点、土師器（新）336点、灰釉陶器318点、尾張型129点、土師器（古）119点等が出土している。この地点の調査区に遺物が多いのは、溝の東側の92Aa・Ab区と93Hb区に住

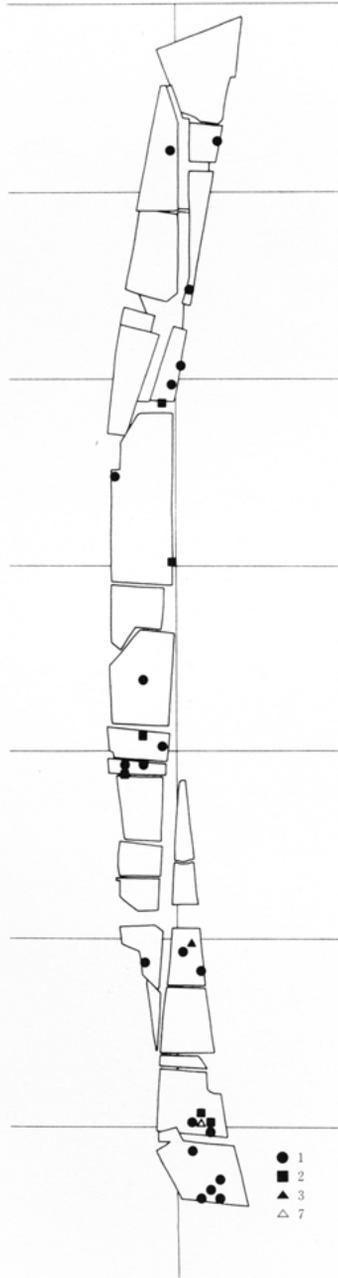


第133図 田所周辺字境図

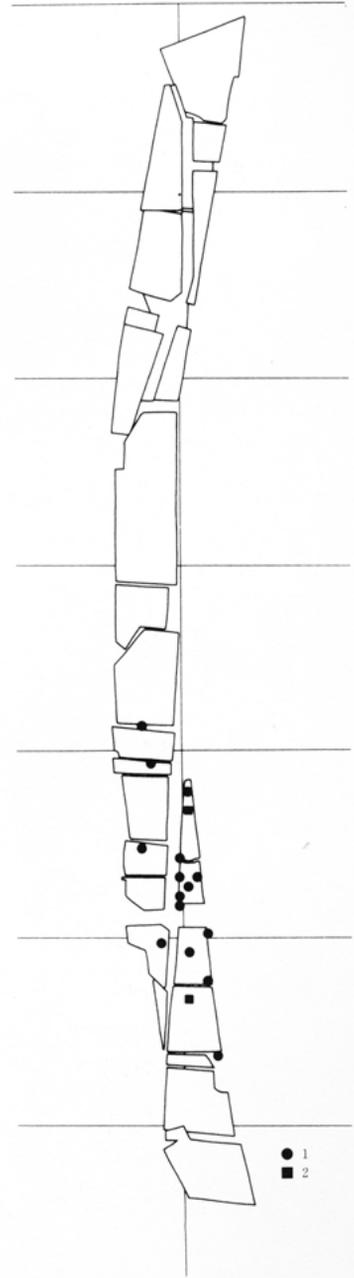
居跡が検出され、この付近から東にかけて居住域が展開していたためと考えられる。S D 0 2では2513点出土し、尾張型910点、灰釉陶器619点、土師器（新）406点、土師器（古）279点、須恵器199点、東濃型85点、中国陶磁12点、土錘3点が出土している。尾張型の灰釉系陶器が36%、灰釉陶器が25%と多い。溝の北側には住居跡が検出され、S D 0 1と同様に居住域の近くの溝からは多くの遺物が出土している。



第134図  
墨書陶器(須恵器・灰釉陶器)地区別出土分布図



第135図  
墨書陶器(灰釉系陶器)地区別出土分布図

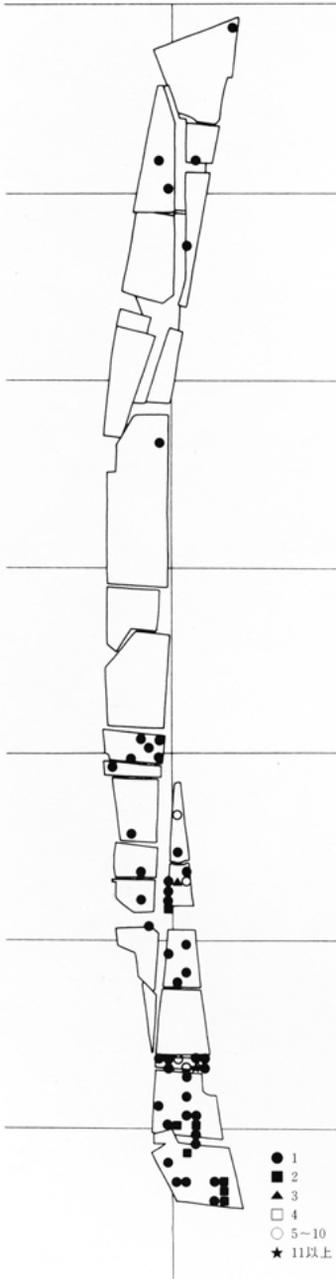


第136図  
緑釉陶器地区別出土分布図

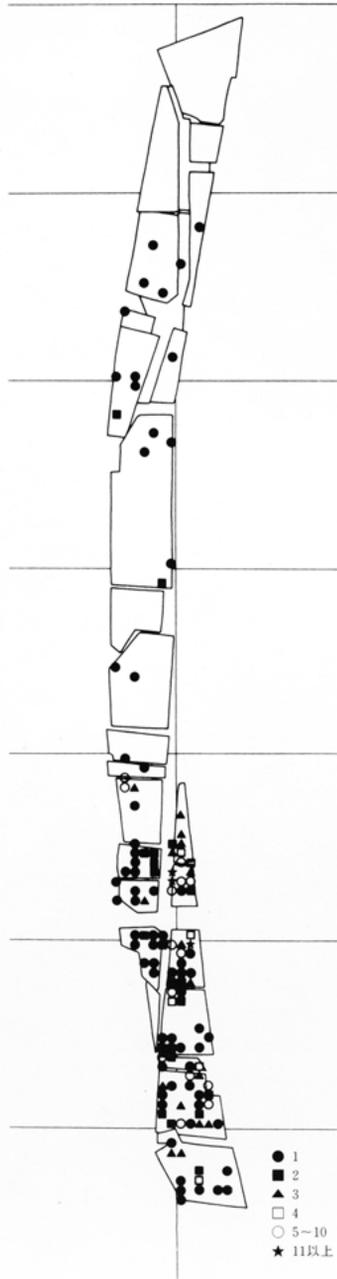
大溝の時期であるが、8世紀後半頃溝が掘削され、これ以降17世紀頃まで溝は機能していた。灰釉陶器と尾張型灰釉系陶器が多く出土していることなどから9世紀後半から10世紀代と13世紀前半にその中心が考えられる。止水の時期、強い流水の時期、止水の時期が土層より観察でき、砂層中の葉理よりSD01では北から南へ、SD02では東から西へ、流水性を示す時期があったことが明らかになったが、現状においては機能を論ずるのが難しく、今後溝の全貌が明らかになった時に待ちたいが

農業用水をも兼ねた境溝ではないかと思われる。

大溝の北端が位置する93J区の北側とその北の調査区94Ab区では、両調査区以外の溝の方位の軸線が南北方向あるいは東西方向だったのに対し、溝の軸線が斜めになっており、この調査区の位置を地籍図等に照らし合わせると善光寺街道が通っており、善光寺街道は木曾川左岸を通過して美濃で東山道とつながっており、12世紀後半の尾張型灰釉系陶器の出土したSD118やSD124（遺物なし）、10世紀前半の灰釉陶器と12世紀後半から13世紀の灰釉系陶器が出土したSD126は善光寺街道の脇溝の可能性もある。12世紀後半にはすでに街道があり、この街道を境に北側と南側の遺構の性格が変わってきているのである。



第137図  
土鍾地区別  
出土分布図

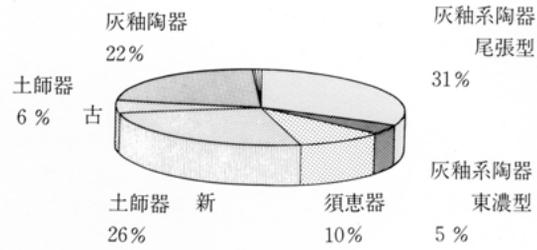


第138図  
加工円盤地区別  
出土分布図

北側には「墳墓堂遺構」を中心とした遺構群の墓域が形成されており、南側では水田地帯と居住域がある。墓域や居住域は自然堤防上に、水田は後背湿地を利用したのであろう。

S D 2 1 4 は12世紀後半から13世紀初めの時期で、93G区の南側に位置する東西方向に走る溝で中程で井戸 S E 1 0（13世紀後半）に切られ、溝の幅が東側で幅3 m 5 cm測ったものが西側では幅86cmと狭くなっている。S D 0 1が調査区の西側に、北側には8世紀後半から9世紀初頭の住居 S B 0 7・

灰釉系陶器	尾張型	1055	30.4%
灰釉系陶器	東濃型	168	4.8%
須恵器		345	10.0%
土師器	新	894	25.8%
土師器	古	199	5.7%
灰釉陶器		774	22.3%
土錘		0	0.0%
常滑産陶器		15	0.4%
瀬戸		3	0.4%
瀬戸・美濃		0	0.0%
緑釉陶器		0	0.0%
中国陶磁		12	0.3%
計		3465	100%

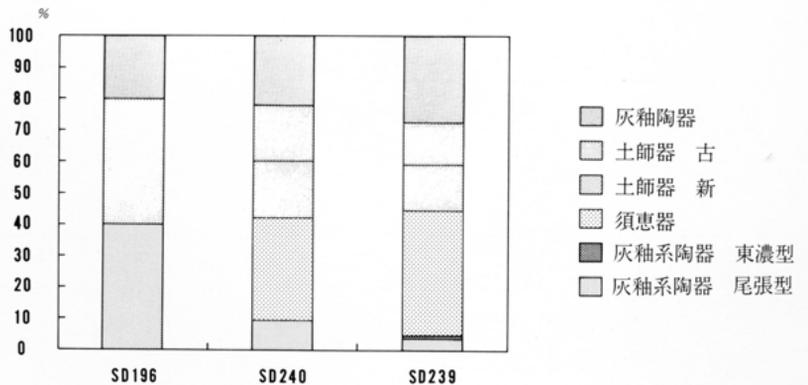


第139図 S D 214出土遺物組成図

調査区	遺構番号	灰釉系陶器			須恵器	土師器			灰釉陶器	土錘	常滑	古瀬戸	瀬戸・美濃	緑釉	中国陶磁	合計	旧番号
		尾張型	東濃型	計		新	古	計									
93G	SD214	887	130	1017	219	884	100	984	562		15	3			11	2811	93GSD02
93G	SD214	168	38	206	126	10	99	109	212						1	654	93GSD05
	計	1055	168	1223	345	894	199	1093	774		15	3			12	3465	

第40表 S D 214出土遺物集計表

	SD196	SD240	SD239
灰釉系陶器 尾張型	2	18	32
灰釉系陶器 東濃型			4
須恵器		64	335
土師器 新		35	122
土師器 古	2	35	113
灰釉陶器	1	43	229
計	5	195	835



第140図 S D 196・239・240出土遺物組成図

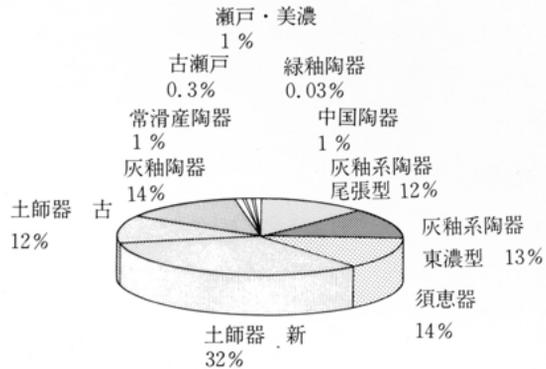
調査区	遺構番号	灰釉系陶器			須恵器	土師器			灰釉陶器	土錘	常滑	古瀬戸	瀬戸・美濃	緑釉	中国陶磁	合計	旧番号
		尾張型	東濃型	計		新	古	計									
93Hb	SD196	2		2			2	2	1							5	93HbSD03
93Hb	SD240	18		18	64	35	35	70	43							195	93HbSD05
93Hb	SD239	32	4	36	335	122	113	235	229							835	93HbSD06
	計	52	4	56	399	157	150	307	273							1035	

第41表 S D 196・239・240出土遺物集計表

08が検出されている。出土遺物は3465点あり、尾張型灰釉系陶器1055点、伊勢型鍋、清郷型鍋、土師質皿等の土師器（新）894点、灰釉陶器774点、須恵器345点等が出土し、灰釉陶器は美濃窯が主体で、尾張型灰釉系陶器と土師質皿が多く、土師質皿の多さが目立ち、二段くぼみ撫での皿も出土。

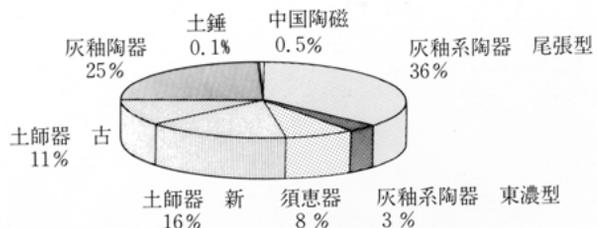
SD239は9世紀後半の時期で、93Ha区の南側に位置する東西溝で最大幅4m60cmを測り、出土遺物は835点、須恵器335点、灰釉陶器229点、土師器（新）122点（古）113点等で須恵器は美濃須

灰釉系陶器	尾張型	405	11.9%
灰釉系陶器	東濃型	444	13.1%
須恵器		462	13.6%
土師器	新	1103	32.5%
土師器	古	413	12.2%
灰釉陶器		474	14.0%
土錘		0	0.0%
常滑産陶器		24	0.7%
瀬戸		9	0.3%
瀬戸・美濃		40	1.2%
緑釉陶器		1	0.0%
中国陶磁		22	0.6%
計		3397	100%



第141図 大溝 (SD01) 出土遺物組成図 (1)

灰釉系陶器	東濃型	910	36.2%
灰釉系陶器	尾張型	85	3.4%
須恵器		199	7.9%
土師器	新	406	16.2%
土師器	古	279	11.1%
灰釉陶器		619	24.6%
土錘		3	0.1%
常滑産陶器		0	0.0%
瀬戸		0	0.0%
瀬戸・美濃		0	0.0%
緑釉陶器		0	0.0%
中国陶磁		12	0.5%
計		2513	100%



第142図 大溝 (SD02) 出土遺物組成図 (2)

調査区	遺構番号	灰釉系陶器		須恵器	土師器			灰釉陶器	土錘	常滑	古瀬戸	瀬戸・美濃	緑釉	中国陶磁	合計	旧番号
		尾張型	東濃型		計	新	古									
大溝	93G SD01	36		36		274	35	309	9		3			9	366	93GSD01
	92H SD01	224	16	240	63	85	4	89	84			4		1	481	92HSD39
	92Ca SD01				3	78	71	149	3					2	157	92CaSD03
	92Cb SD01	1	3	4	11	168	101	269	3					4	291	92CbSD03
	92Db SD01						1	1							1	92DbSD03
	93I SD01		1	1	8	51	39	90	9					1	109	93ISD03
	93J SD01	4	9	13		1	2	3							16	93JSD25
	93J SD01	1		1	4	20	20	40	8						53	93JSD26
	94Aa SD01	6	62	68	22	19	12	31	38				2	1	162	94AaSD01
	95Aa SD01	129	353	482	348	336	119	455	318		21	4	38	1	1668	95AaSD01
95Ab SD01	4		4	3	70	10	80	2			1		3	93	95AbSD01	
大溝計		405	444	849	462	1103	413	1516	474	0	24	9	40	1	22	3397

第42表 大溝出土遺物集計表 (1) : SD01

調査区	遺構番号	灰釉系陶器		須恵器	土師器			灰釉陶器	土錘	常滑	古瀬戸	瀬戸・美濃	緑釉	中国陶磁	合計	旧番号
		尾張型	東濃型		計	新	古									
92H	SD02	910	85	995	199	406	279	685	619	3				12	2513	92HSD43

第43表 大溝出土遺物集計表 (2) : SD02

衛窯の製品が灰釉陶器は美濃窯の製品が多い。

### 5. 墳墓堂遺構群

墳墓堂は阿弥陀堂とか法華堂と呼ばれるもので、死後ゆかりの仏堂に遺体を安置し、一定期間供養するためにつくられた建物で、後に目的を転じて遺体を埋葬しその上に堂が建てられたり、堂の中に遺体（遺骨）を安置するようになったと考えられている。前者の例として大分県豊後高田市の富貴寺大堂があり、堂の内陣床下に径1 m60cm程のやや偏平な自然石とこの石の下部に穴があったと推定されている。後者の例として岩手県平泉町の中尊寺金色堂がある。なおカラー図版の復元墳墓堂は愛知県幡豆郡吉良町金蓮寺阿弥陀堂を基に復元を行っている。

当初は「墳墓堂」と称したが、建物の下から墓塚などが検出されていないことを考えて「墳墓堂遺構」とした。方形区画溝に囲まれた中央部から建物が検出されており「堂」のような建物があったことはまちがいないが「墳墓堂」とするまでの遺構、遺物が乏しいのが現状である。

墳墓堂遺構を中心とする遺構群は調査区の北側92F区、92Ga区、92Gb区、93E区、93K区、95B区に展開しており、墳墓堂遺構を含め区画内や集石の検出作業中において焼土や骨片を確認している。

墳墓堂遺構は溝幅3 mから6 m、深さ80cmを測る周溝S D 0 3で囲まれており、南側では入口である開口部が存在し、周溝で囲まれた内部（平坦部幅、東西約13m、南北15m）からは総柱掘立柱建物が1棟検出され、建物は東西3間、南北4間であった。

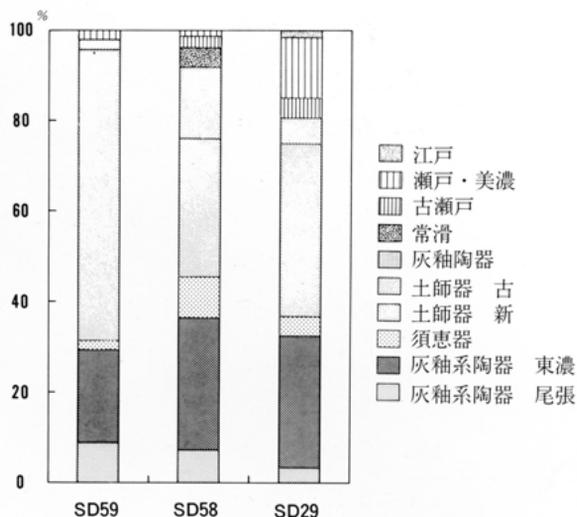
周溝S D 0 3からは東濃型の灰釉系陶器の椀161点、土師質皿58点、常滑甕46点、土師器甕35点、羽釜22点、伊勢型鍋16点、東濃型の灰釉系陶器の皿11点、この他に古瀬戸の壺や中国陶磁等、合計388点出土している。この内訳は東溝から210点、西溝から110点、南溝から62点、北溝から6点である。東溝と西溝に遺物が集中しており、東溝では東濃型の灰釉系陶器椀が78点、常滑の甕が39点、土師質皿22点、羽釜22点等が主だったもので、西溝では東濃型の灰釉系陶器椀が47点、土師質皿30点が主である。東溝に遺物が多いのは調査区の東側にも西側に展開しているような土坑等の墓域が展開しているためと思われる。東溝と西溝の遺物の多さに比べ、南溝や北溝の少なさは、付近の遺構の過多にあり、南溝では開口部があり、墓道に続く入口や井戸が、北溝では北西部分に小区画があるのみである。東溝より出土の古瀬戸の水注は漆継ぎが施され、四耳壺と同様に13世紀前半の製品である。

周溝S D 0 3は13世紀後半の東濃型の灰釉系陶器が主体を占めていることから13世紀後半がこの墓域の中心時期と考えられる。またS D 0 3の南溝の開口部に近い所からは燈籠の根石が出土している。

なお北溝の珪藻、花粉分析および堆積物の層相によって、溝は水深のある滞水域で、溝の中ではガマ属・オモダカ属・セリ科などの水生植物が繁茂していたこととイネ科やカヤツリグサ科の草本花粉の割合がマツ属やスギ属の木本花粉より多いことから周辺がかなり開けた裸地的な環境であることが、昆虫化石からは、果樹や畑作物の葉や根を食害するヒメコガネの出現頻度が高かったことと、この他にも食害するコガネムシ科が多数産出していることから、田所遺跡周辺は畑地と人家が混在する人里的な景観が展開していたと考えられるのである。

墳墓堂遺構を中心に南側には墓道があり、墓道の西側には方形台状遺構とした塚墓が、この南側には墓域の南限を区画するためと思われる東西方向の2条の溝がある。さらにその南側に大きく不整形に削平され周囲を楕円状に走る溝をもった遺構があり、池の可能性もある。また周辺の墓域は堂を取り囲むように溝によって区画され、大区画と、規模の小さい溝によって区画された小区画とによって配置され、東と西には大区画、北には小区画によって区画されていたものと推定できる。

		SD06		SD07・SD08		SD15	計
		東		西		92GaSD29	
		92GaSD59	92GaSD58	92GaSD29			
須恵器	杯		2		2		
	甕	1	4	3	8		
	盤		2		2		
土師器	古	1	13	4	18		
	高杯		1		1		
土師質	新	23	8		31		
	伊勢型鍋	8	19	26	53		
灰釉系陶器	尾張	椀	4	1	5		
		鉢	4	2	1	7	
	東濃	椀	8	25	20	53	
		皿	2	1		3	
常滑	甕		4	4			
古瀬戸	椀			1	1		
	皿		1	2	3		
	仏花		1		1		
瀬戸・美濃	灰釉皿	1	1	3	5		
	重圈皿			1	1		
	天目茶碗			3	3		
	鉢			2	2		
江戸	甕			1	1		
計		48	88	68	204		



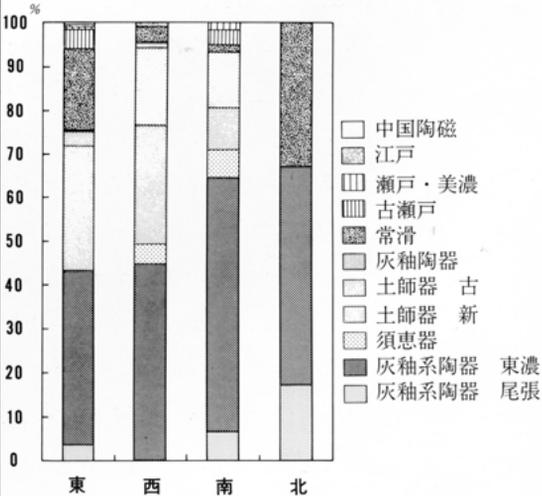
第143図 墓道脇溝出土器種組成図

第44表 墓道脇溝出土遺物器種別集計表：S D06・07・08・15

調査区	遺構番号	灰釉系陶器			須恵器	土師器			灰釉陶器	土錘	常滑産陶器	古瀬戸	瀬戸・美濃	緑釉	中国陶磁	合計	旧番号
		尾張	東濃	計		新	古	計									
92Ga	SD06	4	10	14	1	31	1	32					1			48	92GaSD59
92Ga	SD07・08	6	26	32	8	27	14	41			4	2	1			88	92GaSD58
92Ga	SD15	2	20	22	3	26	4	30				3	9	1		68	92GaSD29
計		12	56	68	12	84	19	103	0	0	4	5	11	1	0	204	

第45表 墓道脇溝出土遺物集計表：S D06・07・08・15

		S D 0 3					計	
		東		西	南	北		
		92GbSD26	93KSD03	92GbSD28	95BSD01	92GbSD27		
須恵器	杯			3	1		4	
	甕			2	3		5	
土師器	古	7	20		8		35	
	新	22					22	
土師質	伊勢型鍋	16					16	
	皿	22	30	6			58	
灰釉陶器	椀	1					1	
	瓶		1				1	
灰釉系陶器	尾張	椀	5		4		9	
		鉢	2			1	3	
	東濃	椀	78	47	33	1	2	161
		皿	6	2	3			11
常滑	甕	39	4	1	1	1	46	
古瀬戸	瓶子	1					1	
	壺	7		1			8	
	水注	1		1			2	
瀬戸・美濃	椀	1					1	
	重圈皿			1			1	
江戸	椀	1					1	
	皿			1			1	
中国陶磁器	椀	1					1	
計		210	110	62	3	3	388	

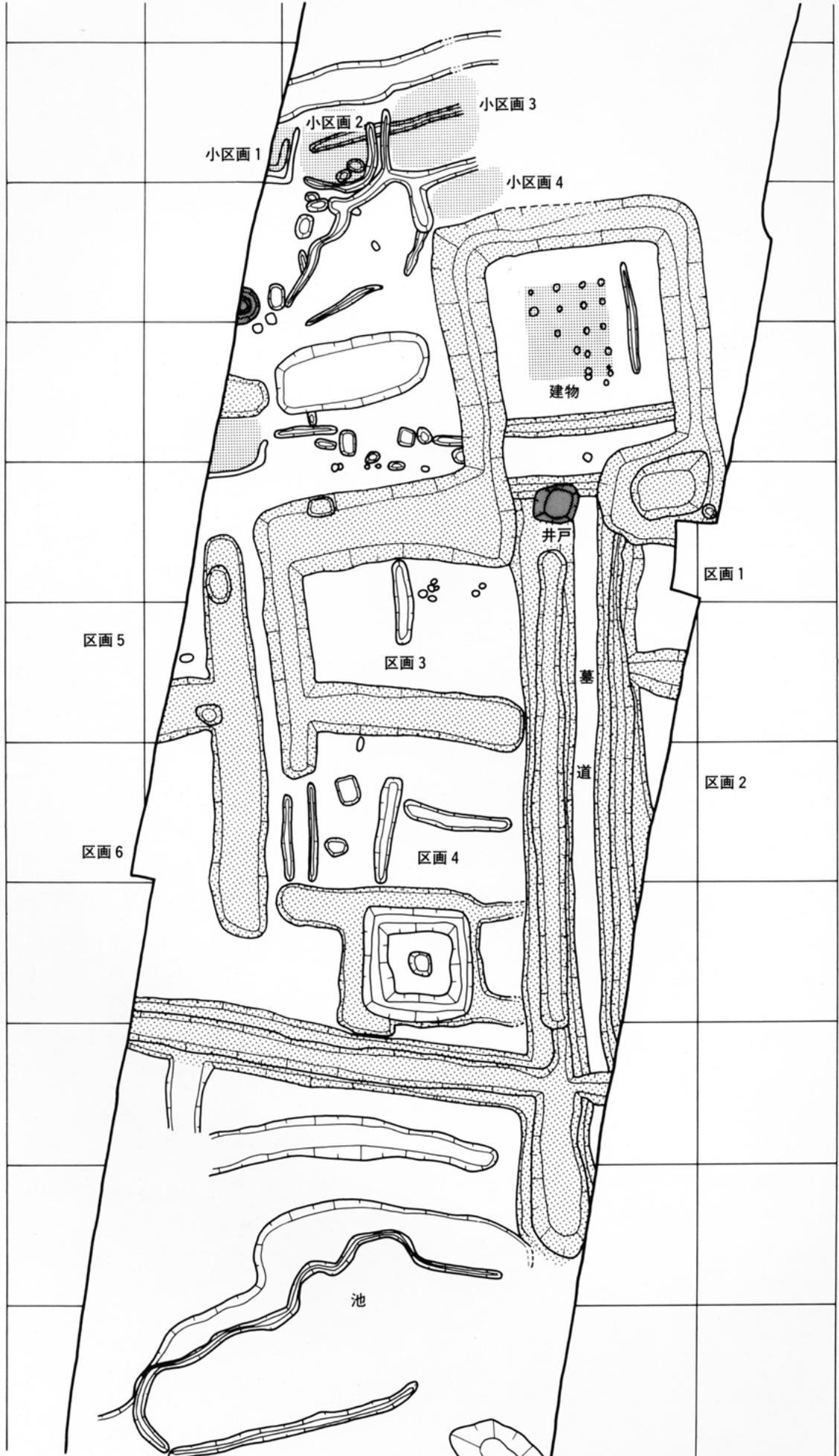


第144図 墳墓堂遺構周溝出土器種組成図

第46表 墳墓堂遺構周溝出土遺物器種別集計表

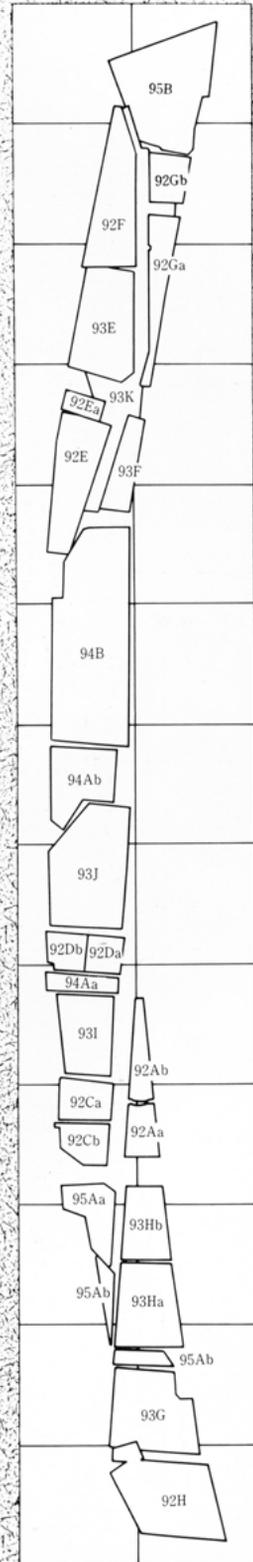
調査区	遺構番号	灰釉系陶器			須恵器	土師器			灰釉陶器	土錘	常滑	古瀬戸	瀬戸・美濃	緑釉	中国陶磁	合計	旧番号
		尾張	東濃	計		新	古	計									
92Gb	SD03	7	84	91		60	7	67	1		39	9	1	1	1	210	92GbSD26
93K	SD03		49	49	5	30	20	50	1		4			1		110	93KSD03
92Gb	SD03	4	36	40	4	6	8	14			1	2	1			62	92GbSD28
95B	SD03	1	1	2				0			1					3	95BSD01
92Gb	SD03		2	2				0			1					3	92GbSD27
計		12	172	184	9	96	35	131	2	0	46	11	2	2	1	388	

第47表 墳墓堂遺構周溝出土遺物集計表



第145図 墳墓堂遺構周辺概念図

# 遺構一覽表



挿入	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期	挿入	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期	
7	SD26	95B	SD04	E2f8e	45.6	2.35	0.35	○	12C後-13C前	7	P26	92Gb	E15c		0.2	0.2	0.10			
7	SD27	95B	SD13	E11c12b	(7.8)	6.00	0.38	○		7	P27	92Gb	E15c		0.1	0.1	0.06			
7	SD28	92Gb	SD29	E13b17c	16.8	1.1	0.09	○	13C後・16C	7	P28	92Gb	E14d		0.4	0.4	0.12			
7	SD29	95B	SD05	E3g13c	(54.7)	1.65	0.30	○	9C後	7	P29	92Gb	E14d		0.5	0.3	0.11			
7	SD30	92Gb	SD25	E13c17c	16.6	1.5	0.14	○		7	P30	92Gb	E14d		0.3	0.3	0.11			
7	SD31	95B	SD10	E2g3g	(4.8)	2.60	0.15	○		7	P31	92Gb	E14d		0.4	0.4	0.10			
7	SD32	95B	SD09	E4c3e	(8.7)	0.90	0.10	○	12C後	7	P32	92Gb	E14d		0.4	0.5	0.10			
7	SD33	95B	SD23	E3d3e	(18.5)	1.3	0.25	○	13C後	7	P33	92Gb	E14d		0.6	0.5	0.10			
7	SD34	95B	SD03	E6c12e	(27.3)	3.70	0.25	○		7	P34	92Gb	E14d		0.4	0.4	0.13			
7	SD35	95B	SD06	E7b	(16.3)	2.30	0.20	○		7	P35	92Gb	E14d		0.4	0.4	0.11			
7	SD36	95B	SD31	E8f8g	(3.1)	0.5	0.29	○		7	P36	92Gb	E14d		0.4	0.4	0.11			
7	SD37	95B	SD38	E7t	(2.0)	1.0	0.27	○		7	P37	92Gb	E14d		0.4	0.4	0.12			
7	SD38	95B	SD36	E7a8b	(3.5)	0.8	0.46	○		7	P38	92Gb	E14d		0.3	0.4	0.14			
7	SD39	95B	SD34	E7c8c	(1.4)	0.7	0.40	○		7	P39	92Gb	P01	E14d		0.5	0.4	0.12	○	13C前
7	SD40	95B	SD37	E8a	(1.0)	0.7	0.16	○		7	P40	92Gb	E14d15d		0.4	0.4	0.09			
7	SD41	95B	SD15	D8s8t	(6.4)	1.50	0.24	○		7	P41	92Gb	E14d15d		0.5	0.4	0.09			
7	SD42	95B	SD08	D8t	(16.5)	0.85	0.13	○		7	P42	92Gb	E15d		0.4	0.2	0.09			
7	92F	SD52	D9st	(3.6)	(1.8)	0.32	○		13C前	7	P43	92Gb	E15d		0.4	0.4	0.10			
7	93K	SD10	D9t10t	(4.3)	0.7	0.13	○			7	P44	92Gb	E15d		0.3	0.3	0.10			
7	93K	SD11	D9t10t	(1.8)	0.5	0.10	○			7	P45	92Gb	E15d		0.4	0.4	0.08			
7	93K	SK02	D9t	(1.6)	(1.0)	0.21	○			7	P46	92Gb	E15d		0.3	0.4	0.06			
7	SD43	95B	SD26	E8a	(3.4)	(0.6)	0.44	○		7	P47	92Gb	E15d		0.4	0.3	0.07			
7	SD44	95B	SD27	E9a	3.4	0.6	0.41	○		7	P48	92Gb	E15d		0.3	0.3	-			
7	SD45	95B	SD28	E8t9t	(2.3)	0.5	0.52	○		7	P49	92Gb	E15d		0.4	0.3	0.07			
7	SD46	95B	SD25	D8t	(3.2)	0.5	0.28	○		7	P50	92Gb	E15d		0.4	0.3	0.09			
7	SD47	95B	SD42	D8t	(6.6)	(0.8)	0.09	○		7	P51	95B	P08	E3g		0.2	0.5	0.08		
7	SD48	95B	SD39	E8t9t	2.8	0.4	0.29	○		7	P52	95B	E4d		0.5	0.5	-			
7	SD49	95B	SD33	E8c9d	(6.0)	0.3	0.17	○		7	P53	95B	P07	E4f5f		0.3	0.2	0.08		
7	SD50	95B	SD48	E9c	(3.0)	(0.6)	0.14	○		7	P54	95B	P06	E6d		0.5	0.5	-		
7	SD51	95B	SD46	E9d	(1.2)	0.4	0.21	○		7	P55	95B	P09	E8f		0.6	0.5	0.15		
7	SD52	95B	SD44	E10b8c	(1.5)	0.5	0.20	○		7	P56	95B	P13	E8a		0.4	0.4	0.27		
7	SD53	95B	SD14	E10c11c	(3.3)	0.80	0.45	○		7	P57	95B	P14	E8b		0.6	0.5	0.41		
7	SD54	95B	SD12	E11b12b	(9.0)	1.70	0.23	○	13C前	7	P58	95B	P15	E8a		0.4	0.4	0.24	○	
7	SD55	95B	SD11	E11b12b	(7.9)	1.50	0.06	○	13C前	7	P59	95B	P16	E9a		0.4	0.4	0.05		
7	SD56	92F	SD50	D9s10s	(3.9)	(1.4)	0.21	○		7	P60	95B	P04	E9t		0.4	0.4	0.14		
7	SD60	93K	SD12	E11a	2.9	0.6	0.04	○		7	P61	95B	P03	E9a		0.4	0.4	0.05		
7	SD66	95B	SD02	E11e13e	(9.0)	(2.0)	1.10	○	12C後	7	P62	95B	P05	E9f		0.5	0.4	0.19		
7	92Gb	SK71	E13e14e	(2.5)	(1.6)	0.50	○			7	P63	95B	P25	E9b		0.4	0.3	0.38		
7	SD70	92Gb	SD30	E13c17c	16.6	(1.0)	0.16	○		7	P64	95B	P02	E10a		0.4	0.4	0.09		
7	SD72	92Gb	SD32	E14c15d	(8.0)	(0.6)	-	○		7	P65	95B	P24	E10a		0.4	(0.2)	0.17		
7	SD74	92F	D18t19t	4.8	(0.5)	0.07	○			7	P66	95B	P01	E10a		0.4	0.3	0.16		
7	SD75	92F	E19a	D19st	(9.2)	1.2	0.12	○		7	P67	95B	P11	E11f		0.2	0.2	0.07		
7	SD76	92F	D17r	(1.9)	0.6	0.08	○			7	P68	95B	P12	E11f		0.2	0.2	0.07		
7	SK01	95B	SK18	E8b	1.1	0.9	0.32	○		7	P69	95B	P10	E11e		0.3	0.2	0.10	○	
7	SK02	95B	SK19	E3t	(0.8)	0.8	0.09	○		7	P70	95B	SK11	E11d11e		0.7	0.4	0.08		
7	SK03	95B	SK17	E8c	1.8	1.4	0.47	○		7	P71	95B	P22	E12d		0.4	0.4	0.22		
7	SK04	95B	SK16	E8c	1.6	(0.7)	0.23	○		7	P72	95B	SK24	E12d		0.5	0.5	0.15		
7	SK05	93K	SK04	D9t	(1.3)	1.1	0.08	○		7	P73	95B	P23	E13d		0.4	0.4	0.34		
7	SK06	93K	SK05	D10t	(2.1)	1.2	0.10	○		7	P74	95B	P20	E12c		0.5	0.4	0.24		
7	SK07	95B	SK13	E9e	(2.4)	2.2	0.26	○		7	P75	95B	P21	E12c		0.4	0.3	0.09		
7	SK08	95B	SK07	E9d	(0.6)	0.5	0.20	○		7	P76	95B	P19	E12b		0.3	0.3	0.30		
7	SK09	95B	SK15	E9d10c	(3.5)	0.5	0.15	○		7	P77	92F	D13t		0.3	0.3	0.10			
7	SK10	95B	SK14	E10c	(0.9)	(0.5)	0.02	○		7	P78	92F	D13t		0.4	0.4	0.10			
7	SK11	95B	SK22	E11d	0.6	(0.3)	0.26	○		7	P79	92F	D13s		0.3	0.3	0.16			
7	SK12	95B	SK12	E11d	2.3	0.6	0.07	○		7	P84	92Gb	P22	E14e		0.5	0.5	-		
7	SK13	95B	SK10	E11d	2.3	0.3	0.13	○		8	SD78	93K	E1a		4.0	0.5	0.08			
7	SK14	95B	SK08	E12d	1.6	0.5	0.07	○		8	SD80	93K	SD19	E1a3a	(9.1)	0.7	0.06			
7	SK15	95B	SK05	E12d	3.2	0.9	0.06	○		8	SD81	92F	D1q2q		2.1	0.8	0.10			
7	SK16	95B	SK06	E12d	1.0	0.5	0.13	○		8	SD82	93Eb	SD37	D3s	(3.0)	(0.5)	0.09			
7	SK17	95B	SK23	E12d	(1.0)	0.8	0.30	○		8	SD83	93Eb	SD41	D4s	(4.6)	1.6	0.11			
7	SK18	95B	SK25	E12d	0.8	0.8	0.30	○		8	SD84	92Ga	E4c		(1.4)	0.4	0.12			
7	SK19	95B	SK26	E12d	0.7	0.4	0.29	○		8	SD85	93Eb	SD38	D7pq	(6.9)	1.1	0.13			
7	SK20	95B	SK27	E13d	(0.9)	(0.3)	0.41	○		8	SD86	93Eb	SD43	D7p8p	(1.1)	0.5	0.06			
7	SK21	95B	SK28	E13d	(0.6)	(0.3)	0.44	○		8	SD87	93K	SD23	E13a	D16t	(18.0)	1.5	0.15	○	12C後
7	SK22	95B	SK20	E11a	0.8	0.6	0.36	○		8	SD88	93K	D15t17s		(7.2)	1.5	0.16			
7	SK23	95B	SK04	E11a	(0.9)	(0.2)	0.07	○		8	93K	D17s		(2.1)	0.8	0.05				
7	SK24	95B	SK03	E11a	(2.1)	(0.3)	0.09	○		8	SD89	93F	SD13	D16t18t	(9.0)	1.0	0.10			
7	SK25	95B	SK21	E11b	0.6	0.4	0.39	○		8	SK78	92Ga	E19d20d	(0.9)	(0.6)	0.23				
7	SK26	95B	SK02	E12a	(0.6)	(0.2)	0.07	○		8	SK79	92Ga	E20d	(2.7)	(0.5)	-				
7	SK27	95B	SK01	E12a	(2.8)	(0.3)	0.07	○		8	SK80	92F	D20s		0.9	(0.5)	0.01			
7	SK28	92F	D11s		0.6	0.4	0.05	○		8	SK82	92F	D1s	(2.2)	0.6	0.04				
7	SK29	92F	D11t		0.6	0.5	0.07	○		8	SK85	92F	D2q	(2.6)	(2.1)	0.10				
7	SK30	92F	D11t		0.9	0.8	0.16	○		8	SK87	93Eb	D4s		1.8	1.2	0.14			
7	SK36	92F	D13r		0.7	0.6	0.04	○		8	SK88	93Eb	SK250	D6p	(0.9)	0.5	0.05			
7	SK39	93K	SK06	E12a13a	3.9	(1.4)	0.15	○		8	SK89	93Eb	SK182	D6s7s	(1.3)	0.6	0.13			
7	SK40	93K	SK01	E13a	(2.0)	0.7	0.09	○		8	SK90	93Eb	SK183	D6t7t	(0.9)	0.5	0.07			
7	SK47	92F	SK86	D16r	0.4	0.4	0.09	○		8	SK91	93Eb	SK169	D7q	(2.0)	0.6	0.16			
7	SK55	93K	E16a		0.5	(0.3)	0.06	○		8	SK92	93Eb	SK163	D8g		0.7	0.6	0.20		
7	SK57	93K	E17b	(0.7)	0.8	0.13	○			8	SK93	93Eb2	SK163	D9q		1.9	1.4	0.43		
7	SK58	92Gb	E14e		0.7	0.6	0.17	○		8	SK94	93Eb2	SK162	D9p		1.4	1.0	0.44		
7	SK59	92Gb	E15e		0.5	0.5	0.08	○		8	SK95	92Ga	SD67	E10b11b	(4.5)	5.0	0.83	○	12C後	
7	SK60	92Gb	P03	E15e	0.8	0														

棟号	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
8	P92	93Ea	SK04	III D14r	0.3	0.2	0.12		
8	P93	93Ea	SK05	III D15r	0.2	0.2	0.12		
8	P94	93Ea	SK06	III D15q	0.2	0.2	0.15	○	
8	P95	93K		III D14t	0.4	0.4	0.13		
8	P96	93K		III D14t	0.4	0.4	0.16		
8	P97	93K		III D14t	0.6	0.4	0.30		
8	P98	93K		III D15r	0.3	0.3	0.03		
8	P99	93K		III D16s	0.4	0.3	0.03		
8	P100	93K		III D16s	0.5	0.3	0.03		
8	P101	93K		III D16s	0.8	0.4	0.05		
8	P102	93K		III D17s	0.4	0.4	0.05		
9	SD89	93F	SD11	III D16t18t	(3.3)	(1.5)	0.09		
9	93F	SD12	III D18t	(2.0)	(1.0)	0.12			
9	SD90	93F	SD16	III D17t18t	(8.6)	(1.0)	0.10		
9	SD91	93K		III D18s	(1.0)	1.4	0.22		
9	93F	SD10	III D18s	(9.8)	1.5	0.79	○	12C後	
9	92E	SD66	III D18r19n	(19.3)	1.2	0.19	○	10C前・12C後	
9	SD92	93K	SX02	III D18r	(6.2)	4.2	0.04	○	12C後・13C後-14C前
9	93F	SD07	III D18s	(9.9)	(3.9)	0.94	○	12C後	
9	SD93	93F	SD06	III D19t20s	5.0	1.1	0.41		
9	93F	SD06	IV D2s	10.0	1.1	0.03	○		
9	SD94	93F	SD08	III D19r	(4.5)	0.5	0.05		
9	93F	SD09	III D19r	(5.2)	(1.2)	0.09			
9	SD96	93F	SD04	III D20s	(16.3)	1.1	0.15	○	
9	SD97	93F	SD05	III D20s	(5.0)	(1.7)	0.12	○	
9	SD98	94Bb	SD02	IV D4t6t	(21.6)	1.2	0.16	○	
9	SD99	94Bb	SD01	IV D4s8s	(18.8)	0.7	0.12	○	12C後
9	SD100	94Ba	SD06	IV D17p18p	6.3	0.3	0.05	○	
9	SD101	94Ba	SD01	IV D4q8o	(18.6)	(3.4)	0.12	○	12C後-13C前
9	SD102	94Bb	SD03	IV D5t	(3.3)	0.2	0.06		
9	SD103	94Bb	SD04	IV D6s6t	(5.4)	0.4	0.07		
9	SD104	92E	SD03	IV D6n6o	(8.2)	(3.5)	-		
9	SD105	94Bb	SD05	IV D8s8t	(9.1)	0.6	0.09	○	
9	SD106	94Bb	SD07	IV D9r10s	5.5	0.6	0.07	○	
9	SD107	94Bb	SD09	IV D9t10t	(46.4)	1.0	0.06	○	
9	SD108	94Ba	SD02	IV D8o12o	(19.0)	0.7	0.10	○	12C後・13C後
9	SD109	94Ba	SD03	IV D12o19p	35.4	0.9	0.08	○	14C前
9	SD110	94Bb	SD08	IV D13r	4.9	0.5	0.07	○	14C前
9	SK103	93K		III D18r18s	(6.2)	1.4	0.26		
9	SK103	93K		III D19rs	(6.2)	(1.6)	0.46		
9	SK103	93F	SD17	III D18s	(1.5)	(1.8)	0.28		
9	SK104	93K		III D18s	(1.6)	(0.8)	0.07		
9	SK105	92E	SK74	III D19np	(8.0)	(3.0)	0.06	○	12C後・13C後
9	SK106	92E	SK93	III D20n	8.2	4.8	0.18	○	12C後-13C前
9	SK106	92E	SK93	III D20n	8.2	4.8	0.18	○	12C後-13C前
9	SK107	93K		III D19r20q	(2.8)	(0.7)	0.07		
9	SK108	93K		III D20q	0.7	0.6	0.05		
9	SK109	93K		III D19rs	(3.0)	(1.8)	0.05		
9	SK109	93F	SK153	III D19s	1.9	2.0	0.58	○	
9	SK110	93F	SK157	III D17t	0.4	(0.4)	0.05		
9	SK111	93F	SK152	III D19t	0.7	0.6	0.26		
9	SK112	93F	SK35	III D20t	(4.5)	2.4	0.32		
9	SK113	93F	SK102	III D20s	(3.3)	3.0	0.70		
9	SK114	93F	SK36	IV D1r3r	10.1	4.8	0.95	○	10C前・12C後
9	SK115	93F	SK34	IV D2r3r	3.2	1.4	0.84	○	12C後
9	SK116	93K	SK08	IV D1q2q	3.9	2.5	0.38		
9	SK117	93K		IV D2q3r	3.5	(3.0)	0.52		
9	SK118	92E	SK73	IV D2p3p	2.9	2.1	0.33		
9	SK119	92E		IV D3n	(2.2)	(1.5)	0.36		
9	SK120	92E		IV D5o5p	(1.5)	(0.8)	0.12		
9	SK121	92E		IV D6n	(1.4)	(1.1)	0.20		
9	SK122	94Bb	SK01	IV D9s9t	2.8	1.5	0.30		
9	SK123	94Bb	SK02	IV D9s	1.5	0.9	0.22		
9	SK124	94Bb	SK12	IV D10t	1.5	1.1	0.44		
9	SK125	94Bb	SK05	IV D9r	4.1	2.9	0.35	○	
9	SK126	94Bb	SK04	IV D9q9r	3.7	(1.0)	0.31		
9	SK127	94Ba	SK01	IV D9pq	4.7	2.0	0.08	○	12C後
9	SK128	94Ba	SK04	IV D10o	1.3	1.1	0.36	○	12C後・13C後
9	SK129	94Ba	SK02	IV D10o11p	5.7	3.1	0.56	○	13C後
9	SK130	94Ba	SK05	IV D11q	2.5	1.4	0.12	○	
9	SK131	94Ba	SK06	IV D11p12p	3.2	1.8	0.33		
9	SK132	94Ba	SK07	IV D12o	1.1	0.9	0.21		
9	SK133	94Ba	SK03	IV D12no	1.0	0.9	0.20	○	12C後
9	SK134	94Bb	SK06	IV D14r	2.9	1.6	0.12		
9	SX10	93F	SX01	IV D3r	(1.4)	(1.4)	0.17		
9	SX11	94Bb	SX01	IV D10. 11. 12t	9.6	2.8	0.41	○	
9	P103	93F	SK99	III D19s	0.4	0.4	0.06		
9	P104	92E		III D19p	0.4	0.4	0.09		
9	P105	92E		III D19p	0.4	0.3	0.07		
9	P106	92E		III D19p	0.4	0.4	0.09		
9	P107	92E		III D19p	0.4	0.3	0.08		
9	P108	92E		III D20p	0.4	0.3	0.04		
9	P109	92E		III D20p	0.3	0.3	0.06		
9	P110	92E		III D20p	0.6	0.4	0.06		
9	P111	92E		III D20p	0.4	0.3	0.06		
9	P112	92E		III D20p	0.5	0.3	0.09		
9	P113	92E		III D20p	0.5	0.4	0.10		
9	P114	92E		III D20p	0.7	0.5	0.11		
9	P115	92E		III D20p	0.6	0.5	0.11		
9	P116	92E		III D20p	0.6	0.5	0.13		
9	P117	92E		IV D1p	0.6	0.5	0.14		
9	P118	92E		IV D1p	0.7	0.5	0.28		
9	P119	92E		IV D1p	0.6	0.5	0.16		
9	P120	92E		IV D1p	0.6	0.5	0.10		

棟号	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
9	P121	93K		IV D2q	0.4	0.4	0.07		
9	P122	94Bb	P01	IV D5s	0.6	0.5	0.09		
9	P123	94Bb	P05	IV D5t	0.5	0.4	0.08		
9	P124	94Bb	P06	IV D6t	0.4	0.4	0.10		
9	P125	94Bb	P07	IV D6t	0.7	0.2	0.09		
9	P126	94Bb	P08	IV D6t	0.6	0.3	0.07		
9	P127	94Bb	P09	IV D6t	0.5	0.3	0.09		
9	P128	94Bb	P10	IV D6t	0.5	0.3	0.06		
9	P129	94Bb	P02	IV D7t	0.5	0.4	0.09		
9	P130	94Bb	P03	IV D7t	0.4	0.3	0.07		
9	P131	94Bb	P04	IV D8t	0.2	0.8	0.07		
9	P132	94Ba	P01	IV D8q	0.6	0.4	0.16		
9	P133	94Ba	P02	IV D9o	0.6	0.4	0.06		
9	P134	94Ba	P08	IV D10o	0.7	0.3	0.06		
9	P135	94Ba	P06	IV D12o	0.9	0.5	0.16		
9	P136	94Ba	P03	IV D12o	0.8	0.5	0.06		
9	P137	94Ba	P04	IV D12o	0.5	(0.4)	0.04		
9	P138	94Ba	P07	IV D12o	0.5	(0.3)	0.07		
9	P139	94Ba	P05	IV D12o	(0.6)	0.4	0.07		
9	P140	94Bb	P11	IV D13t	0.3	0.3	0.08		
9	P141	94Bb	P12	IV D13t	0.3	0.2	0.09		
9	P142	94Bb	P13	IV D14t	0.2	0.2	0.10		
9	P143	94Bb	P14	IV D14t	0.2	0.2	0.10		
9	P144	94Bb	P15	IV D14t	0.2	0.2	0.08		
9	P145	94Bb	P16	IV D14t	0.2	0.1	0.09		
9	P146	94Bb	P17	IV D14s	0.4	0.3	0.15		
10	SD111	94Ba	SD07	IV D17qr	4.5	0.3	0.10		
10	SD111	94Ba	SD10	IV D17qr	4.5	0.3	0.08		
10	SD112	94Ba	SD05	IV D17p20p	(16.0)	0.4	0.10		
10	SD113	94Bb	SD06	IV D5q6q	4.2	1.0	0.10	○	
10	SD114	94Ba	SK09	IV D17n19n	(11.6)	(2.0)	0.14	○	
10	SD115	94Ba	SD08	IV D20p	(4.2)	0.3	0.06	○	
10	SD116	94Bb	SD11	IV D1t	(2.8)	0.2	0.06	○	
10	SD117	94Bb	SD12	IV D1s1t	(3.7)	0.3	0.07		
10	SD118	94Ab	SD02	IV D3r8n	(31.5)	4.0	0.20	○	12C後
10	SD119	94Ab	SD03	IV D3s4q	(12.0)	1.2	0.07		
10	SD120	94Ab	SD01	IV D3t4s	(7.5)	0.8	0.18		
10	SD121	94Ab	SD04	IV D5q6q	(4.2)	1.5	0.27		
10	SD122	94Ab	SD07	IV D5p6q	(4.1)	0.5	0.10		
10	SD123	94Ab		IV D5o6o	6.7	0.7	0.07		
10	SD124	94Ab		IV D6s7r	(8.5)	2.2	0.17		
10	SD125	94Ab	SD05	IV D7s	(3.5)	0.7	0.15		
10	SD126	93J	SD01	IV D8r12m	(31.0)	0.9	0.24	○	10C前・12C後・13C前
10	SD127	93J	SD02	IV D8r12p	(24.6)	0.9	0.05	○	
10	SD128	93J	SD09	IV D12p18o	(27.9)	1.5	0.35	○	10C前・12C後
10	SD129	93J	SD05	IV D11q12p	(4.5)	(1.0)	0.10		
10	SD130	93J	SD06	IV D12p13p	(6.7)	1.2	0.07	○	
10	SD131	93J	SD03	IV D9p11p	(7.8)	1.5	0.18	○	
10	SD132	93J	SD04	IV D12no	(7.6)	2.2	0.05	○	12C後
10	SD133	93J	SD32	IV D12q13q	(3.2)	0.7	0.07		
10	SD134	93J	SD08	IV D12q13q	(3.5)	0.6	0.04		
10	SD135	93J	SD07	IV D11r14r	(16.0)	0.6	0.16		
10	SD136	93J	SD30	IV D12n16p	(19.2)	2.0	0.27		
10	SD137	93J	SD28	IV D14rs	4.5	1.0	0.10		
10	SD138	93J	SD27	IV D14st	(6.8)	1.2	0.09	○	
10	SK135	94Ba	SK08	IV D16o	(4.3)	2.1	0.26	○	
10	SK136	94Bb	SK07	IV D16s17s	3.2	1.6	0.27	○	
10	SK13								

挿図	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
10	P163	94Bb	P25	VD20s	0.3	0.2	0.09		
10	P164	94Bb	P27	VD2q	0.8	0.5	0.18		
11	SD139	93J	SD11	VD15o15p	(5.8)	2.0	0.10	○	12C後
11	SD140	93J	SD10	VD15p16p	(5.0)	1.2	0.19		
11	SD141	93J	SD12	VD15o17n	(16.6)	1.8	0.22	○	12C後-13C前
11	SD142	93J	SD13	VD16o16p	(5.2)	1.1	0.08		
11	SD143	93J	SD14	VD16o	(2.5)	0.7	0.15	○	
11	SD144	93J	SD15	VD16o16p	(6.5)	0.6	0.06		
11	SD145	93J	SD16	VD17o	(2.1)	0.8	0.14		
11	SD146	93J	SD17	VD17o	(4.1)	1.5	0.34		
11	SD147	93J	SD18	VD15q16s	(13.5)	2.2	0.34	○	9C前・10C前 12C後-13C前
11	SD148	93J	SD22	VD16q16t	(24.8)	0.3	0.80	○	
11	SD149	93J	SD19	VD16q17s	(19.1)	0.7	0.16	○	
11	SD150	93J	SD20	VD17rs	(8.2)	0.7	0.18	○	
11	SD151	93J	SD23	VD17q17s	(10.8)	0.9	0.09	○	
11	SD152	93J	SD24	VD17r18t	(8.0)	0.8	0.07		
11	SD153	93J	SD21	VD17rs	6.8	1.8	0.30	○	
11	SD154	93J	SD29	VD17qr	(1.3)	0.7	0.24		
11	SD155	93J	SD31	VD18o	(2.5)	(0.7)	0.03		
11	SD156	92D	SD11	VD18nVD1n	(12.5)	2.7	0.14	○	13C前-後
11	SD157	92D	SD12	VD18nVD1n	(15.2)	2.6	0.13	○	11C前
11	SD158	92D	SD13	VD18nVD1n	(15.5)	1.9	0.28	○	10C前・12C後
11	SD158	94Aa	SD08	VD2o3o	(6.5)	0.4	0.11		
11	SD158	94Aa	SD09	VD2o3o	(6.7)	1.1	0.22	○	
11	SD158	93I	SD05	VD3o7o	(17.6)	1.7	0.33	○	12C後
11	SD159	92D	SD07	VD19rs	(7.8)	0.4	0.07	○	
11	SD160	94Aa	SD04	VD2mn	(3.0)	(0.4)	0.29		
11	SD161	94Aa	SD05	VD2mo	7.8	0.4	0.11	○	
11	SD162	94Aa	SD18	VD2n	(2.7)	0.8	-		
11	SD163	94Aa	SD02	VD2m3m	(7.8)	(1.1)	0.13	○	12C後
11	SD164	94Aa	SD06	VD2mo	(7.5)	0.6	0.16	○	
11	SD165	94Aa	SD07	VD2mn	(4.6)	0.4	0.09		
11	SD166	94Aa	SD03	VD2m3m	(4.2)	0.7	0.08	○	
11	SD166	93I	SD04	VD3n5o	(10.2)	0.9	0.25		
11	SD167	94Aa		VD2r	(2.2)	0.5	0.09		
11	SD168	94Aa	SD11	VD2rs	(5.5)	0.4	0.06		
11	SD169	94Aa	SD13	VD2rs	(3.8)	0.4	-		
11	SD169	94Aa	SD16	VD3qr	(5.7)	0.3	-		
11	SD170	94Aa		VD2q3r	(13.1)	0.3	-		
11	SD171	94Aa		VD2q3r	(12.9)	0.6	-		
11	SD172	94Aa	SD17	VD3qr	(4.0)	0.3	-		
11	SD173	94Aa	SD10	VD2p3p	(6.2)	0.5	-		
11	SD174	93I	SD01	VD3rs	(4.3)	1.0	0.12	○	9C後・13C前
11	SD175	93I	SD02	VD4q5s	(8.8)	1.5	0.23	○	10C前・12C後
11	SD176	93I	SD07	VD3o10o	(35.4)	1.1	0.53	○	12C後
11	SD177	93I	SD08	VD4o6o	(10.6)	0.9	0.18	○	10C前・12C後
11	SD178	93I	SD06	VD4n5o	(5.4)	0.7	0.12	○	
11	SD179	93I	SD11	VD3o5o	(10.6)	1.6	0.19	○	9C前・12C後
11	SD180	93I	SD10	VD4o6o	11.0	0.5	-	○	
11	SD181	93I	SD09	VD4o6o	(15.9)	1.1	0.20	○	10C前・12C後
11	SD182	92C	SD06	VD10o11p	(3.8)	(3.2)	0.29	○	13C前
11	SD183	92C	SD05	VD10n17o	(30.6)	4.2	0.28	○	10C前・12C後
11	SK156	93J	SK15	VD15rs	2.2	1.0	0.09		
11	SK157	93J	SK06	VD17r	1.2	1.1	0.02		
11	SK158	93J	SK07	VD17rs	0.5	(0.2)	0.09		
11	SK159	92D	SK50	VD18o19o	(3.0)	(3.2)	0.08	○	
11	SK160	92D	SK21	VD18q18r	(2.6)	(2.0)	0.21	○	13C後
11	SK161	92D	SK22	VD19q20q	(1.4)	0.6	0.09		
11	SK162	92D	SK20	VD19rVD2s	(13.3)	(2.5)	0.10	○	13C前・14C
11	SK163	92D	SK23	VD1q2s	(10.9)	3.6	0.19	○	9C前・10C前・13C後
11	SK164	92D	SK53	VD19op	1.6	1.1	0.10	○	
11	SK165	92D		VD19o	1.1	0.9	0.12		
11	SK166	92D		VD20o	0.9	0.8	0.09		
11	SK167	92D	SK54	VD19n20o	3.2	2.8	0.19	○	9C後・10C前
11	SK168	92D	SK51	VD1po	(3.1)	(2.8)	0.08	○	9C後・12C後
11	SK169	92D	SK52	VD1p	(2.9)	1.2	0.08	○	12C後
11	SK170	92D	SK55	VD1819m				○	12C後
11	SK171	94Aa	SK04	VD2p	1.1	0.4	-		
11	SK172	94Aa	SK03	VD2op	(2.0)	0.6	-		
11	SK173	94Aa	SK05	VD2p	1.5	1.0	-		
11	SK174	94Aa		VD2r	(1.4)	0.5	-		
11	SK175	94Aa	SK06	VD2q3q	3.2	1.0	-		
11	SK176	94Aa	SK08	VD3r	(1.2)	(0.4)	-		
11	SK177	94Aa	SK01	VD3o	(0.6)	0.4	-	○	
11	SK178	94Aa	SK02	VD3no	1.4	0.6	-		
11	SK179	93I	SK29	VD4o	0.5	0.4	0.10		
11	SK180	93I	SK28	VD5o	0.8	0.7	0.13		
11	SK181	93I	SK32	VD6s	(0.7)	0.7	0.21		
11	SK182	93I	SK04	VD7o	0.8	(0.5)	0.11	○	
11	SK183	93I	SK05	VD7o	0.8	0.4	0.10		
11	SK184	93I	SK06	VD7o	0.7	0.4	0.08	○	
11	SK185	93I	SK07	VD7o	1.0	(0.6)	0.08	○	10C後
11	SK186	93I	SK08	VD7o	1.0	0.7	0.09	○	
11	SK187	93I	SK09	VD7o	0.8	0.7	0.06	○	
11	SK188	93I	SK10	VD7o	0.8	0.5	0.07	○	
11	SK189	93I	SK11	VD8o	0.7	0.5	0.03	○	
11	SK190	93I	SK12	VD8o	0.7	0.5	0.05	○	
11	SK191	93I	SK13	VD8o	(0.6)	0.5	0.04	○	
11	SK192	93I	SK14	VD8o	0.7	(0.6)	0.04	○	
11	SK193	93I	SK15	VD8o	(0.9)	0.6	0.04	○	
11	SK194	93I	SK16	VD9o	0.9	0.6	0.04	○	
11	SK195	93I	SK17	VD9o	0.7	0.4	0.03	○	
11	SK196	93I	SK18	VD9o	0.9	0.6	0.04	○	

挿図	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
11	SK197	93I	SK19	VD9o	0.6	0.6	0.06	○	
11	SK198	93I	SK20	VD9o	1.0	0.8	0.04	○	
11	SK199	93I	SK21	VD9o	0.9	0.5	0.04	○	
11	SK200	93I	SK22	VD10o	0.7	0.5	0.05	○	
11	SK201	93I	SK23	VD10o	0.7	0.5	0.05	○	
11	SK202	93I	SK24	VD10o	0.7	0.5	0.05	○	
11	SK203	93I	SK30	VD10o	1.4	(1.1)	0.12	○	
11	SK204	93I	SK31	VD10p	(0.8)	0.4	0.21		
11	SK205	93I	SK01	VD9r	1.2	1.0	0.12		
11	SK206	93I	SK02	VD9r	0.5	0.5	0.05		
11	SK207	93I	SK03	VD10r	1.0	0.7	0.20		
11	SK208	93I	SK25	VD8o	0.8	0.4	-		
11	SK209	93I	SK26	VD8o	0.4	0.4	0.08		
11	SK210	93I	SK27	VD9o	1.1	0.4	0.16		
11	SK211	92C	SK07	VD11p	1.8	1.5	0.10	○	
11	SK212	92C	SK12	VD11p	(4.7)	0.5	0.15	○	
11	SK213	92C	SK04	VD12r	1.3	1.1	0.13	○	12C後
11	SK214	92C	SK05	VD12r	1.1	0.8	0.07	○	
11	SK215	92C	SK06	VD12r	1.7	1.2	0.11	○	
11	SK216	92C	SK15	VD13r	1.1	0.9	0.08	○	12C前
11	SX14	93J	SX04	VD14q15q	(4.7)	(4.6)	0.89	○	10C前
11	SX15	93J	SX02	VD17op	(2.2)	(1.6)	0.36	○	
11	SX16	93J	SX03	VD17rs	(8.2)	(1.5)	0.21		
11	SX17	92D	SX01	VD20oVD1n	(5.2)	2.9	0.03	○	8C後
11	SX18	93I	SX02	VD3n3o	(4.5)	(0.8)	0.16		
11	SX19	93I	SX01	VD3p4p	(3.8)	1.6	0.53	○	10C前
11	P165	94Aa	P10	VD2o	0.3	0.3	-		
11	P166	94Aa	P08	VD2r	0.5	(0.2)	-		
11	P167	94Aa	P23	VD2s	(0.4)	0.4	-		
11	P168	94Aa	P20	VD2q	0.6	0.3	-		
11	P169	94Aa	P03	VD3r	0.7	0.6	-		
11	P170	94Aa	P02	VD3r	1.0	0.8	-		
11	P171	94Aa	P21	VD3r	0.5	0.4	-		
11	P172	94Aa	P01	VD3r	0.8	0.7	-		
11	P173	94Aa	P04	VD3r	0.3	0.3	-		
11	P174	94Aa	P05	VD3q	0.4	0.5	-		
11	P175	94Aa	P06	VD3q	0.3	0.3	-		
11	P176	94Aa	P07	VD3q	0.6	0.2	-		
11	P177	94Aa	P18	VD2p	(0.3)	(0.3)	-		
11	P178	94Aa	P09	VD3p	0.6	(0.8)	-		
11	P179	94Aa	P19	VD3p	(0.3)	(0.2)	-		
11	P180	94Aa	P12	VD2o	0.4	0.3	-		
11	P181	94Aa	P11	VD3o	0.3	0.3	-		
11	P182	94Aa	P13	VD3o	0.4	0.3	-		
11	P183	94Aa	P14	VD3n	0.4	0.3	-		
11	P184	94Aa	P15	VD3n	0.4	0.4	-		
11	P185	94Aa	P16	VD2p	0.3	0.3	-		
11	P186	94Aa	P17	VD3n	0.9	0.7	0.35		
11	P187	94Aa	P22	VD3s	0.4	0.4	-		
12	SD184	92C	SD04	VD14r	(3.8)	(1.4)	0.04	○	13C後
12	SD189	92C	SD11	VD14n	(1.0)	(1.5)	0.22	○	9C前・12C後・13C後
12	SD190	95Aa	SD04	VD19nVD1n	(8.3)	(2.6)	0.34	○	
12	SD191	95Aa	SD03	VD19oVD1n	(7.0)	(2.6)	0.06	○	
12	SD192	95Aa	SD02	VD20pVD1s	-	-	-	○	10C前・12C後
12	SD193	95Aa	SD05	VD20s	(2.2)	(0.8)	-	○	
12	SD194	93Hb	SD01	VD20tVE20c	(14.1)	1.4	0.11	○	10C後・11C前
12	SD195	93Hb	SD02	VE					

挿入	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
13	SD223	92H		VE5c	(2.3)	0.4	0.04		
13	SD224	92H		VE5a5d	(16.0)	0.5	0.13		
13	SD225	92H	SD42	VE3f4f	(9.5)	(3.9)	0.30	○	
13	SD226	92H	SD40	VE1D8t	(20.1)	(9.2)	0.25	○	
13	SD227	92H	SD41	VE7g	-	-	-	○	
13	SD228	92H	SD49	VE8f8h	(9.5)	(2.8)	0.75	○	9C前
13	SK270	93Ha	SK05	VE11s12s	0.9	0.9	0.15		
13	SK271	93Ha	SK16	VE10a12a	1.5	1.0	0.17	○	9C前
13	SK272	93Ha	SK17	VE11a	1.1	0.9	0.32	○	
13	SK273	93Ha	SK15	VE12b	(1.4)	0.7	0.13		
13	SK274	93Ha	SK10	VE11bc	1.4	1.0	0.41	○	
13	SK275	93Ha	SK11	VE11c	0.7	0.6	0.07		
13	SK276	93Ha	SK12	VE12c	0.6	0.5	0.11		
13	SK277	93Ha	SK13	VE12c	0.5	0.5	0.17		
13	SK278	93Ha	SK14	VE12c	1.6	1.2	0.38		
13	SK279	93Ha	SK04	VE13d	(1.2)	(0.3)	0.14		
13	SK280	93Ha	SK06	VE12s	0.9	0.9	0.12	○	
13	SK281	93Ha	SK07	VE12s	1.6	1.1	0.28	○	
13	SK282	93Ha	SK09	VE12t	1.3	0.9	0.11	○	
13	SK283	93Ha	SK08	VE12t	0.9	0.6	0.15	○	
13	SK284	95Ab	SK01	VE14s	(1.1)	(0.5)	0.11	○	12C後
13	SK285	95Ab	SK05	VE13r	(0.3)	(0.2)	-		
13	SK286	95Ab	SK11	VE14t	(2.4)	(1.0)	0.27		
13	SK287	95Ab	SK04	VE14t	0.9	0.4	0.34	○	
13	SK288	95Ab	SK03	VE13st	0.7	0.4	0.11	○	
13	SK289	93G	SK130	VE15b	(0.2)	0.2	0.16		
13	SK290	93G	SK78	VE15b	(0.7)	0.5	0.13	○	8C後
13	SK291	93G	SK125	VE15c	(0.8)	1.1	0.16	○	
13	SK292	93G	SK129	VE15c	(1.0)	0.9	0.14	○	
13	SK293	93G	SK106	VE15c	1.2	1.0	0.20	○	12C後
13	SK294	93G	SK107	VE15c	1.5	1.4	0.27	○	12C後
13	SK295	93G	SK105	VE15cd	1.1	1.1	0.17	○	
13	SK296	93G	SK104	VE15c	1.0	1.0	0.20	○	
13	SK297	93G	SK76	VE15b	1.1	0.9	0.15	○	10C前・12C後
13	SK298	93G	SK44	VE16a	1.0	0.7	0.07	○	
13	SK299	93G	SK86	VE16b	1.5	0.8	0.09	○	
13	SK300	93G	SK53	VE17a	1.5	1.2	0.10	○	
13	SK301	93G	SK113	VE17b	0.8	0.7	0.47	○	
13	SK302	93G	SK112	VE17b	0.9	0.8	0.17	○	12C後
13	SK303	93G	SK128	VE17c				○	
13	SK304	93G	SK133	VE17c	2.0	1.4	0.25	○	
13	SK305	93G	SK137	VE17bc	1.5	1.0	0.38	○	12C後
13	SK306	93G	SK116	VE17b	0.9	0.7	0.07	○	
13	SK307	93G	SK132	VE17c	1.8	1.3	0.07	○	12C後
13	SK308	93G	SK131	VE17cd	1.5	1.4	0.19	○	
13	SK309	93G	SK33	VE18e	0.9	(0.3)	0.06		
13	SK310	93G	SK32	VE18e	1.0	(0.8)	0.06		
13	SK311	93G	SK31	VE18e	1.2	1.1	0.08	○	
13	SK312	93G	SK136	VE18de	3.4	3.1	0.26	○	12C後～13C前
13	SK313	93G	SK142	VE19s	1.4	1.0	0.16		
13	SK314	93G	SK126	VE19ab	3.5	0.7	0.20	○	
13	SK315	93G	SK127	VE19b	1.1	0.5	0.10		
13	SK316	93G	SK02	VE20t	(2.2)	2.1	0.24	○	12C後～13C前
13	SK317	93G	SK06	VE20a VE1a	(1.4)	1.7	0.12	○	
13	SK318	93G	SK10	VE1b	0.9	0.7	0.08	○	
13	SK319	93G	SK11	VE1b	0.6	0.5	0.09	○	
13	SK320	93G	SK12	VE1b	0.8	0.7	0.12	○	
13	SK321	93G	SK17	VE1c	0.8	0.4	0.09		
13	SK322	93G	SK19	VE1c	1.0	0.5	0.14		
13	SK323	93G	SK23	VE20e	0.7	0.5	0.10	○	
13	SK324	93G	SK25	VE1e	0.7	0.6	0.10		
13	SK325	92H		VE2t	2.8	1.6	0.30		
13	SK326	92H	SK26	VE2t	1.7	1.2	0.17	○	12C後～13C前
13	SK327	92H	SK27	VE3a	1.8	1.1	0.08	○	15C前
13	SK328	92H	SK25	VE7c	3.0	0.8	0.07		
13	SX21	95Ab	SX04	VE4a4b	-	-	-	○	
13	SX22	95Ab	SX01	VE14b	(3.4)	0.8	0.13	○	
13	SX23	93G	SX01	VE18ab	3.8	3.0	0.23	○	13C前～後
13	SX24	92H	SX03	VE2f	(11.5)	(6.0)	0.09		
13	P236	95Ab	SK06	VE14s	0.2	0.2	-		
13	P237	95Ab	SK07	VE14s	0.2	0.2	-		
13	P238	95Ab	SK08	VE14s	0.2	0.2	0.05		
13	P239	95Ab	SK09	VE14s	0.2	0.2	0.05		
13	P240	95Ab	SK10	VE14s	0.2	0.2	0.04		
13	P241	93G	SK34	VE15t	0.6	0.5	0.10		
13	P242	93G	SK54	VE15a	0.4	0.3	0.11	○	
13	P243	93G	SK39	VE15t	0.5	0.4	0.12		
13	P244	93G	SK55	VE15a	0.4	0.3	0.16	○	
13	P245	93G	SK111	VE15c	0.5	0.4	0.22	○	
13	P246	93G	SK49	VE15a	0.3	0.2	0.09		
13	P247	93G	SK48	VE15a	0.4	0.3	0.12		
13	P248	93G	SK40	VE15t	0.5	0.4	0.12	○	
13	P249	93G	SK66	VE15a	0.3	0.3	0.10	○	10C後・12C後
13	P250	93G	SK56	VE15a	0.5	0.3	0.08	○	
13	P251	93G	SK57	VE15a	0.4	0.3	0.06	○	
13	P252	93G	SK103	VE15a	0.3	0.3	0.11		
13	P253	93G	SK50	VE15a	0.5	0.5	0.16	○	
13	P254	93G	SK47	VE15a	0.3	0.2	0.11	○	
13	P255	93G	SK46	VE15a	0.3	0.3	0.10		
13	P256	93G	SK41	VE16t	0.5	0.4	0.13		
13	P257	93G	SK42	VE16t	0.4	0.4	0.10		
13	P258	93G	SK37	VE16t	0.3	0.3	0.10		
13	P259	93G	SK36	VE16t	0.8	0.5	0.08		
13	P260	93G	SK38	VE16t	0.3	0.2	0.06		

挿入	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
13	P261	93G	SK45	VE16a	0.3	0.3	0.07		
13	P262	93G	SK51	VE16a	0.4	0.4	0.08		
13	P263	93G	SK58	VE15a	0.4	0.3	0.10	○	
13	P264	93G	SK67	VE15a	0.4	0.4	0.12		
13	P265	93G	SK73	VE15b	0.3	0.3	0.11		
13	P266	93G	SK72	VE15b	0.3	0.3	0.09		
13	P267	93G	SK80	VE16b	0.3	0.3	0.11	○	
13	P268	93G	SK82	VE16b	0.5	0.5	0.30	○	
13	P269	93G	SK83	VE16b	0.3	0.3	0.06		
13	P270	93G	SK69	VE16a	0.4	0.4	0.10		
13	P271	93G	SK81	VE16b	0.4	0.3	0.19		
13	P272	93G	SK70	VE16a	0.4	0.3	0.08		
13	P273	93G	SK52	VE16a	0.4	0.3	0.11	○	
13	P274	93G	SK43	VE16t	0.5	0.4	0.10		
13	P275	93G	SK109	VE15c	0.4	0.4	0.19	○	
13	P276	93G	SK108	VE16c	0.4	0.4	0.13		
13	P277	93G	SK123	VE16c	0.3	0.3	0.12		
13	P278	93G	SK124	VE17c	0.4	0.4	0.10		
13	P279	93G	SK85	VE16b	0.4	0.4	0.12	○	
13	P280	93G	SK98	VE17b	0.4	0.3	0.09		
13	P281	93G	SK97	VE17b	0.3	0.3	0.09		
13	P282	93G	SK96	VE17b	0.3	0.3	0.08		
13	P283	93G	SK88	VE17b	0.4	0.4	0.10		
13	P284	93G	SK89	VE17b	0.4	0.4	0.09		
13	P285	93G	SK95	VE17b	0.4	0.4	0.15	○	
13	P286	93G	SK90	VE17b	0.4	0.4	0.12		
13	P287	93G	SK91	VE17b	0.3	0.3	0.09		
13	P288	93G	SK92	VE17b	0.3	0.3	0.09		
13	P289	93G	SK94	VE17b	0.5	0.4	0.11	○	
13	P290	93G	SK115	VE17b				○	
13	P291	93G	SK114	VE17b	0.3	0.3	0.13		
13	P292	93G	SK144	VE17b	0.4	0.2	0.09		
13	P293	93G	SK143	VE17c	0.6	0.5	0.20		
13	P294	93G	SK140	VE17d	0.4	0.4	0.10	○	
13	P295	93G	SK118	VE17b	0.4	0.2	0.10		
13	P296	93G	SK134	VE17b	0.4	0.4	0.12		
13	P297	93G	SK120	VE17b	0.3	0.3	0.12	○	
13	P298	93G	SK121	VE17b	0.4	0.3	0.15	○	
13	P299	93G	SK145	VE18c	0.3	0.2	0.11	○	
13	P300	93G	SK122	VE18b	0.4	0.4	0.10		
13	P301	93G	SK138	VE19d	0.4	0.4	0.30		
13	P302	93G	SK139	VE19d	0.5	0.4	0.06	○	12C後～13C前
13	P303	93G	SK01	VE20t	0.5	0.4	0.16		
13	P304	93G	SK04	VE20t	0.4	0.3	0.08		
13	P305	93G	SK141	VE20a	0.5	0.4	0.04		
13	P306	93G	SK07	VE1a	0.5	0.4	0.10		
13	P307	93G	SK15	VE1c	0.4	0.3	0.12		
13	P308	93G	SK16	VE1c	0.4	0.3	0.10		
13	P309	93G	SK18	VE1c	0.5	0.4	0.09		
13	P310	93G	SK20	VE1d	0.5	0.5	0.04		
13	P311	92H	P10	VE3t	0.3	0.3	0.09	○	
13	P312	92H		VE3t	0.3	0.3	0.05		
13	P313	92H		VE3a	0.4	0.4	0.09		
13	P314	92H		VE3t	0.4	0.4	0.10		
13	P315	92H		VE3d	0.3	0.3	0.07		
13	P316	92H		VE3d	0.4	0.4	0.09		
13	P317	92H	P11	VE4t	0.13	0.6	0.12	○	
13	P318	92H							

挿入	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期	挿入	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
13	P355	92H	VE6a		0.4	0.3	0.06			15	93Eb	SK233	III D11s		0.5	0.5	0.13		
13	P356	92H	VE6a		0.4	0.4	0.05			15	93Eb	SK234	III D11s		0.5	0.4	0.07		
13	P357	92H	VE6a		0.4	0.4	0.05			15	93Eb	SK235	III D11s		0.4	0.3	0.05		
13	P358	92H	VE6a		0.3	0.3	0.03			15	93Eb	SK236	III D11s		0.4	0.3	0.07		
13	P359	92H	VE6a		0.8	0.5	0.04			15	93Eb	SK237	III D10r		0.5	0.4	0.07		
13	P360	92H	VE6a		0.5	0.5	0.06			15	93Eb	SK238	III D10r	(0.9)	(1.0)	0.22			
13	P361	92H	VE6a		0.4	0.4	0.05	○		15	93Eb	SK239	III D6q7q	(0.8)	0.7	0.19			
13	P362	92H	VE6a		0.4	0.4	0.05			15	93Eb	SK240	III D12s	(0.7)	0.5	0.05			
13	P363	92H	VE6a	(0.4)	0.4	0.06				15	93Eb	SK241	III D7q	(0.2)	0.2	0.06			
13	P364	92H	VE6a		0.5	0.4	0.07			15	93Eb	SK242	III D11r		0.4	0.3	0.13		
13	P365	92H	VE6b		0.4	0.4	0.08			15	93Eb	SK243	III D11r		0.3	0.3	0.11		
13	P366	92H	VE5cd	(0.5)	0.5	0.03	○			15	93Eb	SK244	III D11r		0.4	0.4	0.11		
13	P367	92H	VE4f		0.6	0.6	0.61			15	93Eb	SK245	III D11r		0.6	0.5	0.11		
14	SD229	95B2	SD21	II E4e5d	(11.0)	0.6	0.32	○		15	93Eb	SK246	III D11q		0.6	0.4	0.09		
14	SD230	95B2	SD22	II E4g5d	(22.0)	1.0	0.31	○		15	93Eb	SK247	III D11q		0.4	0.3	0.09		
14	SD231	95B2	SD24	II E3g8c	(31.2)	0.8	0.45	○		15	93Eb	SK248	III D11q	1.1	(0.6)	0.23			
14		95B2	SD29	II E6a8g	(31.5)	0.9	0.36			15	93Eb	SK249	III D11q	0.7	(0.4)	0.08			
14		95B2	SD30	II E7g8f	(7.8)	0.4	0.32			15	93Eb	SK251	III D7q	0.2	0.2	0.08			
14		95B2	SD32	II E8d8f	(10.8)	1.0	0.46			15	93Eb	SK252	III D6p7q	0.5	0.3	0.06			
14		95B2	SD45	II E12e	(3.3)	0.4	0.05			15	93Eb	SK253	III D9t	0.5	0.4	0.07			
14		95B2	SD50	II E13e	(3.8)	0.7	0.32			15	93Ea	SD01	III D13o14r	(17.5)	0.6	0.07			
15	SK358	93Eb2	SK161	III D9t	(0.3)	0.2	0.09	○		15	93Ea	SD02	III D13o15p	(11.4)	0.7	0.06			
15	SK359	93F2	SK078	III E20a	1.5	(1.1)	0.06	○		15	93Ea	SD03	III D14q15r	(7.2)	0.9	0.13			
15	SK360	93F2	SK101	IV D11s	(5.0)	1.7	0.53	○		15	93Ea	SK07	III D14p	0.5	0.4	0.11			
15	93K	SK11	III D15s		3.3	2.5	0.41			15	93Ea	SK08	III D14p	0.6	0.5	0.24			
15	93K	SK12	III D13t		3.5	2.8	0.04			15	93Ea	SK09	III D14p	0.6	0.4	0.20			
15	93Eb	SD27	III D11s	(2.4)	0.5	0.07				15	93Ea	SK10	III D13p	0.5	0.4	0.12			
15	93Eb	SD28	III D11s11t	(5.3)	1.1	0.05				15	93Ea	SK11	III D13p	0.6	0.5	-			
15	93Eb	SD30	III D10s	E9a (7.6)	0.8	0.12				15	93Ea	SK12	III D13o	0.6	0.6	0.28			
15	93Eb	SD31	III D9s		2.4	0.4	0.08			15	93Ea	SK13	III D14o	0.5	0.5	0.10			
15	93Eb	SD32	III D9s9t		3.0	0.4	0.09			15	93Ea	SK14	III D14o	0.6	0.6	0.11			
15	93Eb	SD33	III D8t9s		3.0	0.4	0.06			15	93Ea	SK15	III D14p	0.4	0.4	0.16			
15	93Eb	SD35	III D8s7t	(10.0)	0.5	0.09				15	93Ea	SK16	III D14p	0.5	0.4	0.22			
15	93Eb	SD39	III D10o11q	(8.0)	0.5	0.12				15	93Ea	SK17	III D13pq	(0.7)	0.7	0.24			
15	93Eb	SD40	III D11p	(1.2)	0.5	0.12				15	93Ea	SK18	III D13q	(0.9)	(0.3)	0.16			
15	93Eb	SK164	III D11r		2.4	1.0	0.22			15	93Ea	SK19	III D13q14q	(2.0)	(1.5)	0.08			
15	93Eb	SK170	III D7q		0.3	0.3	0.10			15	93Ea	SK20	III D14p	0.4	0.4	0.13			
15	93Eb	SK171	III D7q		0.4	0.4	0.07			15	93Ea	SK21	III D14p	0.5	(0.4)	0.04			
15	93Eb	SK173	III D7p		0.2	0.2	0.03			15	93Ea	SK22	III D14p	0.5	0.4	0.15			
15	93Eb	SK174	III D8p		0.2	0.2	0.03			15	93Ea	SK23	III D14p	0.4	0.4	0.08			
15	93Eb	SK175	III D8p		0.2	0.2	-			15	93Ea	SK24	III D15p	0.5	0.4	0.11			
15	93Eb	SK176	III D7s		1.2	0.7	0.21			15	93Ea	SK25	III D15p	0.5	0.3	0.12			
15	93Eb	SK177	III D7s	(1.0)	0.5	0.05				15	93Ea	SK26	III D13p	(0.4)	(0.4)	-			
15	93Eb	SK178	III D8s		0.3	0.2	0.03			15	93Ea	SK27	III D14o	0.3	0.4	0.04			
15	93Eb	SK179	III D8t	(0.4)	0.5	0.04				15	93Ea	SK28	III D14o	0.6	0.5	0.04			
15	93Eb	SK180	III D8t	(0.5)	(0.5)	0.10				15	93Ea	SK29	III D14o	0.5	0.4	0.06			
15	93Eb	SK184	III D9r		0.3	0.2	0.03			15	93Ea	SK30	III D14o	0.5	0.4	0.06			
15	93Eb	SK185	III D9r		0.3	0.2	0.08			15	93Ea	SK31	III D14o	0.5	0.4	0.05			
15	93Eb	SK186	III D9r	(0.5)	0.4	0.27				15	93Ea	SK32	III D13p	0.5	0.5	0.12			
15	93Eb	SK187	III D9r	(0.8)	(0.5)	0.19				15	93Ea	SK33	III D14p	0.5	(0.4)	0.15			
15	93Eb	SK188	III D9r	(0.4)	(0.2)	-				15	93F	SD14	III D16t	E15a (7.9)	0.7	0.05			
15	93Eb	SK189	III D9r		0.4	0.3	0.28			15	93F	SD15	III D19t	E19a (2.0)	0.4	0.15			
15	93Eb	SK190	III D9r	(0.6)	0.8	0.21				15	93F	SK37	IV D3t		0.5	(0.3)	0.04		
15	93Eb	SK191	III D9r		0.3	0.3	0.09			15	93F	SK38	IV D3t		0.5	0.4	0.06		
15	93Eb	SK192	III D9r		0.3	0.3	0.10			15	93F	SK39	IV D3t		0.5	0.4	0.09		
15	93Eb	SK193	III D9r		0.9	0.4	0.07			15	93F	SK40	IV D3t		0.4	0.4	0.07		
15	93Eb	SK194	III D9r		0.7	0.4	0.07			15	93F	SK41	IV D3t		0.4	0.4	0.07		
15	93Eb	SK195	III D8t		0.4	0.3	0.06			15	93F	SK42	IV D2t		0.5	0.4	0.10		
15	93Eb	SK196	III D8s		0.3	0.2	0.04			15	93F	SK43	IV D2t2s		0.6	0.4	0.12		
15	93Eb	SK197	III D9s		0.4	0.3	0.04			15	93F	SK44	IV D2s		0.4	0.4	0.08		
15	93Eb	SK198	III D6q		0.3	0.3	0.10			15	93F	SK45	IV D2s		0.5	0.5	0.07		
15	93Eb	SK199	III D9t		0.4	0.3	0.04			15	93F	SK46	IV D3s		0.4	(0.2)	0.06		
15	93Eb	SK200	III D9t		0.4	0.4	0.07			15	93F	SK47	IV D3s		0.4	(0.3)	0.05		
15	93Eb	SK201	III D9t		0.4	0.3	0.06			15	93F	SK48	IV D3s		0.5	(0.3)	0.09		
15	93Eb	SK202	III D9t		0.4	0.3	0.09			15	93F	SK49	IV D2s		0.4	0.3	0.06		
15	93Eb	SK203	III D9t		0.8	0.5	0.08			15	93F	SK50	IV D2s	(0.4)	0.3	0.08			
15	93Eb	SK204	III D9t		0.4	0.4	0.09			15	93F	SK51	IV D2s		0.3	0.3	0.02		
15	93Eb	SK205	III D9t		1.0	0.6	0.10			15	93F	SK52	IV D2s		0.3	0.3	0.04		
15	93Eb	SK206	III D9t		0.3	0.2	0.09			15	93F	SK54	IV D2s		0.2	0.2	0.04		
15	93Eb	SK207	III D9s		0.6	0.4	0.07			15	93F	SK55	IV D2s		0.4	0.3	0.05		
15	93Eb	SK208	III D9s		0.9	0.6	0.07			15	93F	SK56	IV D2s		0.7	0.4	0.08		
15	93Eb	SK209	III D9s		0.7	0.5	0.08			15	93F	SK57	IV D2s	(0.4)	0.4	0.04			
15	93Eb	SK210	III D9q		0.7	0.4	0.10			15	93F	SK58	IV D1s	(0.3)	0.3	0.05			
15	93Eb	SK211	III D10q		0.4	0.3	0.06			15	93F	SK59	IV D2t		0.6	0.5	0.06		
15	93Eb	SK212	III D10s		0.4	0.4	0.17			15	93F	SK60	IV D1s1t		1.5	0.4	0.06		
15	93Eb	SK213	III D10s		0.3	0.3	0.05			15	93F	SK61	IV D1s		0.5	(0.4)	0.07		
15	93Eb	SK214	III D10s		0.2	0.2	0.06			15	93F	SK64	IV D3s		0.3	0.3	0.05		
15	93Eb	SK215	III D10s		0.3	0.2	0.05			15	93F	SK65	IV D3s		0.5	0.2	0.08		
15	93Eb	SK216	III D10s		0.4	0.3	0.01			15	93F	SK66	IV D3s		0.4	0.3	0.07		
15	93Eb	SK217	III D10s	(0.3)	0.3	-				15	93F	SK67	IV E1a		0.4	0.3	0.14		
15	93Eb	SK218	III D10s		0.3	0.3	0.13			15	93F	SK68	IV E1a		0.4	0.4	0.07		
15	93Eb	SK219	III D10s		0.3	0.3	0.16			15	93F	SK69	IV E1a		0.3	0.3	0.05		
15	93Eb	SK220	III D10t		0.3	0.3	0.12			15	93F	SK70	III E20a		0.4	0.4	0.04		
15	93Eb	SK221	III D10t		0.3	0.2	0.12			15	93F	SK71	III E20a		0.3	0.3	0.04		
15	93Eb	SK222																	

挿入	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
15	93F	SK84	ⅢD20t		(0.5)	0.5	0.08		
15	93F	SK85	ⅣD1s		0.6	0.4	0.05		
15	93F	SK86	ⅣD1s		1.0	0.3	0.04		
15	93F	SK87	ⅣD2s		0.4	(0.3)	0.08		
15	93F	SK88	ⅣD3r		(0.3)	0.2	0.03		
15	93F	SK89	ⅣD1s		0.7	0.6	0.32		
15	93F	SK90	ⅣD1s		0.8	(0.5)	0.08		
15	93F	SK91	ⅣD1s		0.5	0.4	0.36		
15	93F	SK95	ⅢD20s		0.4	0.3	-		
15	93F	SK97	ⅣD19t		(0.5)	0.3	0.05		
15	93F	SK100	ⅣD1t		2.5	2.5	0.30		
15	93F	SK103	ⅣD1t2t		(3.6)	0.7	0.08		
15	93F	SK106	ⅢE18a		0.4	0.3	0.05		
15	93F	SK107	ⅢE18a		0.3	0.3	0.03		
15	93F	SK108	ⅢD18t		0.4	0.4	0.05		
15	93F	SK109	ⅢE18a		0.5	0.4	0.11		
15	93F	SK110	ⅢE18a		0.5	0.5	0.10		
15	93F	SK111	ⅢE17a		0.4	0.3	0.09		
15	93F	SK112	ⅢE17a		0.4	0.4	0.05		
15	93F	SK113	ⅢE17a		0.4	0.3	0.03		
15	93F	SK114	ⅢE17a		0.3	0.3	0.03		
15	93F	SK115	ⅢD17t		0.4	0.4	0.05		
15	93F	SK116	ⅢE17a		0.4	0.3	0.05		
15	93F	SK117	ⅢE17a		0.4	0.3	0.06		
15	93F	SK118	ⅢE17a		0.4	0.4	0.05		
15	93F	SK119	ⅢE17a		0.4	0.4	0.07		
15	93F	SK120	ⅢE17a		0.5	0.4	0.06		
15	93F	SK121	ⅢE16a		0.4	0.4	0.06		
15	93F	SK122	ⅢE16a		0.5	0.4	0.08		
15	93F	SK123	ⅢE16a		0.4	0.4	0.07		
15	93F	SK124	ⅢE16a		0.5	0.5	0.07		
15	93F	SK125	ⅢE16a		0.4	0.4	0.07		
15	93F	SK126	ⅢE16a		0.4	0.4	0.07		
15	93F	SK128	ⅢE15a		0.5	0.4	0.07		
15	93F	SK129	ⅢE15a		0.5	0.4	0.04		
15	93F	SK130	ⅢE15a		0.5	0.4	0.05		
15	93F	SK131	ⅢE15a		0.4	0.2	0.08		
15	93F	SK132	ⅢE16a		0.7	0.2	0.09		
15	93F	SK133	ⅢE16a		0.4	0.6	0.04		
15	93F	SK134	ⅢE16a		0.4	0.4	0.04		
15	93F	SK135	ⅢE16a		0.4	0.4	0.04		
15	93F	SK136	ⅢE16a		0.4	0.4	0.08		
15	93F	SK137	ⅢE15a		0.6	0.4	0.10		
15	93F	SK138	ⅢE15a		0.5	0.4	0.05		
15	93F	SK139	ⅢE15a		0.5	0.4	0.05		
15	93F	SK140	ⅢD15t ⅢE15a		0.4	0.4	0.07		
15	93F	SK141	ⅢD16t		0.5	0.4	0.09		
15	93F	SK142	ⅢD16t		(0.4)	0.4	0.08		
15	93F	SK143	ⅢD16t		(1.0)	0.7	0.11		
15	93F	SK144	ⅢD16t		0.5	0.5	0.06		
15	93F	SK145	ⅢD18t		0.7	0.6	0.15		
15	93F	SK146	ⅢD18t		0.5	(0.2)	0.07		
15	93F	SK147	ⅢD18t		0.5	0.3	0.05		
15	93F	SK148	ⅢD17t		(2.0)	(0.7)	0.17		
15	93F	SK149	ⅢD16t		(0.8)	(1.2)	0.17		
15	93F	SK154	ⅢD17t		0.4	(0.2)	0.05		
15	93F	SK155	ⅢD17t		0.4	(0.2)	0.04		
15	93F	SK156	ⅢD17t		0.3	0.2	0.04		
15	93F	SK158	ⅢD18t		0.3	0.2	0.07		
15	93F	SK159	ⅢD15t ⅢE15a		(0.3)	(0.3)	0.06		
16	SD232	92D	SD14	V D19o V D1p	(15.2)	1.2	0.18	○	
16	SD233	92D	SD16	V D19m20n	(14.7)	0.3	0.16	○	
16	SD234	92D	SD17	V D20m18n	(14.8)	0.7	0.12	○	
16	SD235	92D	SD18	V D19mn	(13.8)	0.8	0.17	○	
16	SD236	92D	SD19	V D19mn	(2.1)	1.3	0.23	○	
16	SD237	92D	SD22	V D18m	(11.5)	1.4	0.26	○	
16	SD237	93Hb	SD14	ⅣD1t ⅤE20a	(7.6)	1.0	0.23	○	
16	SD238	93Hb	SD09	ⅤE20a19c	(7.5)	2.0	0.21	○	
16	SD241	93Hb	SD08	ⅤE3a5a	(10.0)	1.1	0.21	○	
16	SK361	92D	SK56	V D20n	(1.9)	(0.9)	0.17	○	
16	SK362	92D	SK57	V D20no	(2.5)	(0.7)	0.29	○	
16	SK363	92D	SK58	V D20m	(2.9)	(1.1)	0.22	○	
16	SK364	92Aa	SK114	ⅤE16b	2.3	1.4	0.12	○	
16	SK365	93Hb	SK04	ⅣD4t	2.8	0.9	0.17	○	
16	SK366	93Hb	SK03	ⅣD5t	(2.5)	(1.1)	0.73	○	
16	SX25	92D	SX02	V D19m19o	(10.4)	(1.5)	0.07	○	
16		92D	SD15	V D19n	(6.2)	0.5	0.10		
16		92D	SD20	V D19p V D1m	(16.3)	4.5	0.39		
16		92D	SD21	ⅣD19np	(10.8)	0.5	0.14		
16		92D	SK59	V D19m	(4.1)	(0.7)	0.19		
16		92Aa	SK115	ⅣD13t ⅤE13a	1.4	1.0	0.06		
16		92Aa	SK116	ⅤE16b	(2.0)	(1.5)	0.08		
16		93Hb	SD07	ⅣD35t	(13.3)	0.9	0.10		
16		93Hb	SD10	ⅤE19b20b	(4.3)	1.6	0.10		
16		93Hb	SD11	ⅤE1a ⅣD20c	(8.4)	2.0	0.18		
16		93Hb	SD12	ⅣD1t ⅤE20b	(11.7)	0.8	0.20		
16		93Hb	SD13	ⅣD1t ⅤE19b	(15.0)	1.8	0.15		
16		93Hb	SD15	ⅣD1t ⅤE1b	(11.5)	0.8	0.16		
16		93Hb	SK05	ⅤE19b	(1.2)	(0.6)	0.10		
16		93Hb	SK06	ⅤE20b	(1.1)	(0.6)	0.35		
16		93Hb	SK07	ⅤE20b	(0.7)	(0.5)	0.05		
16		93Hb	SK08	ⅤE1a	0.7	0.6	0.16		
16		93Hb	SK09	ⅤE20b	(0.8)	(0.5)	0.06		
18	SD185	92Ab	SD10	ⅤE4a	(3.8)	1.3	0.07	○	

挿入	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
18	SK217	92Ab	SK41	ⅤE4a	1.8	1.1	0.17	○	
18	SK218	92Ab		ⅤE6a	1.0	0.6	0.10		
18	SK219	92Ab	SK43	ⅤE6a	1.5	0.9	0.20	○	
18	SK220	92Ab	SK42	ⅤE6b	(2.3)	(0.6)	0.08	○	
18	SK221	92Ab	SK46	ⅤE7a	(1.5)	(0.8)	0.10	○	
18	SK222	92Ab	SK48	ⅤE7a	1.6	1.2	0.24	○	
18	SK223	92Ab	SK44	ⅤE8a	1.8	1.4	0.08	○	
18	SK224	92Ab	SK45	ⅤE8a8b	1.3	1.0	0.15	○	
18	SK225	92Ab	SK49	ⅣD8t ⅤE8a	1.7	1.2	0.15	○	
18	SK226	92Ab		ⅤE8b	(2.4)	(0.5)	0.13		
18	P188	92Ab		ⅤE8b	(0.3)	0.5	0.12		
18	P189	92Ab		ⅤE8a	0.4	0.3	0.07		
18	P190	92Ab		ⅤE8b	0.4	0.3	0.07		
19	SD186	92Ab	SD09	ⅣD10t ⅤE10b	(8.0)	4.0	0.28	○	12C後
19	SK227	92Ab	SK47	ⅣD9t	1.7	1.3	0.15	○	
19	SK228	92Ab		ⅤE9a	1.2	0.9	0.12		
19	SK229	92Ab	SK61	ⅤE11a	1.0	0.9	0.12	○	
19	SK230	92Ab	SK63	ⅤE11a	0.7	0.5	0.13	○	
19	SK231	92Ab		ⅤE11b	1.1	0.7	0.13		
19	SK232	92Ab	SK62	ⅤE11a	2.6	1.4	0.11	○	12C後
19	SK233	92Ab		ⅤE11a	1.2	1.0	0.33		
19	SK234	92Ab		ⅤE11a	0.9	0.7	0.06		
19	SK235	92Ab		ⅤE11b	1.0	0.9	0.07		
19	SK236	92Ab	SK60	ⅣD12t	(1.4)	(0.2)	0.10		
19	SK237	92Ab	SK65	ⅤE12a	0.9	0.7	0.05		
19	SK238	92Aa	SK34	ⅤE13a	1.0	0.7	0.04		
19	SK239	92Aa	SK38	ⅤE13a	1.7	1.6	0.02	○	
19	P191	92Ab		ⅣD11t	0.5	(0.2)	0.08		
19	P192	92Ab		ⅣD11t	0.4	0.3	0.11		
19	P193	92Ab		ⅤE11a	0.3	0.3	0.08		
19	P194	92Ab		ⅤE11a	0.4	0.3	0.13		
19	P195	92Ab		ⅣD12t	0.4	0.3	0.06		
19	P196	92Ab		ⅤE11b	0.4	0.3	0.10		
19	P197	92Ab		ⅤE11a	0.3	0.3	0.06		
19	P198	92Ab		ⅣD12t	0.3	0.3	0.14		
19	P199	92Ab		ⅣD12t	0.4	0.4	0.12		
19	P200	92Ab		ⅣD12t	0.4	0.4	0.12		
19	P201	92Ab		ⅣD12t	0.4	0.3	0.10		
19	P202	92Ab		ⅣD12t	0.4	0.3	0.07		
19	P203	92Ab		ⅤE12a	0.5	0.4	0.09		
19	P204	92Ab		ⅤE12a	0.4	0.4	0.07		
19	P205	92Ab		ⅤE12a	0.4	0.4	0.05		
19	P206	92Ab		ⅤE12a	0.3	0.3	0.06		
19	P207	92Ab		ⅤE12a	0.3	0.3	0.07		
19	P208	92Aa		ⅣD13t	0.3	0.3	0.08		
19	P209	92Aa		ⅤE13a	0.4	0.3	0.06		
19	P210	92Aa		ⅤE13b	0.4	0.3	0.06		
20	SK329	92Ab		ⅤE11b	1.2	0.9	0.06		
20	SK330	92Ab		ⅤE11a	1.6	1.0	0.12		
20	SK331	92Ab		ⅤE11a	0.8	0.5	0.07		
20	SK332	92Ab	SK117	ⅣD10t12t	1.9	0.9	0.26	○	
20	P368	92Ab		ⅤE10a	0.4	0.3	0.03		
20	P369	92Ab		ⅤE11t	0.4	0.3	0.07		
20	P370	92Ab	P119	ⅣD11t	0.4	0.3	0.09	○	
20	P371	92Ab		ⅤE12a	0.4	0.3	0.13		
21	SD187	92Aa	SD01	ⅣD13t ⅤE13b	(11.1)	2.0	0.09	○	12C後
21	SD188	92Aa	SD02	ⅤE16t	(4.7)	0.3	0.05	○	12C後
21	SK240	92Aa	SK36	ⅤE14a	1.1	0.9	0.13		
21	SK241	92Aa	SK10	ⅣD14t ⅤE14a	2.8	2.6	0.29		

挿入	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
21	P228	92Aa		VE16b	0.4	0.4	0.14		
21	P229	92Aa		VE17b	0.6	0.6	0.14		
21	P230	92Aa	P02	VE16b	0.2	0.2	0.07	○	
21	P231	92Aa		VE16b	0.4	0.3	0.10		
21	P232	92Aa		VE17b	0.4	0.3	0.16		
21	P233	92Aa		VE17b	0.3	0.3	0.07		
21	P234	92Aa		VE17b	(0.3)	(0.3)	0.18		
21	P235	92Aa		VD17t VE16a	0.5	0.4	0.03		
22	SK334	92Aa	SK103	VE13a	3.6	3.1	0.26	○	
22	SK335	92Aa		VE13b	1.7	1.1	0.16		
22	SK336	92Aa		VE13a	1.0	0.6	0.18		
22	SK337	92Aa	SK112	VE13a	1.0	0.7	0.08	○	
22	SK338	92Aa	SK113	VD13t VE14a	(1.0)	1.0	0.11	○	
22	SK339	92Aa	SK110	VD14t	0.7	0.6	0.05	○	
22	SK340	92Aa		VD15t	(1.3)	(1.4)	0.12		
22	SK341	92Aa	SK103	VD15t	2.6	1.6	0.10	○	
22	SK342	92Aa	SK108	VE15a	1.3	0.9	0.11	○	
22	SK343	92Aa	SK109	VE15a	1.0	0.8	0.16	○	
22	SK344	92Aa	SK102	VE15a	1.9	1.4	0.20	○	
22	SK345	92Aa		VE15a	(0.8)	0.6	0.12		
22	SK346	92Aa	SK104	VE14b15b	2.2	1.2	0.15	○	
22	SK347	92Aa	SK107	VE14b15b	(0.5)	0.4	0.17	○	
22	SK348	92Aa		VE15a	(1.1)	0.8	0.10		
22	SK349	92Aa	SK111	VE15b	1.8	0.5	0.11	○	
22	SK350	92Aa		VE15b16b	1.5	1.0	0.10		
22	SK351	92Aa		VE15b16b	(1.3)	(0.7)	0.02		
22	SK352	92Aa	SK106	VE16ab	2.2	2.2	0.19	○	
22	SK353	92Aa		VE16a	0.6	0.4	0.08		
22	SK354	92Aa	SK101	VD16t17t	3.6	1.3	0.04	○	
22	SK355	92Aa		VD17t	(0.6)	(0.4)	0.15		
22	SK356	92Aa		VE16ab	1.6	0.9	0.10		
22	SK357	92Aa		VE16a	0.9	0.6	0.10		
22	P372	92Aa		VE12a	0.2	0.2	0.06		
22	P373	92Aa	P114	VE12a	0.3	0.2	0.13	○	
22	P374	92Aa		VE13a	0.2	0.1	0.13		
22	P375	92Aa		VE13a	0.2	0.2	0.08		
22	P376	92Aa		VE13a	0.2	0.2	0.14		
22	P377	92Aa	P115	VE12a	0.3	0.2	0.14	○	
22	P378	92Aa		VD13t	0.3	0.3	0.10		
22	P379	92Aa		VE13a	0.2	0.2	0.14		
22	P380	92Aa	P113	VE12a	0.3	0.3	0.18	○	
22	P381	92Aa	P116	VE13t	0.3	0.3	0.14	○	
22	P382	92Aa	P117	VE13t	0.5	0.4	0.12	○	
22	P383	92Aa	P118	VD14t	0.5	0.2	0.14	○	
22	P384	92Aa	P111	VE12a	0.3	0.2	0.11	○	
22	P385	92Aa		VE13b	0.4	0.4	0.10		
22	P386	92Aa		VE13b	0.4	0.3	0.14		
22	P387	92Aa		VE13b	(0.4)	0.3	0.08		
22	P388	92Aa	P108	VE12a	0.3	0.2	0.20	○	
22	P389	92Aa		VE13a	0.4	0.2	0.22		
22	P390	92Aa	P112	VE12a	0.3	0.2	0.18	○	
22	P391	92Aa		VE13b	0.3	0.2	0.05		
22	P392	92Aa		VE13b14b	(0.3)	0.2	0.03		
22	P393	92Aa		VE13b14b	(0.3)	0.2	0.03		
22	P394	92Aa		VE13b14b	0.3	0.3	0.03		
22	P395	92Aa		VE14b	0.3	0.3	0.04		
22	P396	92Aa		VE14b	0.2	0.2	0.03		
22	P397	92Aa	P105	VE14b	0.3	0.2	0.23	○	
22	P398	92Aa	P104	VE14b	0.3	0.2	0.11	○	
22	P399	92Aa		VE14b	0.3	0.2	0.12		
22	P400	92Aa		VE14b	0.3	0.3	0.07		
22	P401	92Aa		VE14b	0.2	0.2	0.07		
22	P402	92Aa		VE14b	0.3	0.2	0.06		
22	P403	92Aa		VE14b	(0.3)	0.2	0.08		
22	P404	92Aa		VE14b	0.3	0.3	0.10		
22	P405	92Aa		VE14b	0.3	0.2	0.14		
22	P406	92Aa		VE14b	0.3	0.3	0.13		
22	P407	92Aa		VE14b	0.2	0.2	0.24		
22	P408	92Aa	P109	VE14b	0.5	0.3	0.15	○	
22	P409	92Aa		VE14b	0.4	0.3	0.07		
22	P410	92Aa		VE15b	(0.4)	0.2	0.12		
22	P411	92Aa		VE15b	(0.3)	0.2	0.09		
22	P412	92Aa		VE15a	(0.4)	0.3	0.07		
22	P413	92Aa		VE15a	0.3	0.3	0.14		
22	P414	92Aa		VE15a	0.2	0.2	0.12		
22	P415	92Aa	P110	VE15a	0.4	0.3	0.11	○	
22	P416	92Aa		VE15a	0.3	0.3	0.16		
22	P417	92Aa		VE15a	0.3	0.3	0.14		
22	P418	92Aa		VE15a	0.2	0.2	0.10		
22	P419	92Aa		VD15t	0.3	0.2	0.10		
22	P420	92Aa		VD15t	0.2	0.2	0.10		
22	P421	92Aa		VD15t	0.2	0.2	0.09		
22	P422	92Aa		VD15t	0.3	0.3	0.18		
22	P423	92Aa		VD15t	0.2	0.2	0.09		
22	P424	92Aa		VD15t	0.5	0.4	0.10		
22	P425	92Aa		VD16t	0.3	0.3	0.08		
22	P426	92Aa		VE15b	0.5	0.4	0.06		
22	P427	92Aa		VE15b	0.3	0.3	0.07		
22	P428	92Aa		VE15b	0.3	0.3	0.07		
22	P429	92Aa	P101	VE15b	0.3	0.3	0.17	○	
22	P430	92Aa		VE15b	0.3	0.3	0.14		
22	P431	92Aa		VE15b	0.3	0.3	0.08		
22	P432	92Aa		VE15b	0.4	0.3	0.09		
22	P433	92Aa		VE15b16b	0.4	0.3	0.14		

挿入	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
22	P434	92Aa		VE15b16b	0.2	0.2	0.06		
22	P435	92Aa		VE16a	0.4	0.3	0.09		
22	P436	92Aa		VE16a	0.4	0.3	0.09		
22	P437	92Aa		VE16a	0.4	0.3	0.07		
22	P438	92Aa		VE16a	0.3	0.3	0.04		
22	P439	92Aa		VE16a	0.3	0.3	0.06		
22	P440	92Aa		VE16a	0.4	0.3	0.07		
22	P441	92Aa		VE16a	0.3	0.3	0.07		
22	P442	92Aa		VE16a	0.3	0.2	0.04		
22	P443	92Aa		VE16a	0.2	0.2	0.02		

図

版



図版1  
墳墓堂遺構全景



1. 92F・Ga・Gb・E区

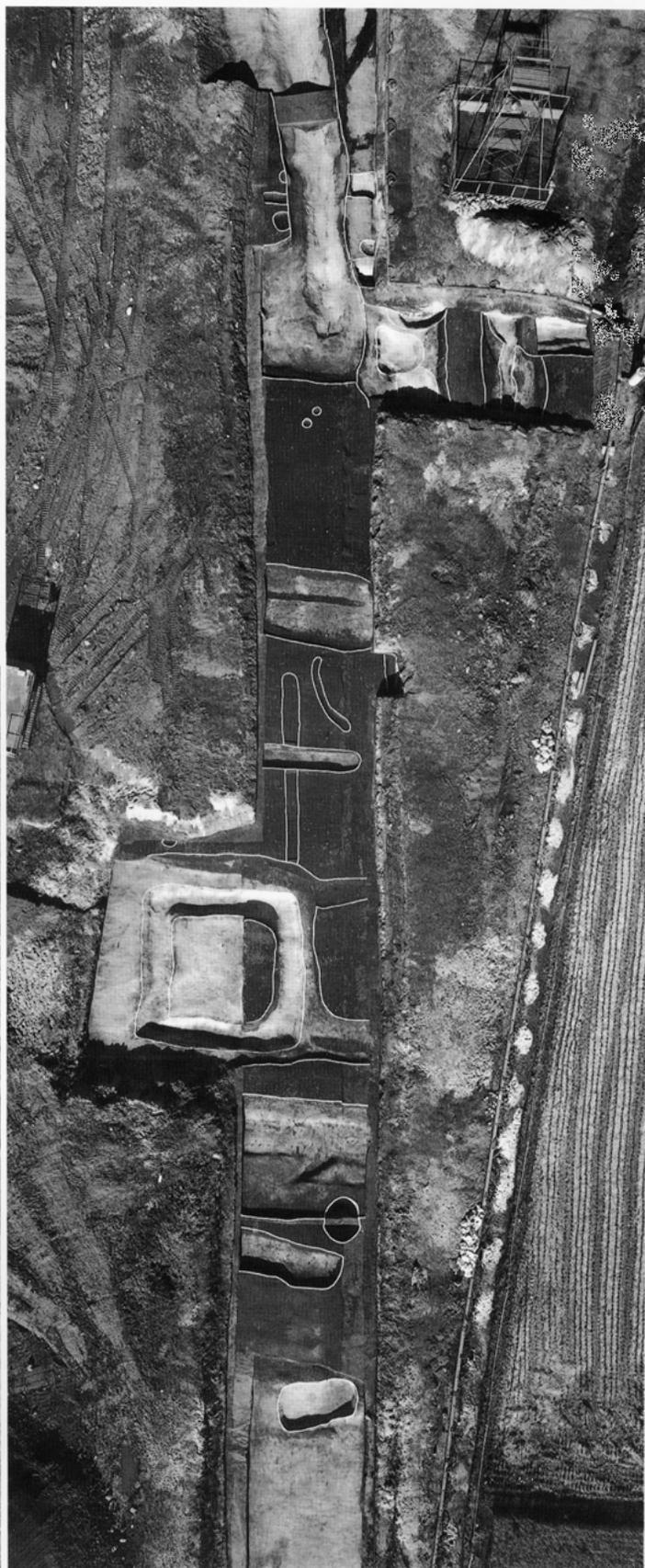


2. 93K区

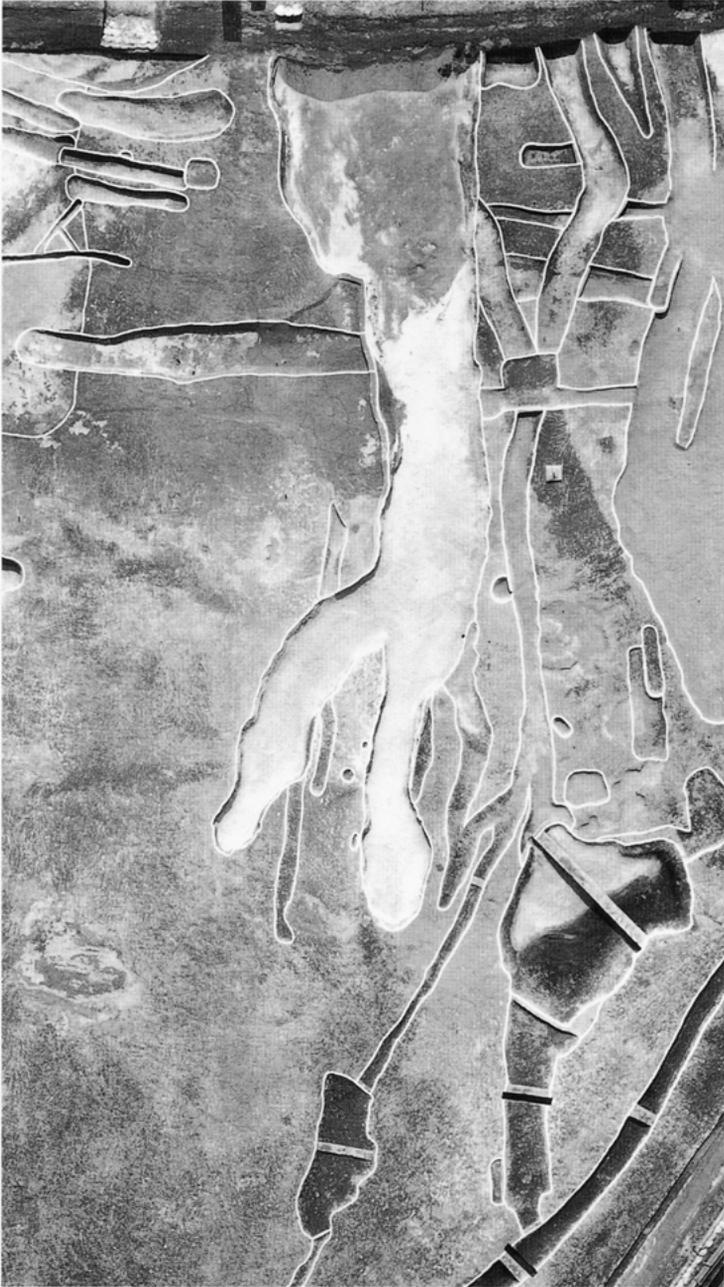




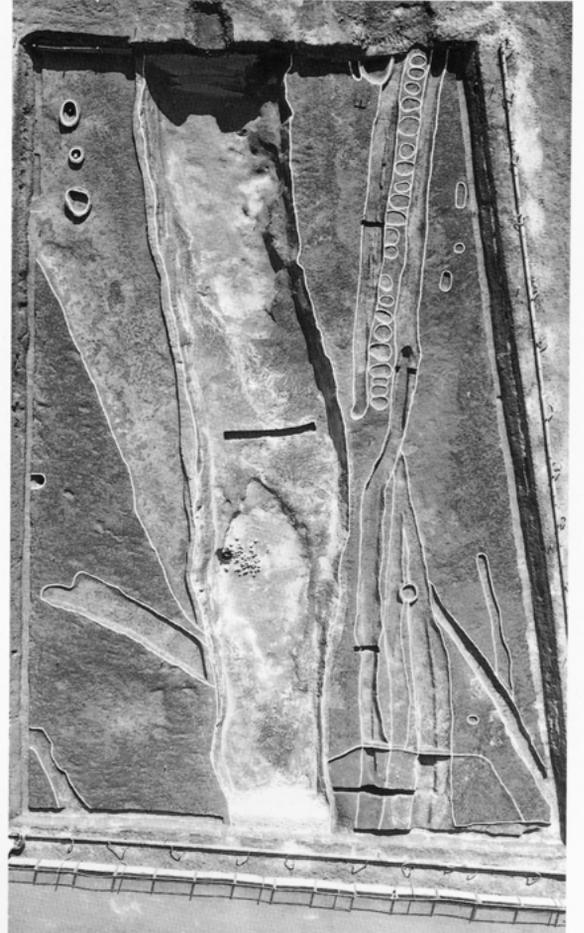
1. 93E区



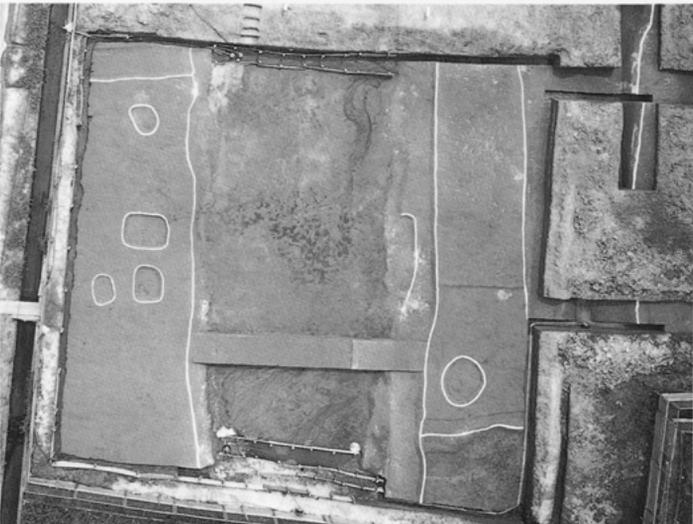
2. 93K区



1. 93J区



2. 93I区



3. 92Ca区

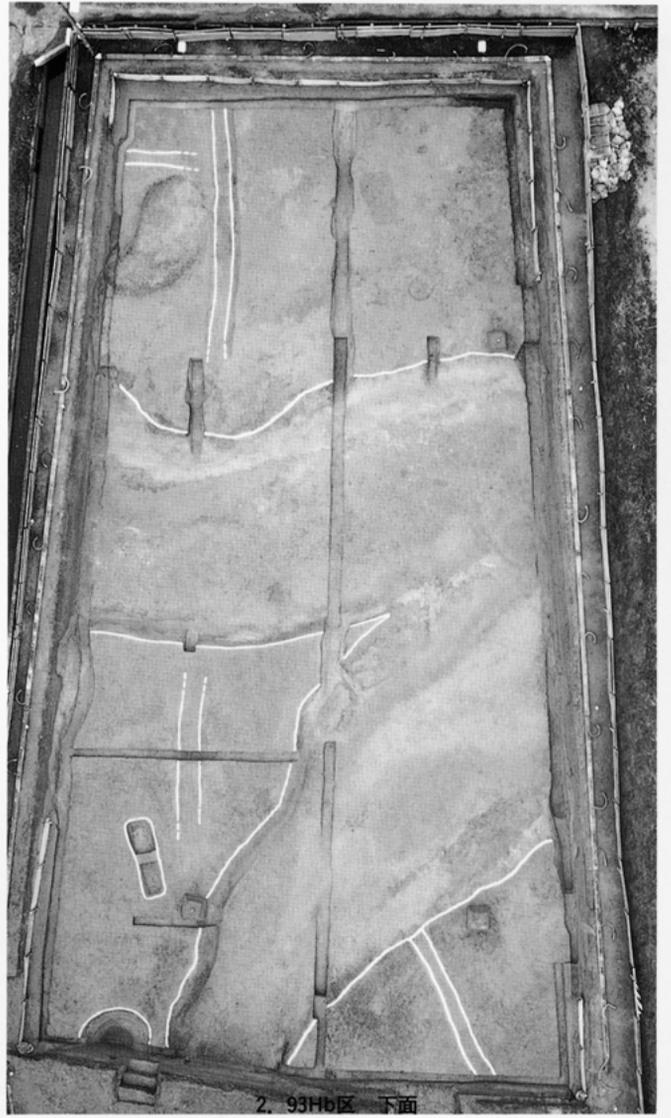


4. 92Cb区

図版5  
水田全景



1. 93Hb区



2. 93Hb区 下面



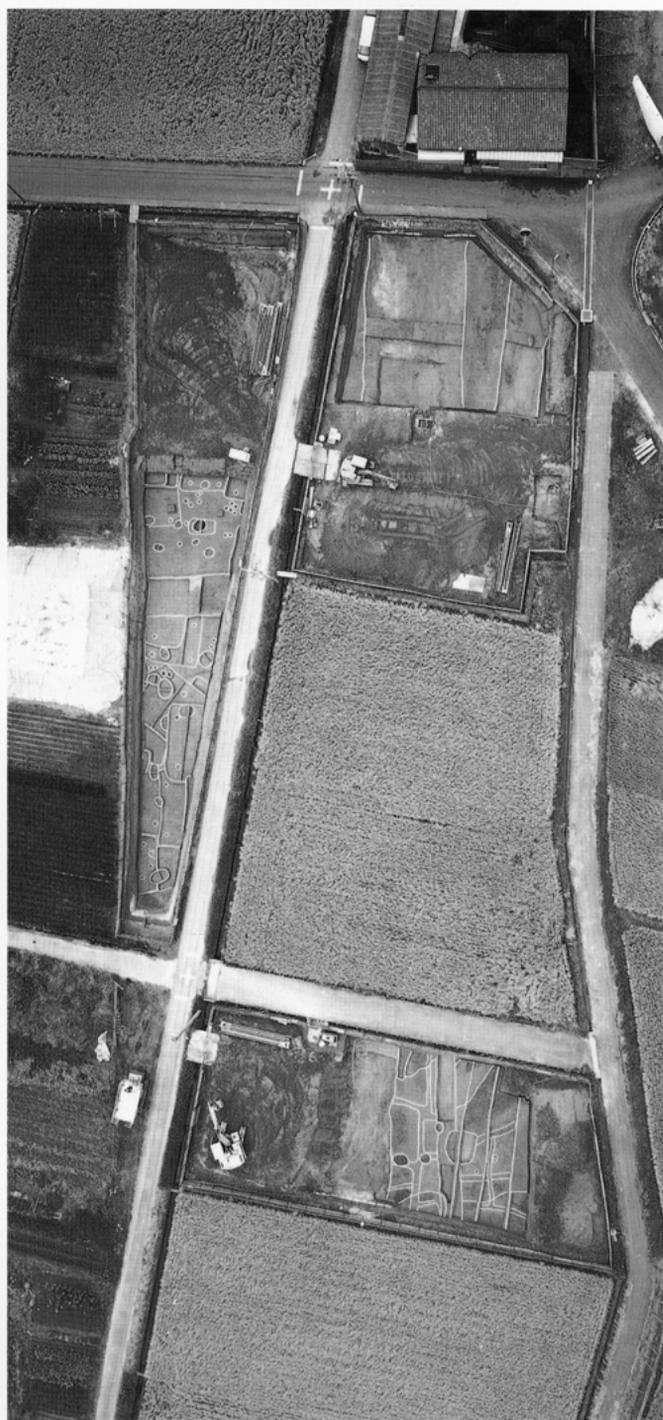
3. 92Cb区 下面



4. 93Ha区

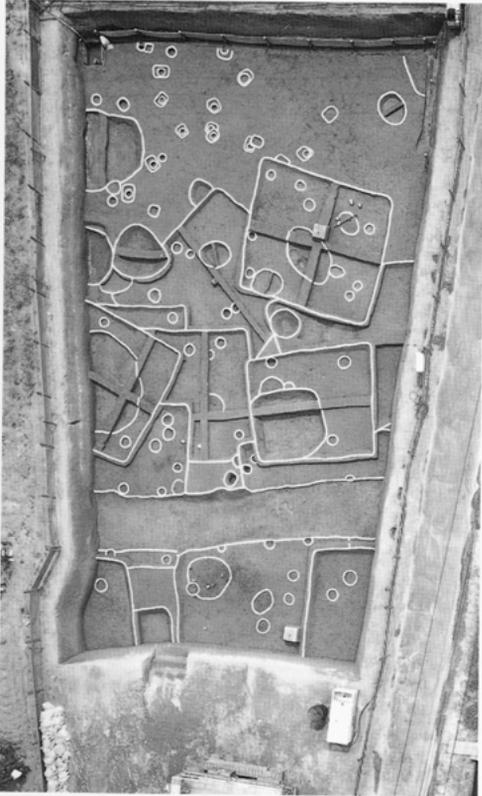


1. 92Aa・Ca・Da区



2. 92Ab・Cb・Db区

図版7  
住居跡



1. 92Aa区



3. 93G区



2. 92Ab区



4. 92H区



1. 92F区 集石全景(東より)



2. 92F区 全景



3. 92F区 集石全景(南より)



4. 92F区 SX03



6. 92F区 SX05(西から)



5. 92F区 SX09(西から)



7. 92F区 SX05(断面)



1. 92F区 遺構検出状況



4. 92Gb区 検出状況



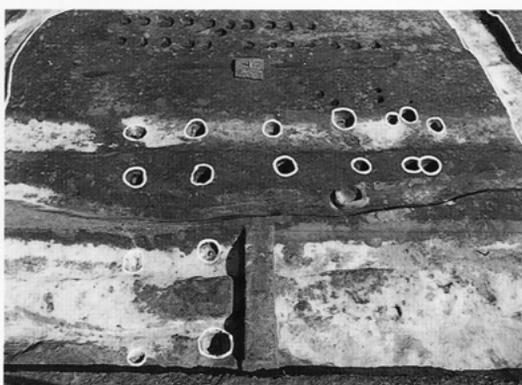
2. 92F区 完掘状況



5. 92Gb区 完掘状況



3. 92Ga区 完掘状況



6. 92Gb区 墳墓堂遺構の柱穴



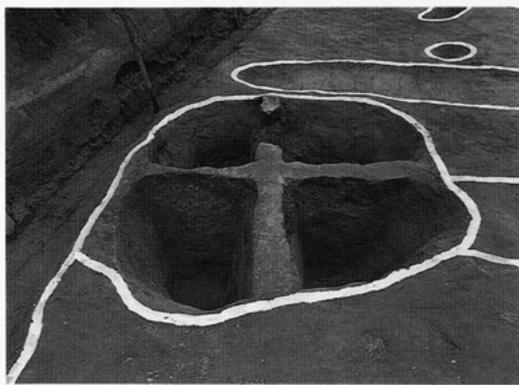
7. 92Gb区 P14柱



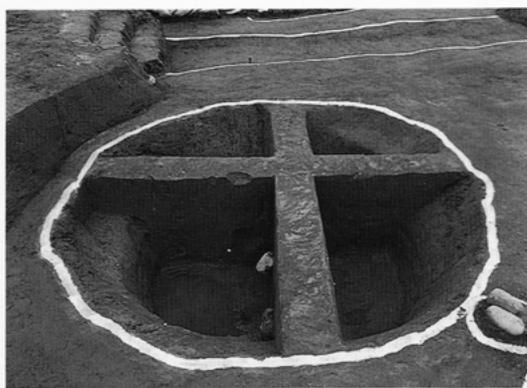
8. 92Gb区 P4柱



1. 93G区 SD214・SE10



3. 93G区 SE11



2. 93G区 SE08



6. 93G区 SE10 南から



4. 93G区 SE09



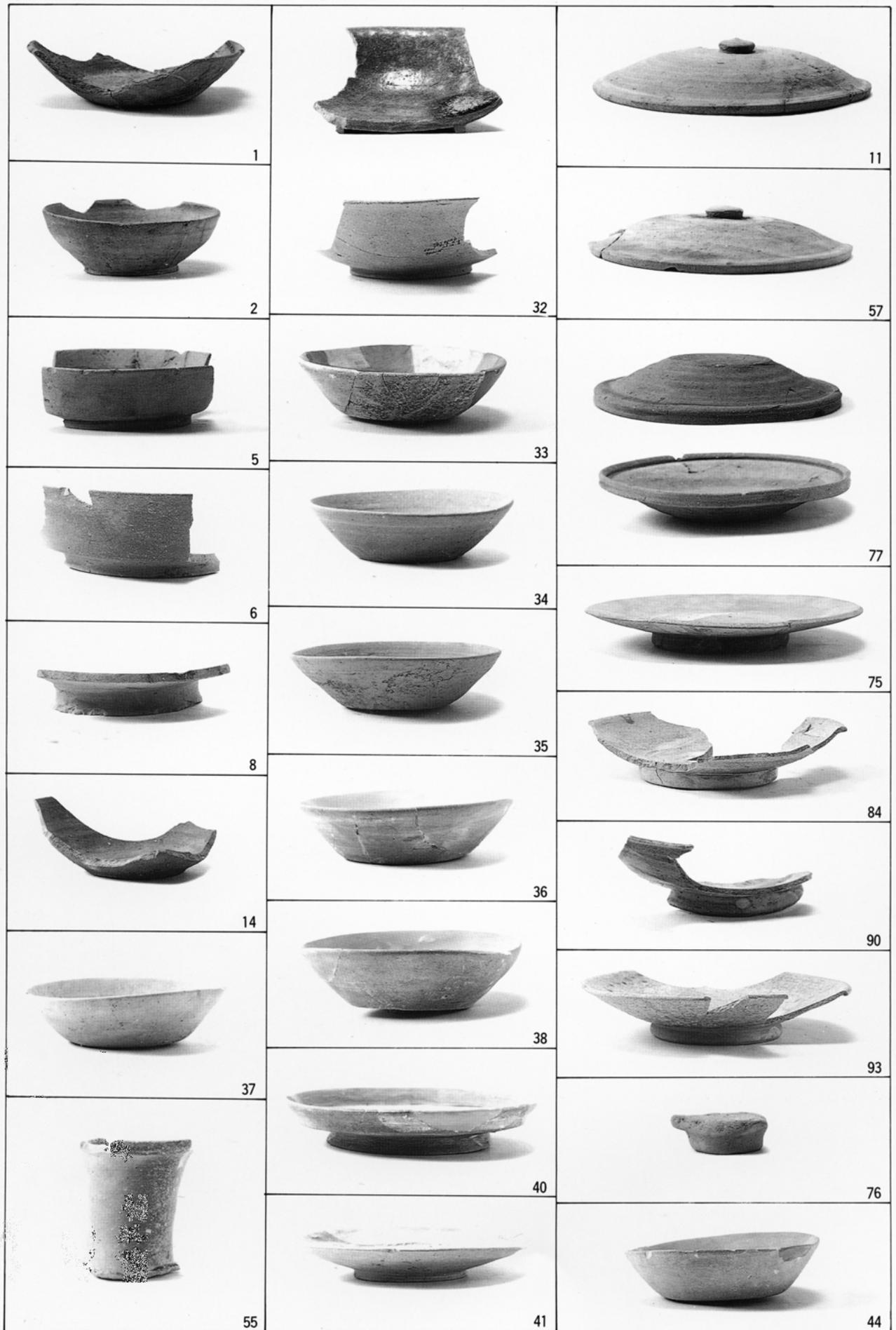
7. 93G区 SE10

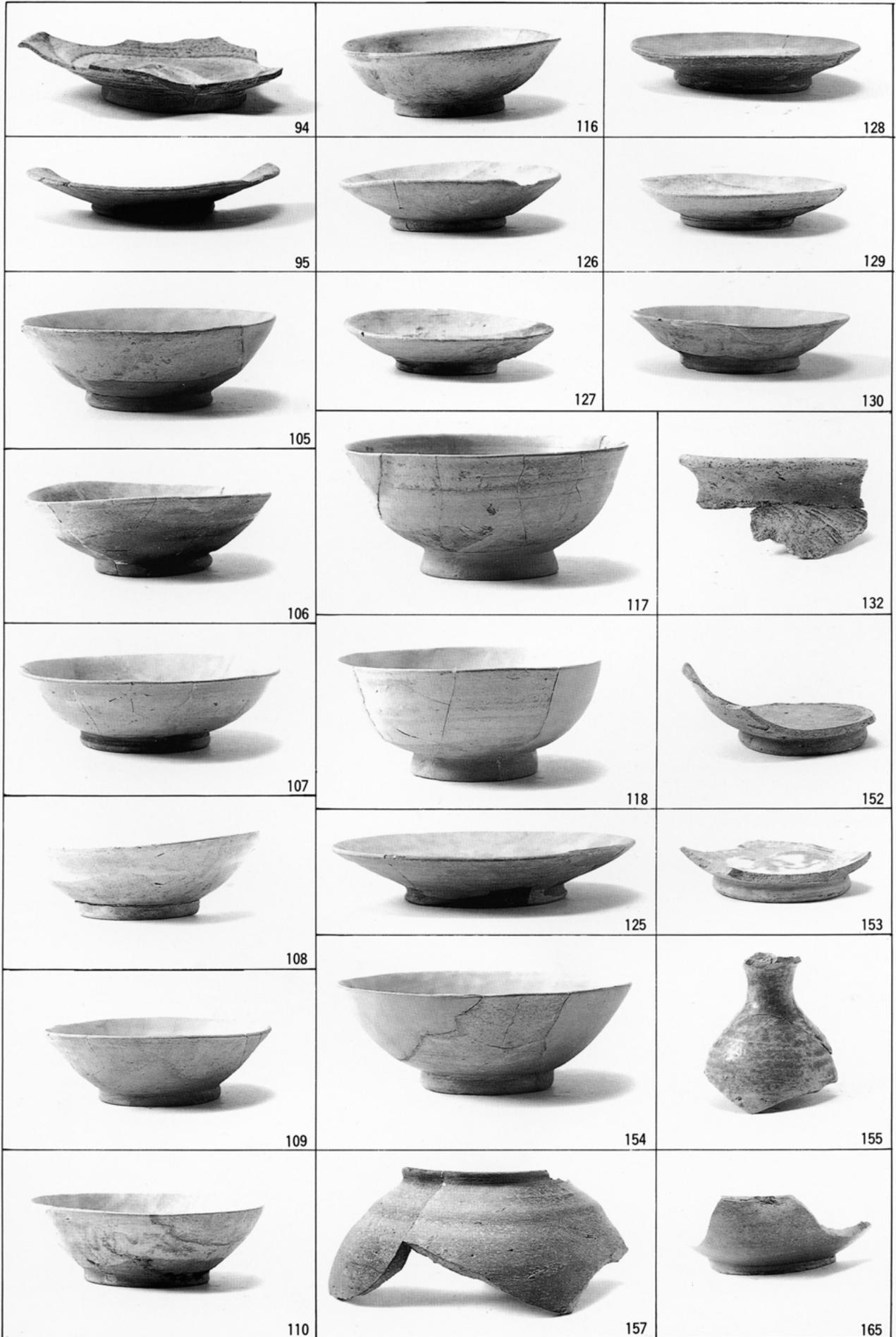


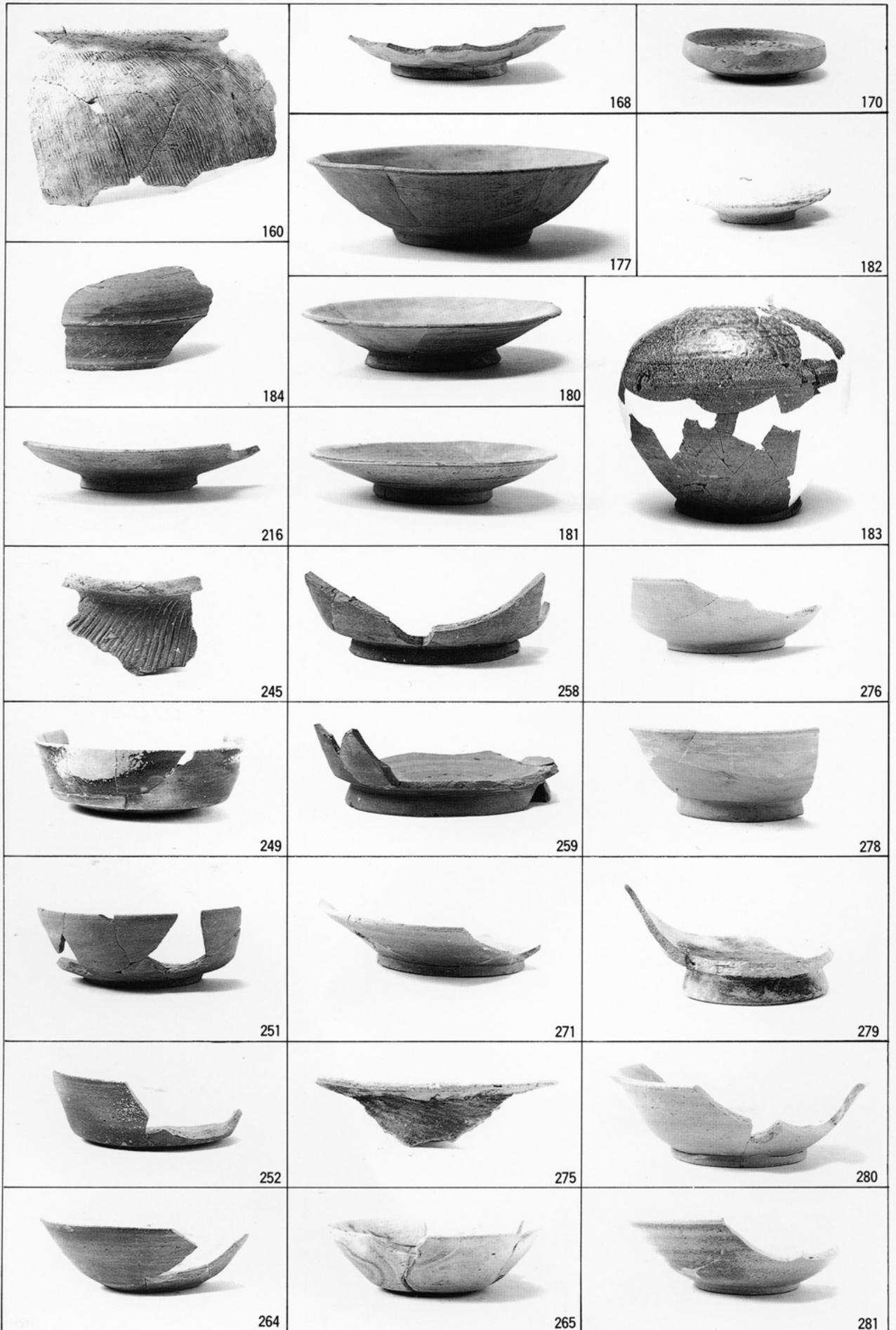
5. 93G区 SE09

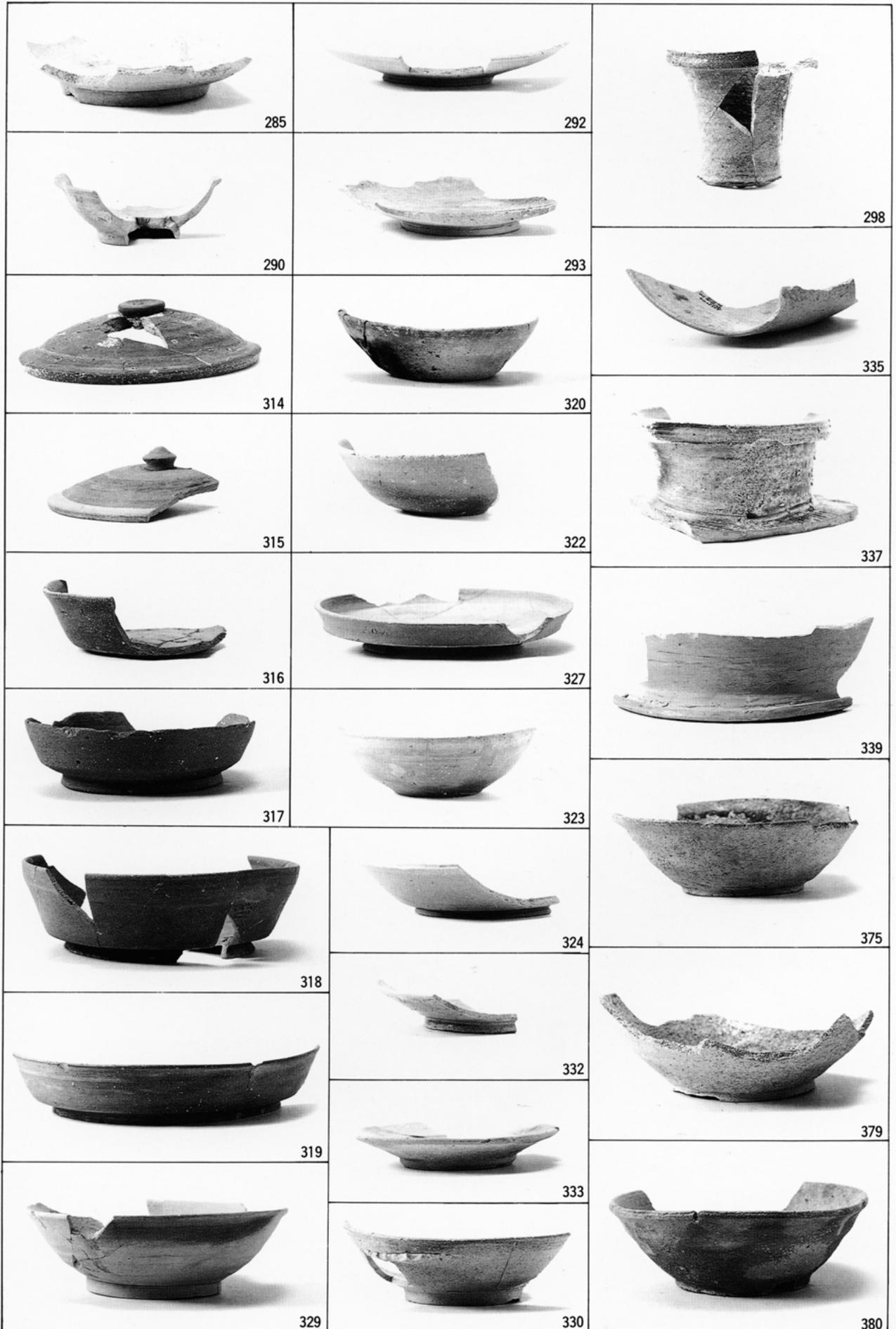


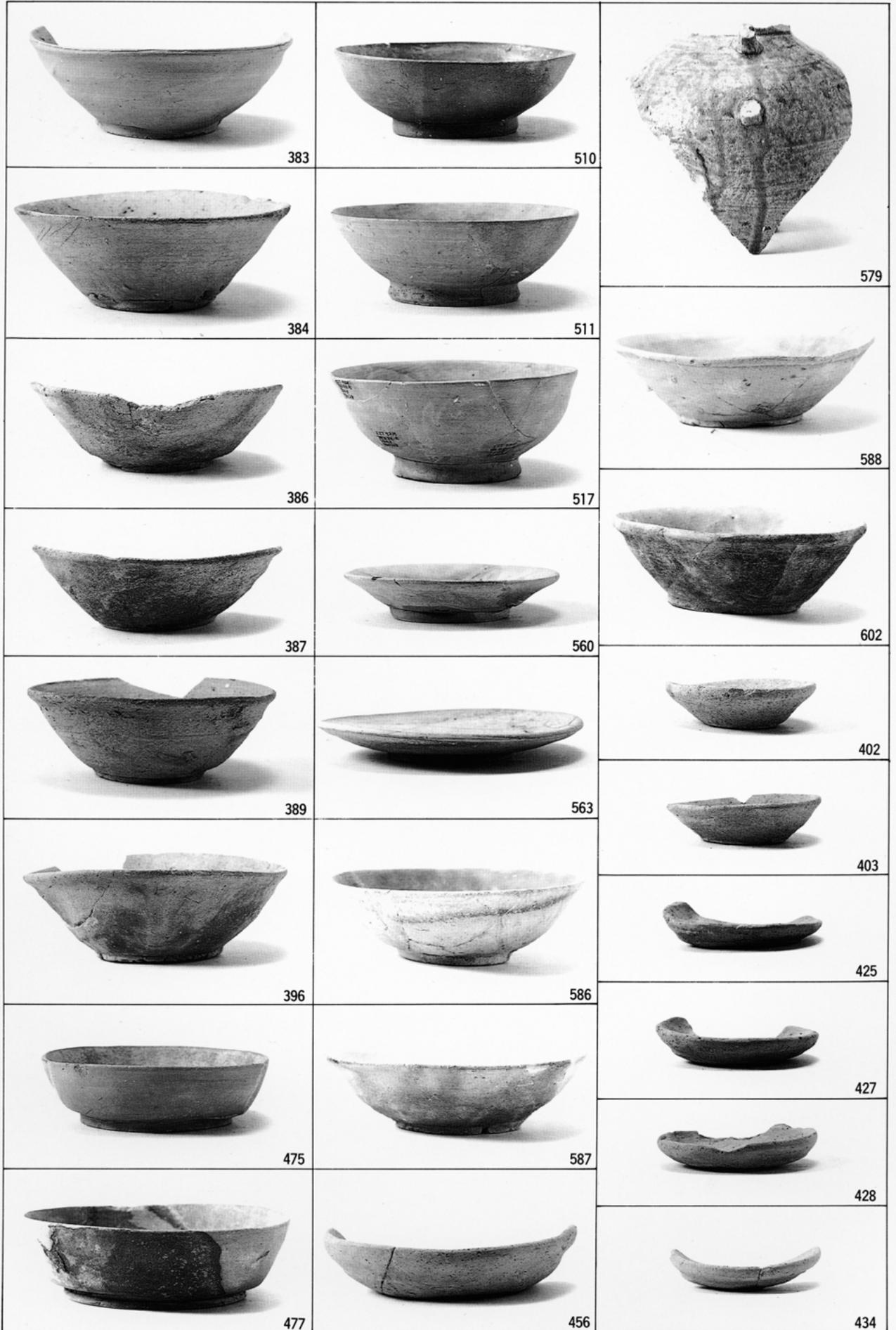
8. 93G区 SE10

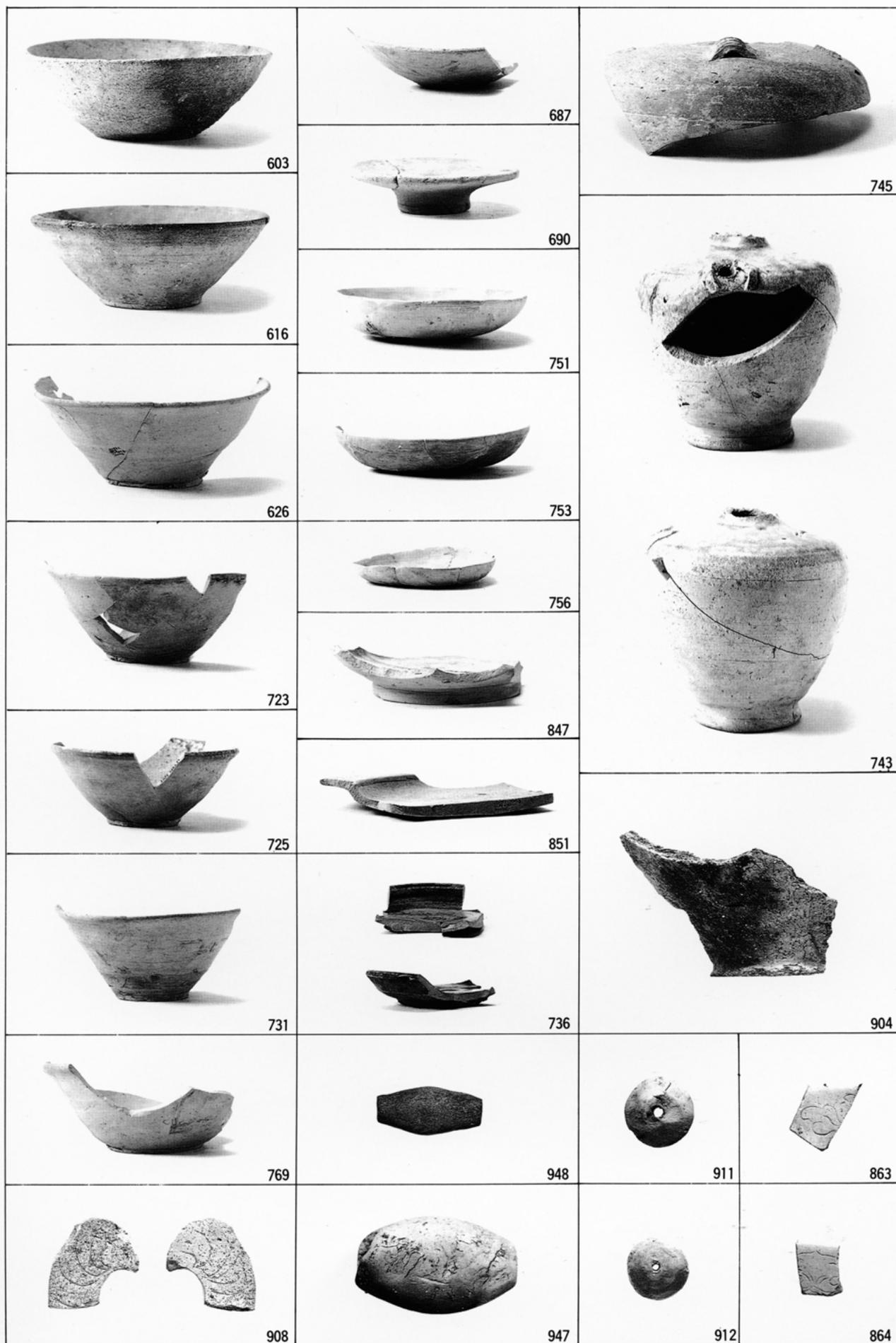








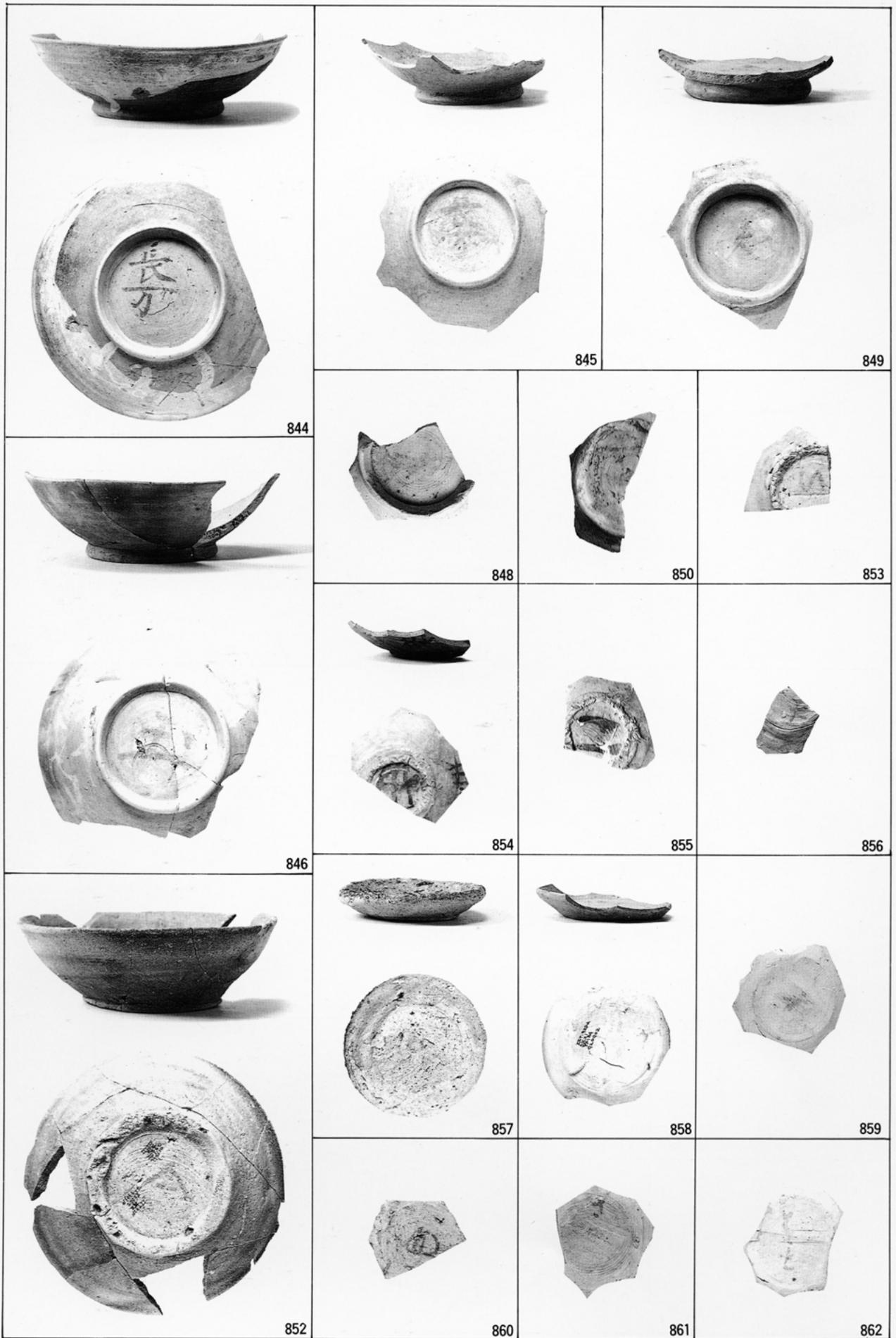


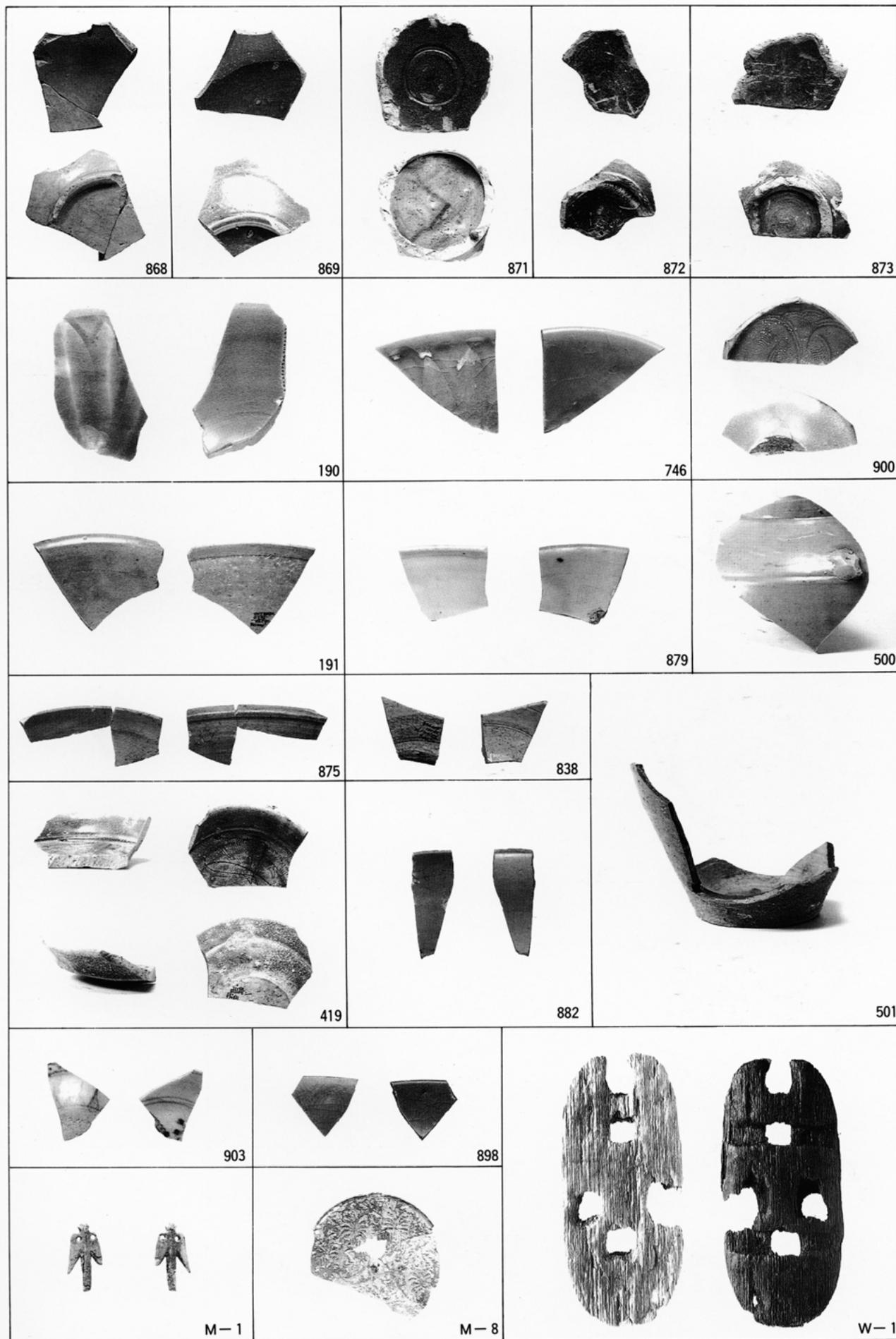


図版17

出土遺物

: 墨書陶器

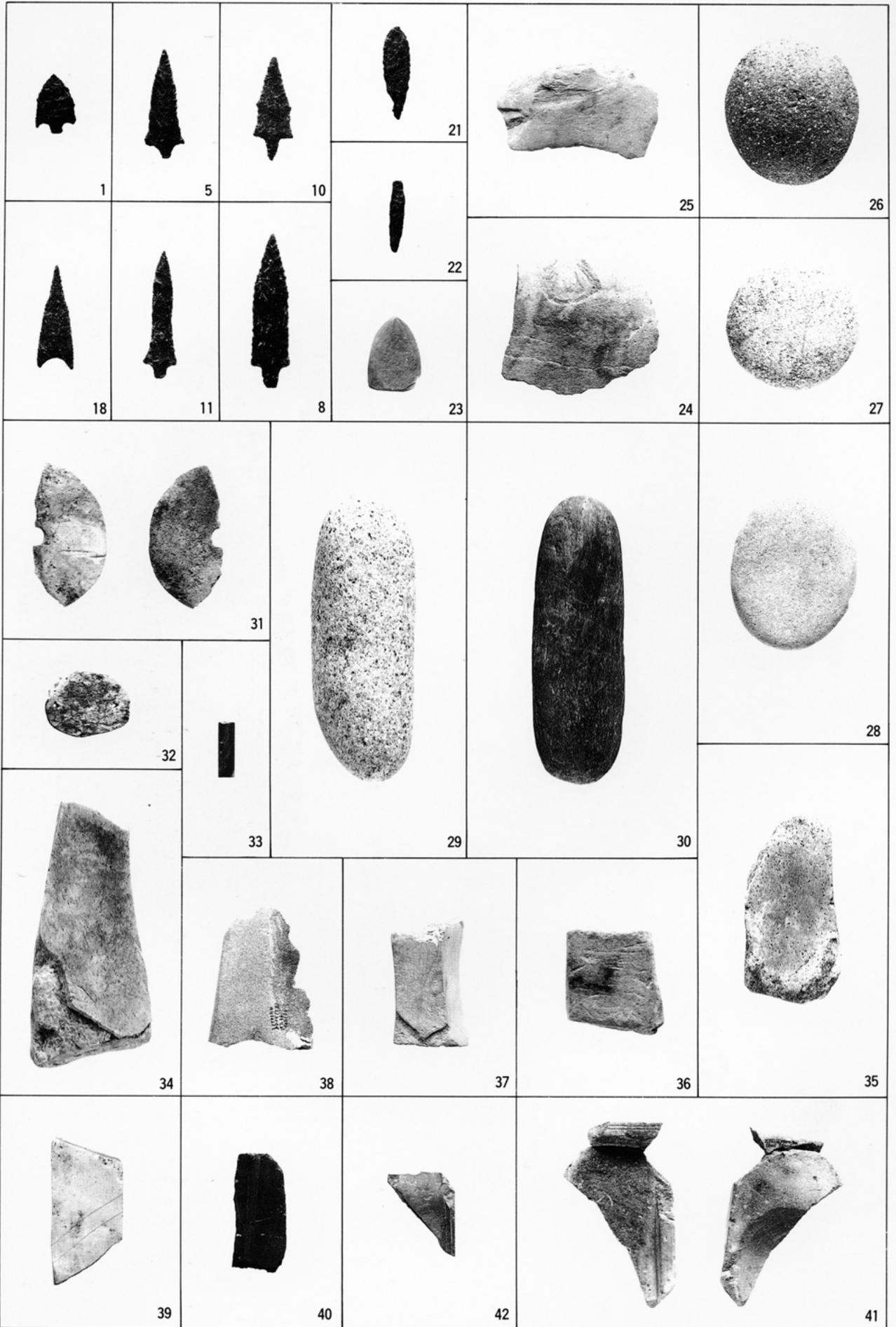


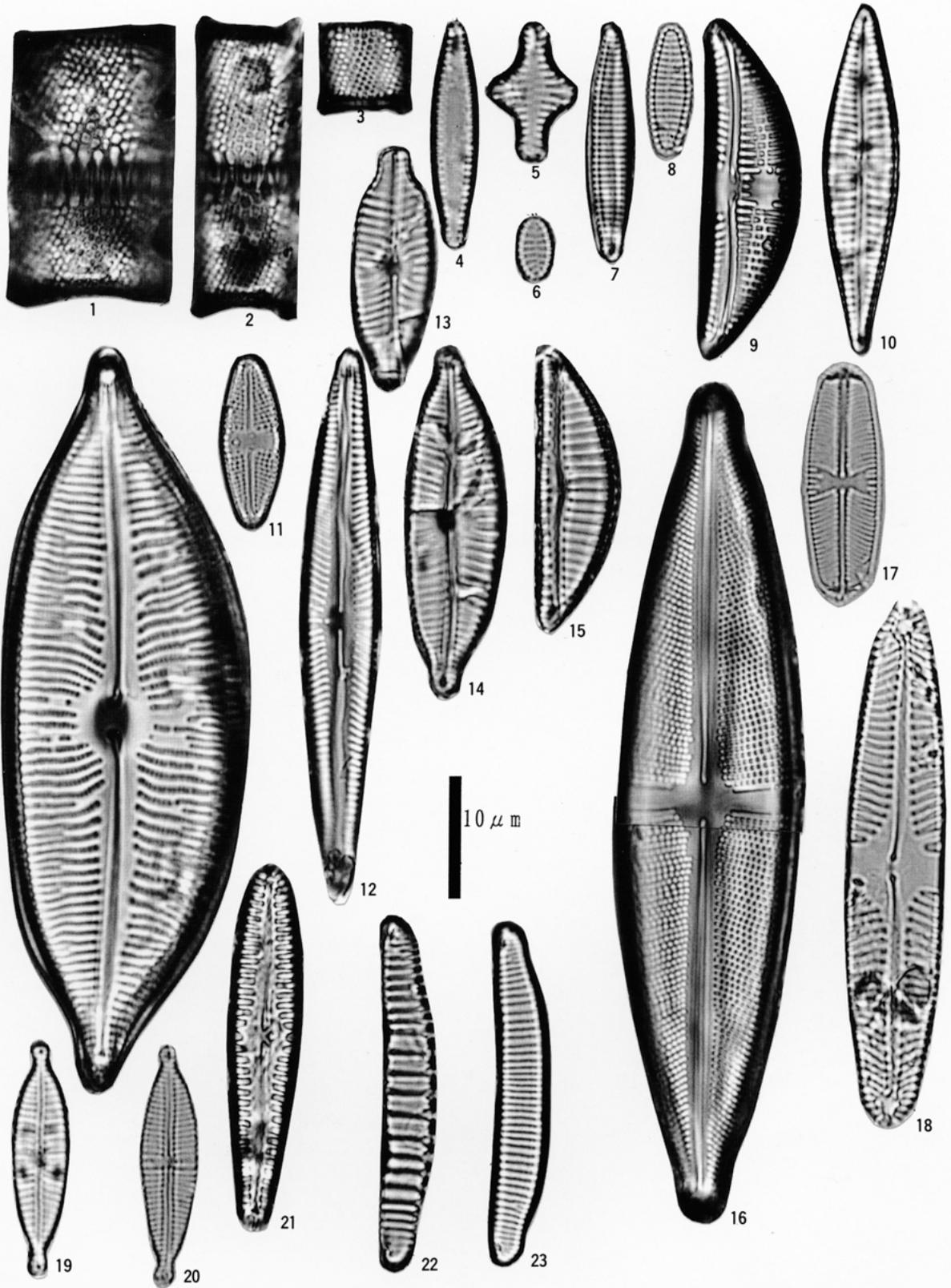


図版19

出土遺物

: 石製品



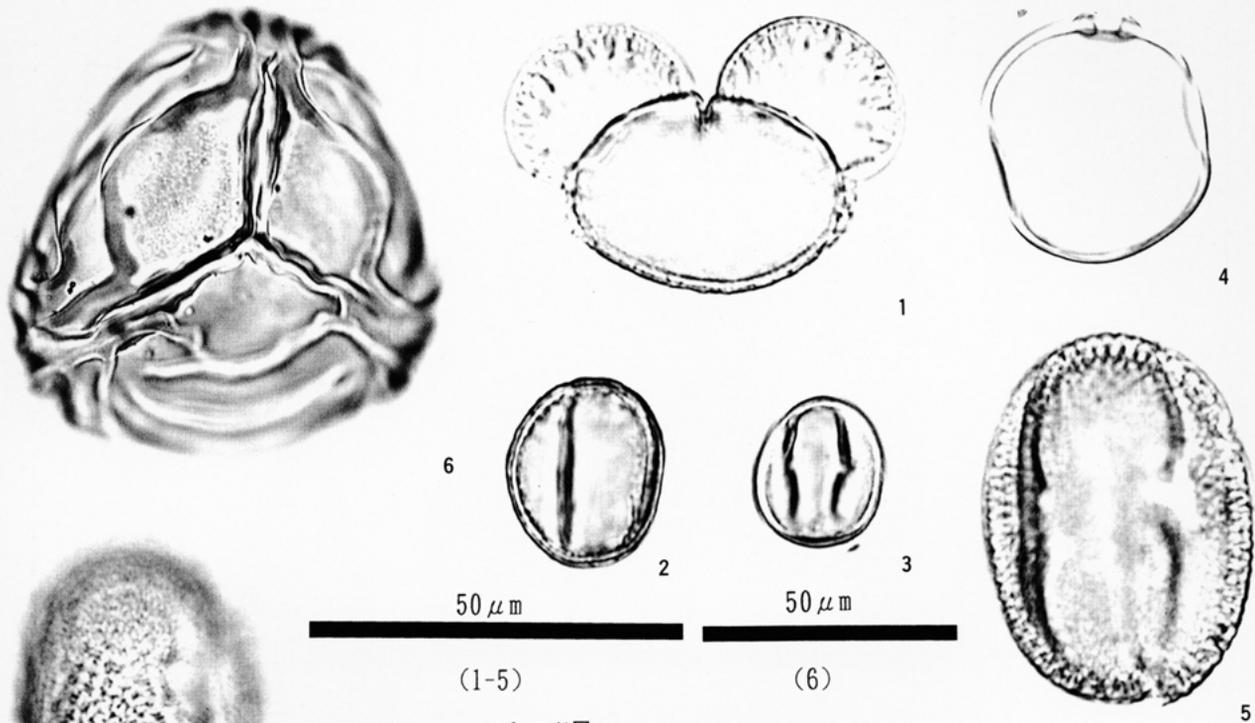


1. *Aulacoseira italica* var. *valida* (Grun.) Simonsen
2. *Aulacoseira italica* var. *valida* (Grun.) Simonsen
3. *Aulacoseira ambigua* (Grun.) Simonsen
4. *Fragilaria brevistriata* Grunow
5. *Fragilaria construens* (Ehr.) Grunow
6. *Fragilaria construens* fo. *venter* (Ehr.) Husted
7. *Fragilaria exigua* Grunow
8. *Fragilaria exigua* Grunow

9. *Amphora ovalis* var. *affinis* (Kuetz.) V. Heurck
10. *Gomphonema gracile* Ehrenberg
11. *Navicula mutica* Kuetzing
12. *Cymbella amphioxys* (Kuetz.) Grunow
13. *Navicula elginensis* var. *neglecta* (Krass.) Patrick
14. *Cymbella naviculiformis* Auerswald
15. *Cymbella silesiaca* Bleisch
16. *Stauroneis phoenicenteron* var. *hattori* Tsumura

17. *Navicula pupula* Kuetzing
18. *Pinnularia gibba* Husted
19. *Gomphonema parvulum* Kuetzing
20. *Gomphonema parvulum* Kuetzing
21. *Gomphonema sumatrense* Fricke
22. *Eunotia biserialoides* H. Kobayasi
23. *Eunotia pectinalis* var. *minor* (Kuetz.) Rabenhorst
24. *Cymbella cuspidata* Kuetzing

花粉化石



- 1. マツ属
- 2. コナラ属コナラ亜属
- 3. コナラ属アカガシ亜属
- 4. イネ科
- 5. ソバ属
- 6. ミズワラビ属

植物珪酸体



- 1. タケ亜科短細胞珪酸体
- 2. ヨシ属短細胞珪酸体
- 3. コブナグサ属短細胞珪酸体
- 4. ススキ属短細胞珪酸体
- 5. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体
- 6. イネ属機動細胞珪酸体
- 7. イネ属機動細胞珪酸体
- 8. ヨシ属機動細胞珪酸体

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	たどころいせき							
書名	田所遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第71集							
編著者名	小澤一弘、伊藤秀紀、尾崎和美、鬼頭剛、永井智子、服部俊之、堀木真美子、増澤徹、森勇一							
編集機関	財団法人愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL0567-67-4163							
発行年月日	西暦 1997年8月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たどころ 田 所	あいちけんいちのみやし 愛知県一宮市 おおぎたどころ 大字田所  あいちけんはぐりぐん 愛知県葉栗郡 きそがわちよう 木曾川町 おおぎくろだ 大字黒田	23203	23381	35°20'56"	136°47'49"	199204~ 199602	24272m <sup>2</sup>	東海北陸 自動車道 建設に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な 時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
田 所	集落	古代	竪穴住居・土坑 水田・溝		須恵器、灰釉陶器、 銭貨		富壽神寶	
	集落	中世	大溝・堂 集石・土坑 井戸 水田		灰釉系陶器、下駄 貿易陶磁器			

---

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第71集

田 所 遺 跡

1997年8月29日

編集・発行 財団法人愛知県埋蔵文化財センター

印 刷 マツモト印刷株式会社

---